

復元：シーボルト『NIPPON』の配本

宮崎 克則

The restoration of Siebold 'NIPPON'

Katsunori MIYAZAKI

九州大学総合研究博物館：〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1
The Kyushu University Museum : Hakozaki 6-10-1, Higashi-ku, Fukuoka, 812-8581, Japan

はじめに

『NIPPON』はオランダ語で刊行される約束であったが⁽¹⁾、ドイツ生まれのシーボルトはドイツ語で出した。オランダ語版・フランス語版・ロシア語版も出るが、1冊のみで中止になったり、部分訳となっている。

ドイツ語版『NIPPON』の初版本⁽²⁾には、「VANGELDER」「VG」のWatermark（透かし）がある。当時のオランダで定評のあったファン・ヘルダー社製の紙が使用されたことによる。

初版本を所蔵する国内の機関として、長崎のシーボルト記念館・長崎県立図書館をはじめ、福岡県立図書館・九州大学附属図書館医学分館・神戸市立博物館・近畿大学図書館・天理大学附属天理図書館・慶応義塾大学図書館三田メディアセンター・東京大学総合図書館・東洋文庫・永青文庫がある（現在までの調査範囲、イギリスではオックスフォード大学ボドリアン図書館〈Japanese Library〉・大英図書館・ケンブリッジ大学図書館・王立地理学協会が初版本を所蔵している）。

それらの初版本は一つとして同じものではなく、永青文庫本のような豪華製本もあれば、簡易製本もある。また本文編を3冊に、図版編を2冊に分けて製本したもの、章節ごとに本文の後に関連する図版を入れて製本したものなどある。

こうした違いが起こったのは、『NIPPON』が20年以上の長期にわたって分冊で刊行されたことによる。しかもシーボルトは全体の目次をつけなかったし、通しのページ数もつけなかったので、購入者たちは思い思いに本文・図版を整理し製本したのである。

現存する多くの初版本を校合して出された覆刻本として、1930-31年のベルリン日本学会（編者：トラウツ）による『NIPPON』、1975年の講談社『NIPPON』、そして邦訳の雄松堂『シーボルト日本』（1978年）がある。これらの覆刻本によって、私たちは容易に『NIPPON』の全体を見ることができるようになったが、もともと『NIPPON』がどのように配本されたのかを知ることはできない。

本稿は、九州大学医学部法医学教室が大正15年に3000円で購入した（出所は不明）未製本の『NIPPON』に残された配本時の目録（「INHALT」）から、どの本文と図版が組み合わせられて配本されたのかを復元する。これによって、『NIPPON』の執筆・出版に対するシーボルトの構想をより深く理解できると考える。

1. 「INHALT」 と図版の番号

「INHALT」は配本の内容を示す目録であるから、例えば第1回配本でどの文章・図版が配られたかを知ることができる。しかしこれは、『NIPPON』全体の目次ではないので、製本する時に捨てられた場合も多い。

九大本には、1832年⁽³⁾の第1回配本から1851年の13回配本の「INHALT」が本文編に挿入されて残っている。13点の「INHALT」の覆刻は藤田喜六氏によってなされ⁽⁴⁾、筆者も前稿で独文から日本語への翻訳を行った⁽⁵⁾。「INHALT」の例を示すと、第1回配本の「INHALT」には「NIPPON I」の「B」として、次のように記されている。

第1目録（「INHALT」）

第1部門 NIPPON I

日本における数学的・自然学的地理学

（中略）

B. 日本のオランダ商館である平戸・出島

平戸の昔のオランダ人の光景 ページ3.Tab. I

日本におけるオランダの商業地である出島の図 ページ6.Tab. II

これは、「NIPPON I」 「B」のタイトル「日本のオランダ商館である平戸・出島」の本文として、「平戸の昔のオランダ人の光景」が3ページから始まり、次の「日本におけるオランダの商業地である出島の図」が6ページから始まること、これに関連する図版として「Tab. I」「Tab. II」の2枚があることを示している。その図版を掲載する。



FACTORY DER NEDERLANDERS OP FIRATO
Factorie der Niederländer auf Firato
1609-1641

左上に「NIPPON. I.」、右上に「TAB. I.」、右下部に「b.」とある。つまり、「INHALT」にあったように、これが「NIPPON I」の図版I.bであることを示している。なかには誤りもある。次の出島図は平戸図に続くものであるが、中央下部に「a.」とある。本来は「b」とすべきであるが、図版は間違っている。誰が修正したのか不明ながら、この図版には「b」と手書きで書き込まれている。

〔拡大図〕

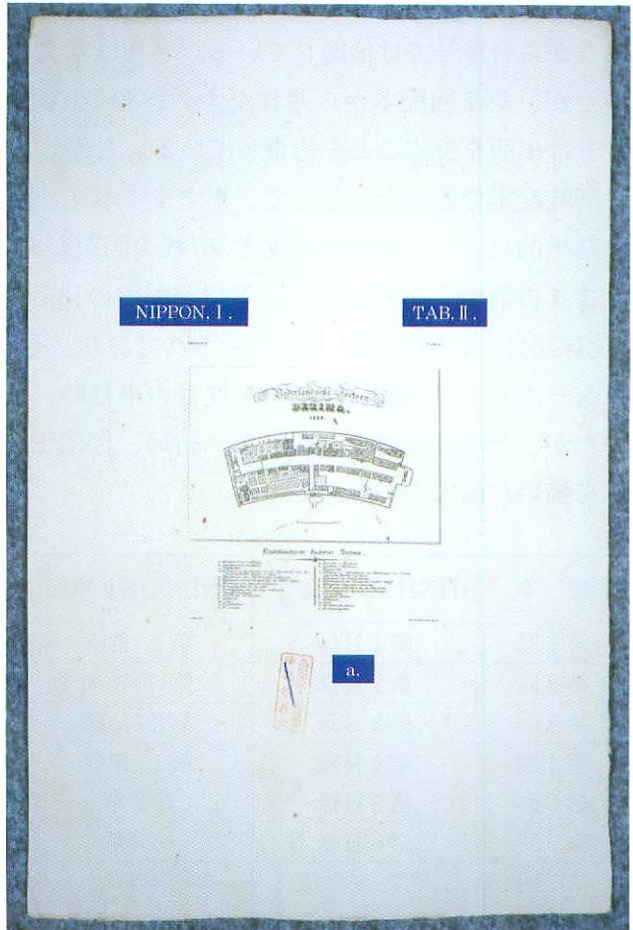


図版に誤りがある場合も、逆に「INHALT」に誤りがある場合もあり、以下では(*)印をつけて訂正している。「INHALT」と図版を対応させるため、「INHALT」の日本語訳を付した後に図版を並べている。また図版には雄松堂『シーボルト日本』(もっとも入手しやすい)と比較できるように、その通し番号を付けている。

川原慶賀などによって描かれた原画をもとに、石版画に描いたのはオランダの画家たちだった。図版の下には彼らの名前が極めて小さな文字で書き込まれている。その整理はまだ完了していないが、平戸図では左下に

「Juxta pict antiq in lap del. W.van.Groenenoud」とある。また出島図では右下に「Henri Philipe.Hidemans in lap del」、左下に「A Manuel del」とある。

図版には色つき・色なし版があるが、色つき版の九大本はすべてに彩色されているわけではなく、口絵・付図を含めた367枚のうち47枚に彩色が施されている。手彩色であったから、色つき版はかなり高価であった⁽⁶⁾。また図版の描き方もいろいろであり、平戸図のように陰影を付したもの、出島図のような線画、或いは別の薄い紙に印刷して貼り付けたものなどある⁽⁷⁾。



2. 『NIPPON』の配本事情

「INHALT」に記された13回の配本内容をまとめると、下の表のようになる。第1回配本の時期は内表紙に1832年とある。なお、1833年に入ってから第1回配本が配られたともいう。また、第2回は1833年秋頃、第3回が1834年1月、第4回が1834年2月の配本という⁽⁸⁾。

『NIPPON』20分冊の刊行は、シーボルトの整理がついた部分から出された。I～VII章のうち、第1回配本ではI・III章の一部が出た。図版の枚数は平均すると1分冊につき17～20枚であり、当然ながら合併号では倍増している。当初は本文に関連する図版を添えて、順調なペースで出されていたが、第7回配本から遅れだす。1839年10月の日付のある報告が「INHALT」にあり、シーボルトは出版を急ぐことを約束している。しかし、その後も合併号が登場し、しかも第8・9回配本は同時配本であった。そして、ますます本文と図版の対応は崩れていく。

結果的に、I～VII章の本文と367枚の図版がある『NIPPON』となったが、文章が途中で途切れたままの箇所もあり、また、第13回配本の1851年以降も「蝦夷・千島・樺太および黒竜江地方」・「琉球諸島」に関する本文が刊行されており、その時期は1858～59年頃といわれる⁽⁹⁾。

シーボルトは1859～62年の2度目の来日時、『NIPPON』執筆のための原稿・資料を携えて来ていたが、その部分が出なかった。結局、『NIPPON』は「未完の大著」となったが、1800年代の日本を描いた最大の書である。

配本	「INHALT」番号	『NIPPON』章節	図版枚数	内色つき 図版枚数	備考
第1回	第1目録	第I・III章	16枚+口絵	2枚	1832年(内表紙)
第2回	第2目録	第VI・VII章	17枚	2枚	
第3回	第3目録	第II・V章	17枚	0枚	
第4回	第4目録	第I・IV章	11枚	4枚	
第5回	第5目録	第II章	17枚	0枚	
第6回	第6目録	第II章	21枚	0枚	
第7回	第7.8目録	第VII章	41枚	6枚	1839年10月(シーボルト報告)
第8回	第9.10目録	第II・VII章	40枚	15枚	
第9回	第11.12目録	第II・III章	35枚+付図	4枚	
第10回	第13.14目録	第III・V章	40枚	8枚	
第11回	第15目録	第II・IV章	20枚	0枚	
第12回	第16目録	第II・III・VI章	20枚	2枚	
第13回	第17.18.19.20目録	第I・V・VI・VII章	66枚	4枚	1851年9月(シーボルト報告)
(不明図版)			4枚	0枚	

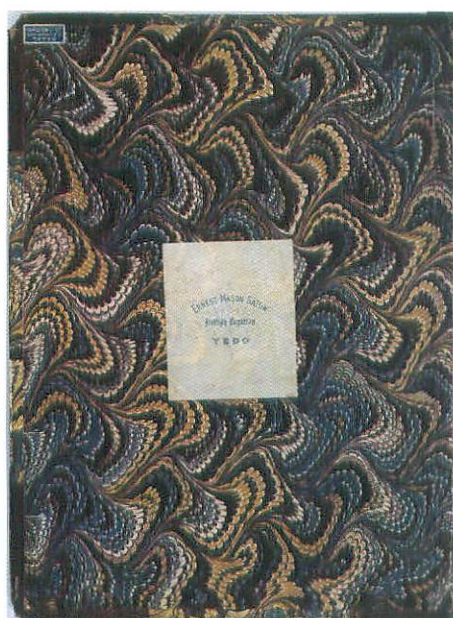
〔注〕

(1) マティ・フォラー他『シーボルトと日本』、Hotei 出版、Leiden、2000年

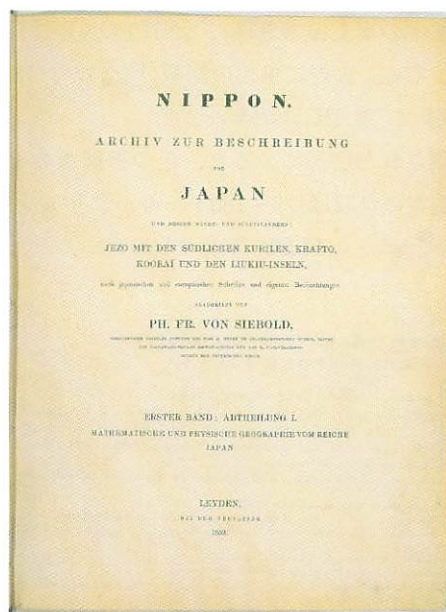
(2) 初版本にも2種類ある。シーボルトによって発行されたものと、1866年のシーボルト死去後に『NIPPON』の在庫を買い取ったロンドンの古書店主、クオリッチによって販売されたものである。クオリッチ本にも当然ながら同じWatermarkがあるが、彼は『NIPPON』の在庫を整理し、1852年の刊記を付した内表紙と、英語による3ページの目次(1869年の日付あり)を付して販売した。この内表紙・目次はクオリッチが追加したものであり、紙質も明らかに異なっている(内表紙にある1852年の刊記は、クオリッチによる認識にすぎない。目次のないクオリッチ本も存在するようであるが、詳細は今後の課題)。

以下、明らかなクオリッチ本である東洋文庫本の内表紙などを掲載する。もともとイギリスの外交官である

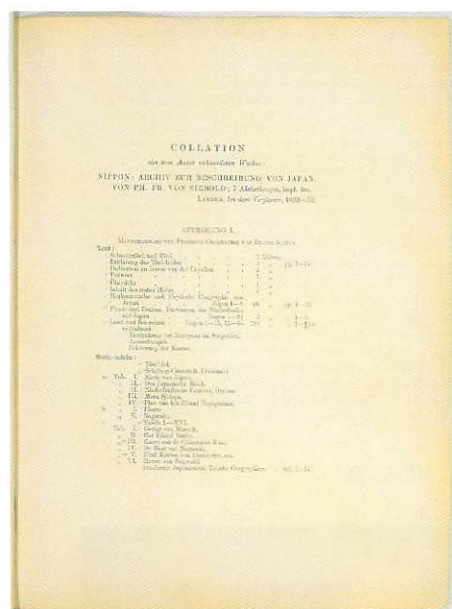
アーネスト・サトウの所蔵本であった。



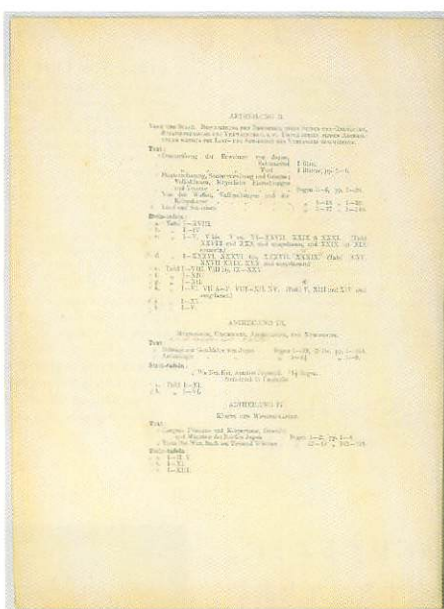
〔見返し、サトウ蔵書〕



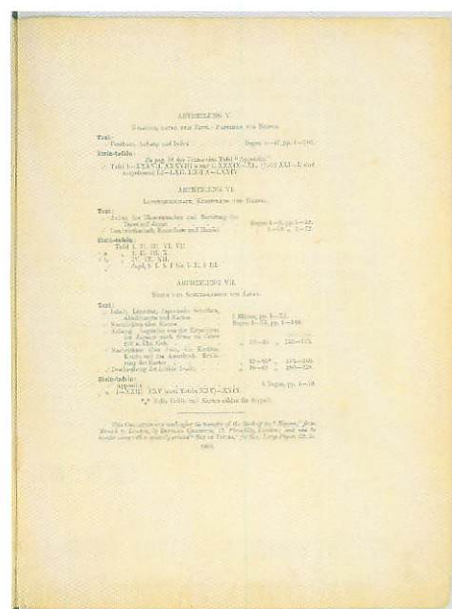
〔内表紙〕



〔目次 1〕



〔目次 2〕



〔目次 3〕

- (3) 『NIPPON』第1回配本の本文編の内表紙には「1832」とあり、序文にも「1832年2月 ライデン」とある。しかし、シーボルトが内表紙で「勲爵士」を名乗っていることから、『NIPPON』の第1回配本は1833年のことであると見られている。「勲爵士」の称号を受けたのは1832年11月30日のことであり、ライデンのオランダ文学協会に第1回配本の『NIPPON』を謹呈したのが1833年11月26日であることなどから、第1回配本の刊行は1833年に入ってからのことであるという（マティ・フォラー他『シーボルトと日本』、Hotei 出版、Leiden、2000年）。
- (4) 藤田喜六「NIPPON の書誌学的検討」（『シーボルト『日本』の研究と解説』、講談社、1977年）
- (5) 宮崎克則「シーボルト『NIPPON』の書誌学検討—『NIPPON』の透かしと配本状況—」（『九州大学総合研究博物館研究報告』2号、2004年）
- (6) 大英図書館が所蔵する『NIPPON』は、クオリッチ本でなくシーボルトが分冊で出した初版本であり、本文

【第1回配本】

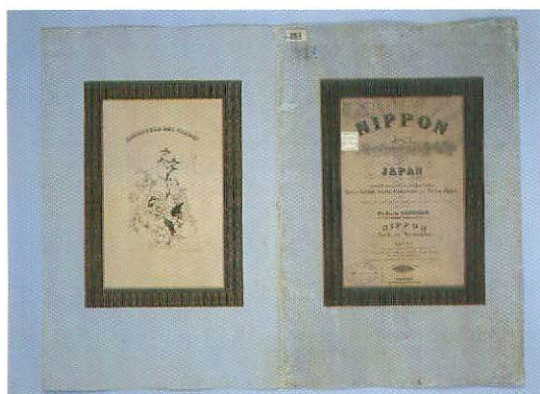
第1回配本の本文編には、内表紙があり、1832年にオランダ国王の庇護を受けて発行したこと、発行人はシーボルト自身であること、アムステルダムのJ. ミュラー社とライデンのC. C. ファン・デル・フックにより印刷されたことが記されている。

本文編に挿入された「INHALT」によると、本文の内容に沿った図版16枚が添えられていた。その他に、『NIPPON』全体を象徴する口絵と序文（両面に印刷）もこの時に配られたと思われる。口絵について、色なしの縮刷版では版の大きさの関係から別版を用意せねばならず、線画の口絵が掲載された。ここでは東洋文庫本を掲載している。

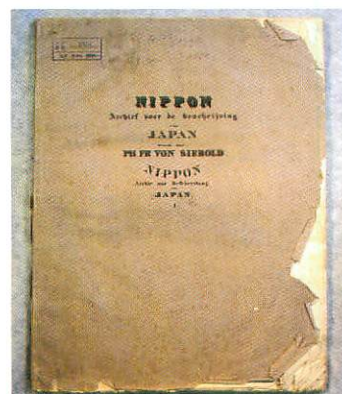
第1回配本では、章節編成の「NIPPON I」にあたる日本の地理情報やヨーロッパ人による日本発見史、および平戸・出島の商館について記述するとともに、「NIPPON III」の日本史について、神話から説き起こしている。彩色のある図版は、考古遺物を描いた2枚だけである。

第1回配本の特徴は、日本を含めた極東地域を概観できる「日本境界略図」を配ったことであろう。この原図は、幕府天文方の高橋景保が文化6年（1809）に銅版で刊行したものであり、これを入手したシーボルトは石版画に描き直した。シーボルトによるアレンジが施されており、「朝鮮海」は「Japansche Zee（日本海）」へ、カラフトが島であることを発見した間宮林蔵を記念して「St. Mamia (Seto) 1808」と入れている。海野一隆氏（『シーボルトと『日本境界略図』、『日本洋学史の研究』V、創元社、1979年）が指摘されたように、『NIPPON』のなかの「日本境界略図」には異版があるので、彩色の有無とともに明らかに版の異なる福岡県立図書館本の図も掲載しておこう。

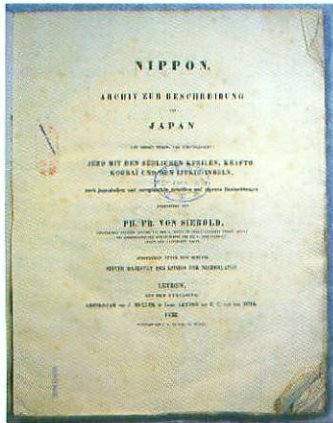
なお、高橋景保は「日本境界略図」と世界図の「新鑄総界全図」をセットで出していたが、シーボルトが入手したのは「日本境界略図」のみであった。今もライデン大学図書館にシーボルト・コレクションとして所蔵されている。ただし、図を包む帙には「日本絵畵略図」の題箋がある。原図に篆書で書かれていた「境界」の読み誤りであり、「ニホン エ シン リョウ ツ」と読まれた。誤った読み方はそのまま『NIPPON』に引き継がれ「NIP-PON JE SIN RJOO TSU」のタイトルが付されている。（助手の郭成章が石版に刷り、1845年に公刊された『日本図書目録』には「58 日本境界略図」とある。この目録を切り取った紙も題箋として貼られているが、それ以前は「日本絵畵略図」と読まれていた。郭成章によって正確に読まれたのであるが、1996年刊『オランダ国内所蔵明治以前日本関係コレクション目録』（アムステルダム）では、ふたたび「日本絵畵略図」[NIHON ESHIN RYAKUZU]となっている）。



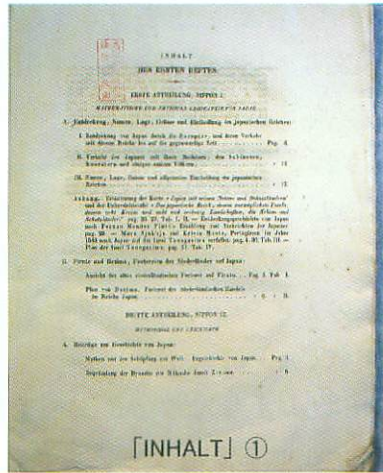
図版 仮表紙(1)



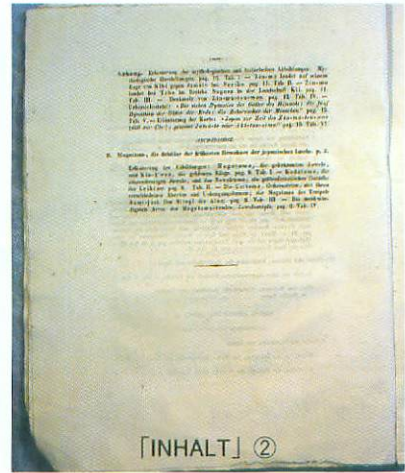
本文 仮表紙(1)



本文 内表紙



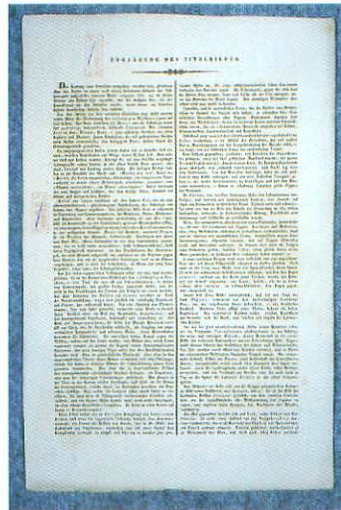
[INHALT] ①



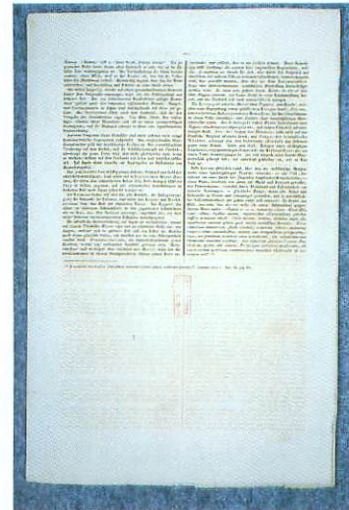
[INHALT] ②



口 絵



序文 ①



序文 ②

〔第1目録〕 (「INHALT」)

NIPPON I

日本における数学的・自然学的地理学

A. 日本国の発見, 名前, 位置, 大きさ, そして分類

I. ヨーロッパ人による日本の発見, そしてその人々と国々の交流から現在にいたるまで ページ 3

II. 日本人と中国や韓国やいくつかの民族などの隣国との交流 ページ 13

III. 日本国の名前, 位置, 大きさ, そして一般的な分類 ページ 17



東洋文庫本の口絵

付録 地図の解説「日本の近隣諸国と保護国」そして洞察「日本という非常に優れた島々, その8つの領域と68の地方, つまり近隣および保護国」ページ23. 27.Tab. I. II—フェルナン・メンデス・ピントの物語と日本の記録による日本発見史 ページ28—1543年に種子島に漂着したポルトガル人ムラ・シュクシャとキリシタ・モウタ ページ4. 30.Tab. III—種子島の図ページ31.Tab. IV

(1) 日本の近隣諸国と保護国



NIPPON I TAB. I

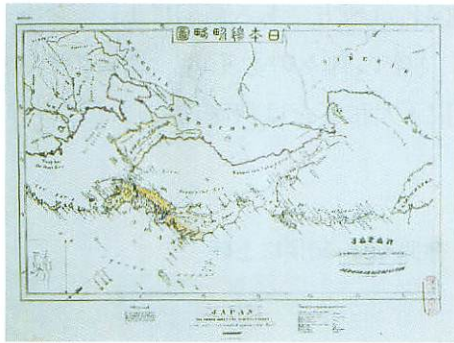
(2) 大日本



NIPPON I TAB. II.a

(3) ムラーシャクシャとクリスターモウタ

異版の「日本境界略図」



福岡県立図書館所蔵本



NIPPON I TAB. III

(4) 種子島の図



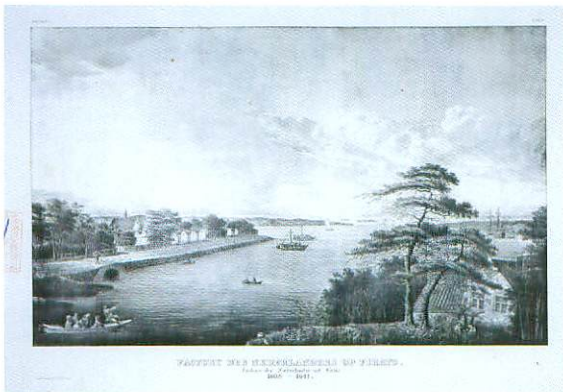
NIPPON I TAB. IV.a

B. 日本のオランダ商館である平戸・出島

平戸の昔のオランダ商館の光景 ページ 3 .Tab. I

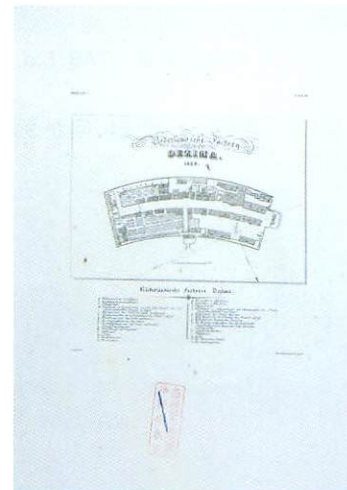
日本におけるオランダの商業地である出島の図 ページ 6 .Tab. II

(5) 平戸の昔のオランダ商館の光景



NIPPON I TAB. I. b

(6) 出島の図(平面図)



NIPPON I TAB. II. a (* b)

(5) 異版 平戸のオランダ人の商館



福岡県立図書館所蔵本

NIPPON III

神話と歴史

A. 日本の歴史についての論文

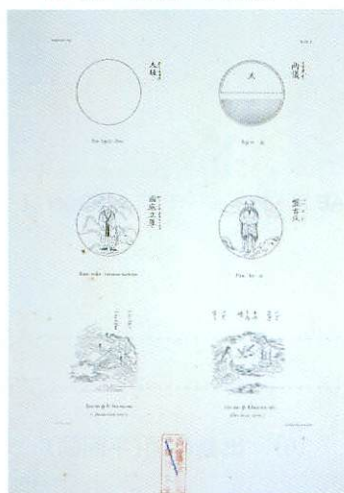
世界の創造の神話 日本における先史時代

..... ページ 3

神武の間の帝という王家の設立 ... ページ 6

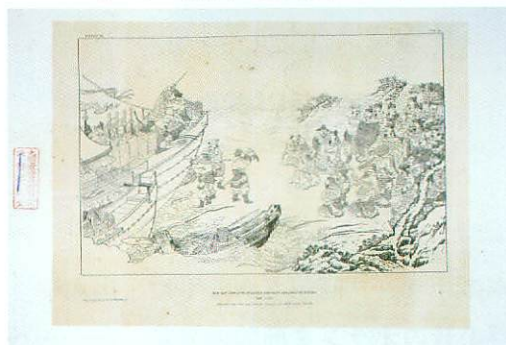
付録 神話や歴史の図版の解説：神話の描写 ページ10.Tab. I—神武天皇が吉備から大和への移動中、難波付近で上陸 ページ11.Tab. II—神武天皇が紀伊国名草地方にある鳥羽に上陸 ページ11.Tab. III—神武天皇の記念碑 ページ12.Tab. IV—洞察：「空の神々の七王朝，地表の神々の五王朝，人々の支配者」 ページ12.Tab. V—地図の説明：「大和または秋津島と呼ばれる神武天皇時代（紀元前6世紀）の日本」 ページ13.Tab. VI

(211) 対極・両儀ほか



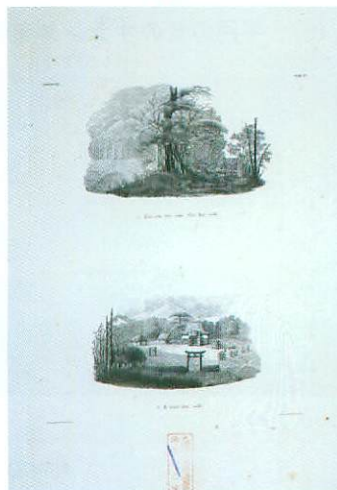
NIPPON III TAB. I. a

(212) 神武天皇 紀伊に上陸



NIPPON III TAB. II. a

(214) 神武天皇の記念碑



NIPPON III TAB. IV. a

(213) 吉備から難波に向かう海上の神武天皇



NIPPON III TAB. III. a

(215) 人皇



NIPPON III TAB.V.a

(216) 秋津島という神武天皇時代の日本



NIPPON III TAB.VI.a

考古学

B. 勾玉

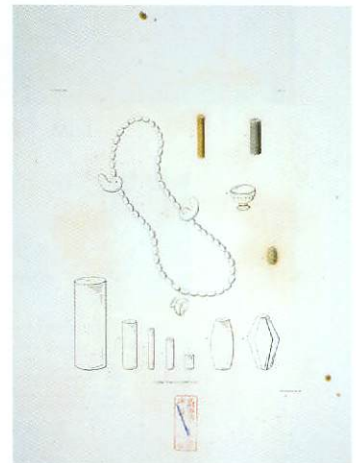
図版の説明：勾玉，つまり曲がった宝石と金環，つまり金の輪 ページ8.Tab.I—管玉，つまり管状の宝石と，ノロクマ，つまり琉球人の宗教用具 ページ8.Tab.II—ウシタマ，つまり雄牛でいろいろな変種と移動形態がある。住吉神社の勾玉。アイヌのシトギ ページ9.Tab.III—奇妙な種類の勾玉壺，つまり宝石をいれる壺 ページ9.Tab.IV

(222) 勾玉・金環



NIPPON III TAB.I.b

(223) 管玉ほか



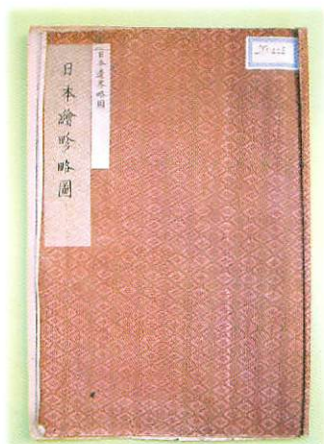
NIPPON III TAB.II.a (*b)

高橋景保の「日本境界略図」



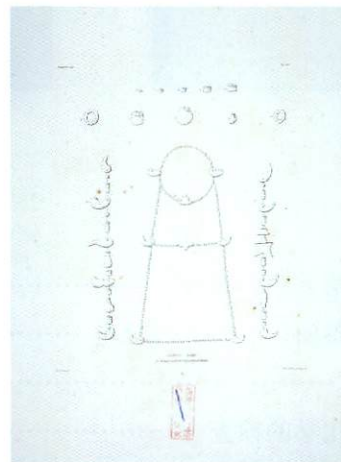
(ライデン大学図書館蔵)

「日本境界略図」の帙



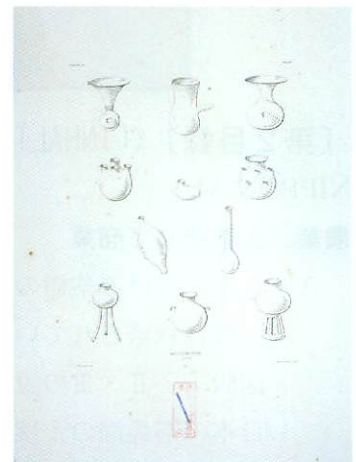
(ライデン大学図書館蔵)

(224) 白玉ほか



NIPPON III TAB.III.b

(225) 曲玉壺

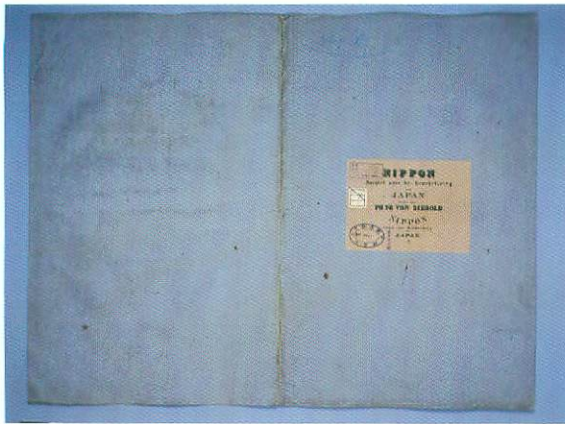


NIPPON III TAB.IV.b

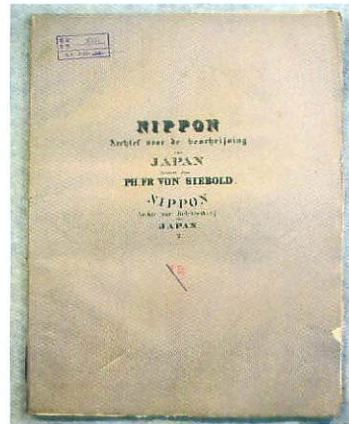
【第2回配本】

第2回配本では、「NIPPON VI」の茶と「NIPPON VII」の高麗（朝鮮）についての本文と図版17枚が出された。シーボルトは茶を植物学の研究対象として、また重要な貿易品として苦心してジャワのバタビアに送っていた。また、彼が住む出島の近くには、朝鮮との外交・貿易を行っている対馬藩の屋敷があり、日本に漂着した朝鮮人が一時的に収容されていた。シーボルトはこの屋敷を訪れ、漂着した朝鮮人に面会して直接に朝鮮語や風俗習慣に関する情報を聞き出していた。

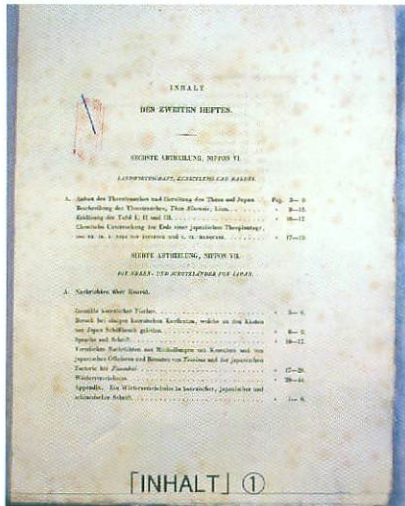
「INHALT」には、茶に関する図版が配本されたことを示す「Tab」の記載はないが、これは記述漏れと思われる。3枚の茶に関する図版は第2回に配られたと考える。



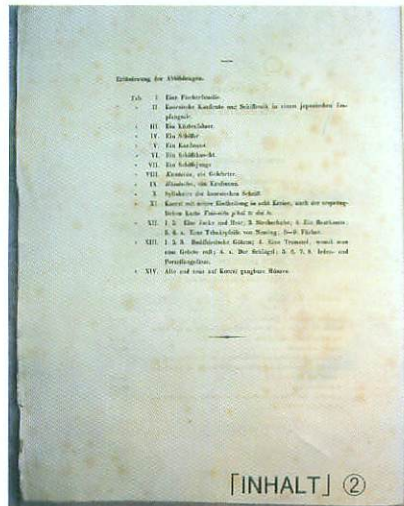
図版 表紙(2)



本文 表紙(2)



「INHALT」①



「INHALT」②

【第2目録】（「INHALT」）

NIPPON VI

農業。工業そして商業

- A. 日本における茶樹の栽培と茶の調合 ページ 3 ~ 9
- 一般に栽培されている茶樹についての記述 ページ 9 ~ 15
- 図版 I・II・IIIの説明 ページ 16 ~ 17
- 日本の茶農園の土壌の化学的検査 ページ 17 ~ 19

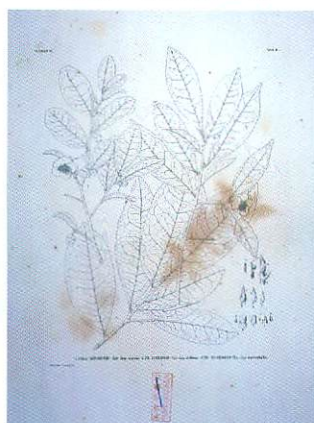
TH. FR. L. NEES VON ESENBECK と L. CL. MARQUART による

(326) 茶の木と実



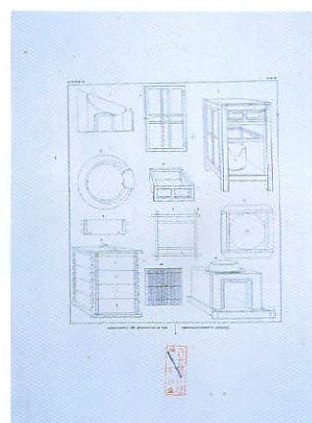
NIPPON VI TAB. I.a

(327) 茶の葉と花



NIPPON VI TAB. II.a

(328) 製茶器



NIPPON VI TAB. III.a

NIPPON VII

日本の近隣および保護国

A. 高麗の情報

高麗漁夫の絵	ページ 3 ~ 6
日本の海岸に漂着した高麗商人たちへの訪問	ページ 6 ~ 9
言葉と文字	ページ 10 ~ 17
高麗人、対馬の日本の武士および役人、釜山の日本人商館からの雑多な情報	ページ 17 ~ 28
用語索引	ページ 29 ~ 44
補遺. 高麗語・日本語・中国語の用語索引	ページ 1 ~ 8

図版の解説

Tab. I. 漁夫の家族

- ♪ II. 日本の接待場所における高麗商人と船員
- ♪ III. 沿岸航行船
- ♪ IV. 船頭
- ♪ V. 商人
- ♪ VI. 水夫
- ♪ VII. 水夫見習い
- ♪ VIII. 金致潤, 彼は学者である
- ♪ IX. Hosatsiem, 彼は商人である
- ♪ X. 高麗文字の字音表
- ♪ XI. 8区分された高麗, 原図には「朝鮮八道之図」とある
- ♪ XII. 1. 2. 上着とズボン; 3. わらじ; 4. 髪櫛; 5. 5. a. 真鍮の煙管; 6-9. 仕切り
- ♪ XIII. 1. 2. 3. 仏教の偶像; 4. 太鼓, これを用いて祈る; 4. a. ばち;
5. 6. 7. 8. 土製や磁器製の容器
- ♪ XIV. 新旧の高麗の通貨

(337) 朝鮮 漁夫の家族



NIPPON VII TAB. I.a

(338) 朝鮮 商人と船員



NIPPON VII TAB. II.a

(339) 朝鮮 沿岸航行船



NIPPON VII TAB. III.a

(340) 朝鮮 船頭



NIPPON VII TAB. IV.a

(341) 朝鮮 商人



NIPPON VII TAB. V.a

(342) 朝鮮 水夫



NIPPON VII TAB. VI.a

(343) 朝鮮 水夫見習い



NIPPON VII TAB. VII.a

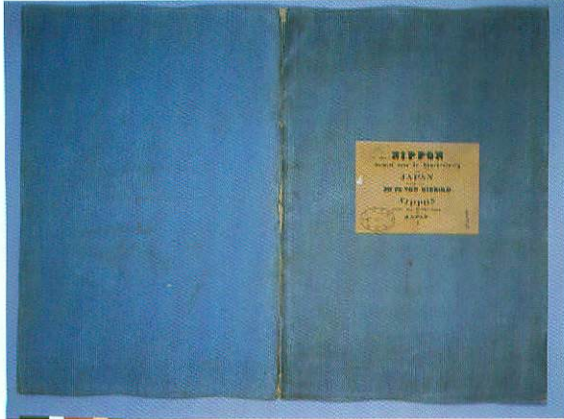
(344) 朝鮮 金致潤



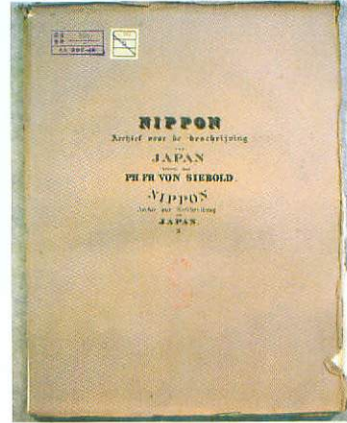
NIPPON VII TAB. VIII.a

【第3回配本】

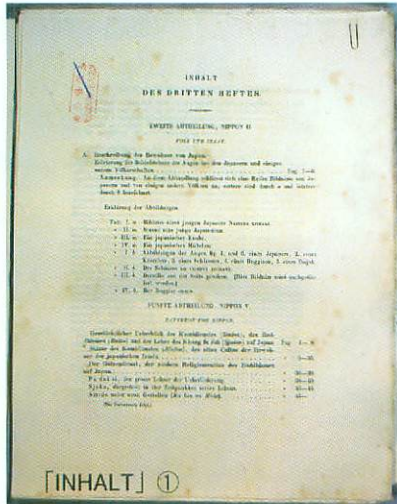
第3回配本では、「NIPPON II」の日本人の人類学的特徴と「NIPPON V」の宗教（仏教）について、本文と対応する17枚が配られた。彩色のある図版はない。



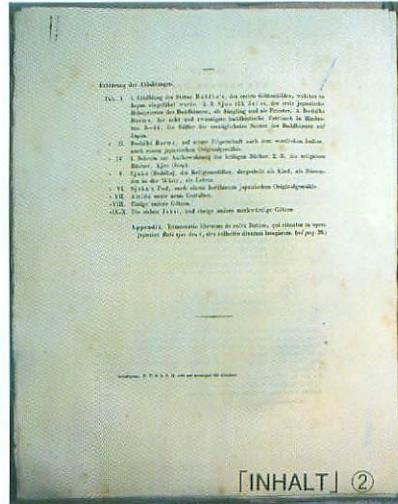
図版 仮表紙(3)



本文 仮表紙(3)



「INHALT」①



「INHALT」②

〔第3目録〕（「INHALT」）

NIPPON II

民族と国家

A. 日本の住民の記述

日本人やいくつかの別種族における目がつりあがっていることへの検討 …… ページ1～6
 注釈 この論文に日本人といくつかの別の民族の一連の肖像が続く、前者はaと後者はbと表示した。

図版の説明

- Tab. I. a 若い日本人男性名前こまきの肖像
- ♪ II. a しもり 若い日本人女性
- ♪ III. a 日本の少年
- ♪ IV. a 日本の少女

- Tab. I. b 目の形の図
 1と6は日本人
 2は高麗人
 3は中国人
 4はブギース人
 5はダイヤク
 ♪ II. b 中国人 郭成章
 ♪ III. b 同一人物の側面
 (この肖像は追加されたものである)
 ♪ IV. b ブギース人
 ORSON

(35) こまき



NIPPON II TAB. I. a

(36) しもり



NIPPON II TAB. II. a

(37) 日本の少年



NIPPON II TAB. III. a

(38) 日本の少女



NIPPON II TAB. IV. a

(53) 目の形



NIPPON II TAB. I. b

(54) 中国人 郭成章



NIPPON II TAB. II. b

(55) 郭成章



NIPPON II TAB. III. b

(56) ブギース人



NIPPON II TAB. IV. b

NIPPON V

日本における神々

日本における神々の神事（神道），仏教（仏道），孔夫子の教え（儒道）についての歴史的概観
 ページ 1～8

日本列島の住民古来の祭式である神事（神道）の概要 ページ 9～35

日本における仏教の低俗な宗教祭式である偶像崇拜 ページ 36～38

「傳大士」，伝説の偉大な祖師 ページ 38～40

釈迦 生涯の4つの時点における描写 ページ 40～44

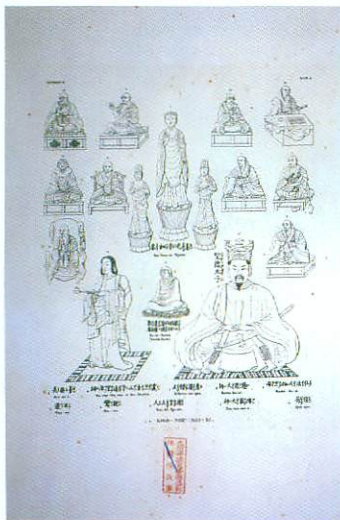
九種類の姿をした阿弥陀（九品弥陀） ページ 44～

図版の説明

- Tab. I 1. 仏陀の彫像の図 日本に取り入れられた最初の偶像 2. 3. 聖徳太子、彼は最初の日本における仏教の祭司者、その青年期と僧侶期 4. 菩提達磨、彼はヒンディスタンにおける28の仏教の太祖 5-14. 日本における仏教の非常にすぐれた宗派の創設者
- ♪ II 菩提達磨、日本の原画による西インドへの巡礼
 - ♪ IV 1. 聖なる書籍の保存箱 2. 3. 宗教の本，経 (king)
 - ♪ V 仏教の創始者の釈迦（仏陀），子供時代，荒野での修行時代，教祖時代の描写
 - ♪ VI 釈迦の死，有名な日本の原画より
 - ♪ VII 九品の弥陀
 - ♪ VIII いくつかの他の偶像
 - ♪ IX-X 七仏薬師とその他の奇妙な偶像

付録 仏像の装飾の測定，日本の『仏像図彙』から引用したもの，あるいは女神像を寄せ集めたもの（38ページについて）

(255) 仏教(仏教各宗の祖師と日本最初の仏像)



NIPPON V TAB. I

(256) 達磨



NIPPON V TAB. II

(258) 輪蔵・経



NIPPON V TAB. IV

(259) 誕生釈迦ほか



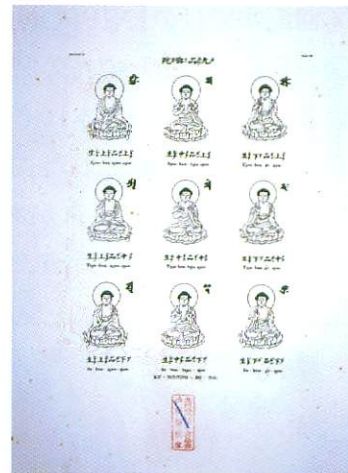
NIPPON V TAB.V

(260) 釈迦の死



NIPPON V TAB.VI

(261) 九品の弥陀



NIPPON V TAB.VII

(262) いくつかの他の偶像



NIPPON V TAB.VIII

(263) 七仏薬師



NIPPON V TAB.IX

(264) 如来・菩薩像



NIPPON V TAB.X

(右の伝大士像は、「INHALT」に記述されていない。これはミスによる欠落と考えられ、第3回配本で出されたと思われる。第13回配本でも多量の宗教関係図が出るが、これと作り方が異なる。)

(257) 伝大士・普建・普成

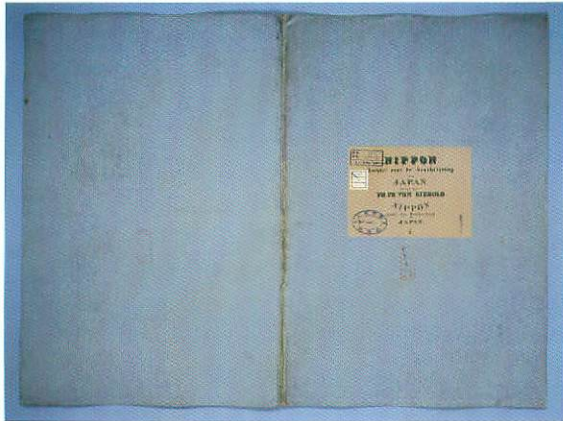


NIPPON V TAB.III

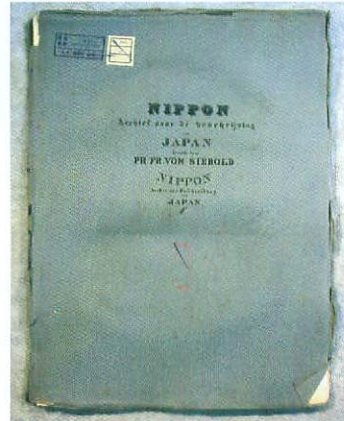
【第4回配本】

第4回配本では、「NIPPON I」の日本への旅程について記し、シーボルトが測った長崎港の水深図や景観図、そして長久保赤水「日本輿地路程全図」を日本語のままに石版画として刷り掲載している。図版は他の配本にくらべて少なく、11枚である。しかし手彩色による4枚の「日本輿地路程全図」が添えられていた。

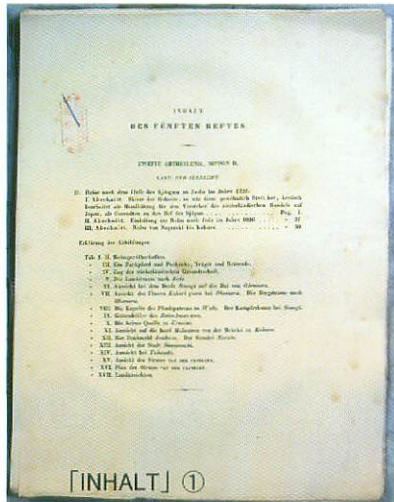
「INHALT」の記述ミスがあり、「NIPPON I」「Tab 1」の番号でもって「台湾海峡の海図」を配ったことになっているが、実際には13回配本で出る。



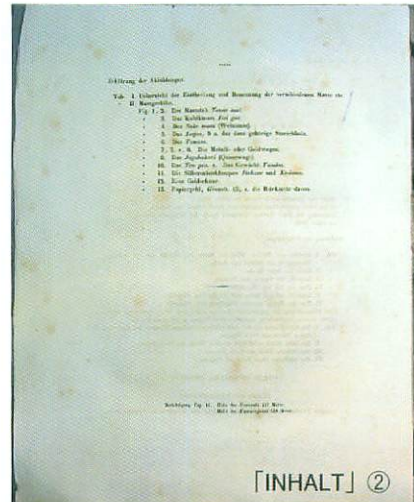
図版 仮表紙(4)



本文 仮表紙(4)



「INHALT」①



「INHALT」②

〔第4目録〕(「INHALT」)

NIPPON I

陸上・海上紀行

B. 1823年におけるバタヴィアから日本への旅

バンカにおける地理や統計に関する記述の小編 ページ20

1662年の中国人国姓爺の台湾征服 ページ48

図版の説明

Tab. I ミュントクの景色. ミュントクの投錨地の図とバンカ海峡の南の入り口

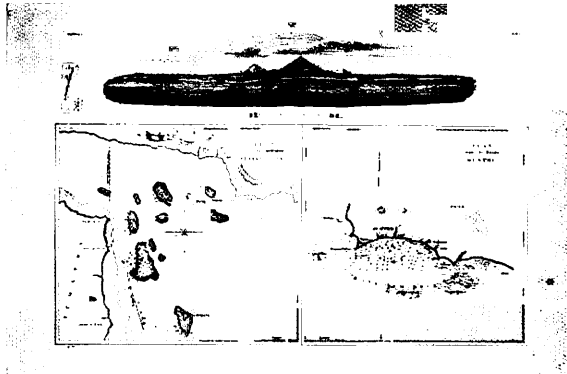
- ♪ II バンカ島の地図
- ♪ III 台湾海峡の海図 (*13回配本)
- ♪ IV 長崎湾の図
- ♪ V 長崎の港と湾の眺望
- ♪ VI 長崎における港と周辺の地図

C. 次のようなタイトルの日本国の原図：日本輿地路程全図から描いた日本の島々

Tab. I それに属する小さな島々をともなって日本島の西の部分である九州

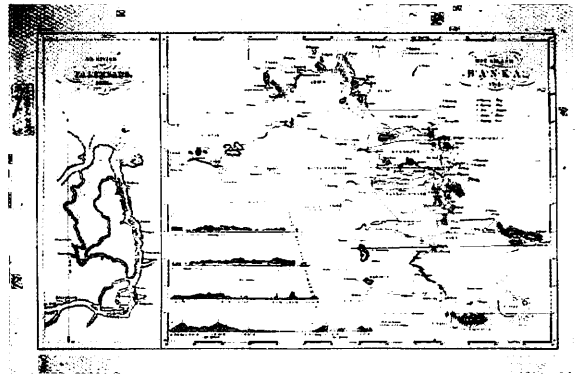
- ♪ II 日本島の中心部分の隣にある四国島
- ♪ III 日本島の東部
- ♪ IV 日本島の北部

(7) ミュントクの景色



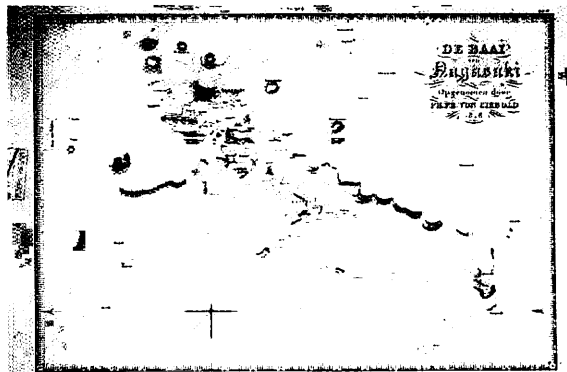
NIPPON I TAB. I

(8) バンカ島の地図



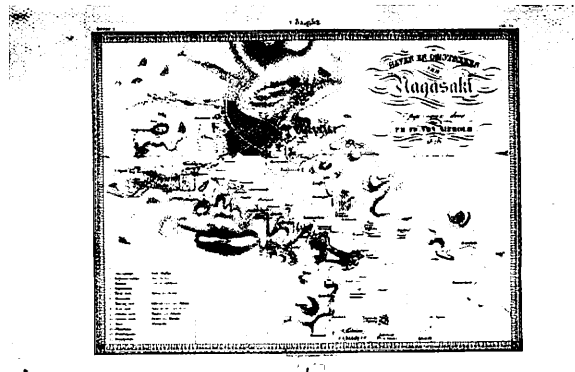
NIPPON I TAB. II

(10) 長崎湾の図



NIPPON I TAB. IV

(13) 長崎の港と湾の眺望



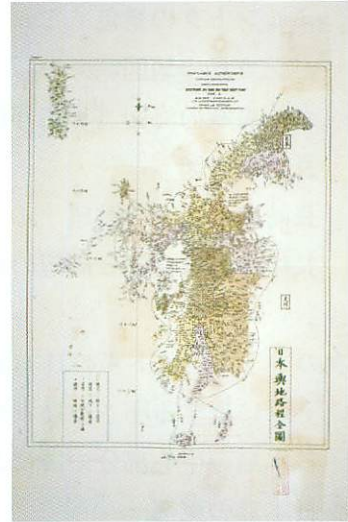
NIPPON I TAB. V. b

(12) 長崎における港と周辺の地図



NIPPON I TAB.VI

(31) 日本輿地路程全図—九州—



NIPPON I TAB.I.c

(32) 日本輿地路程全図—四国—



NIPPON I TAB.II.c

(33) 日本輿地路程全図—関東・中部地方—



NIPPON I TAB.III.c

(34) 日本輿地路程全図—奥州地方—



NIPPON I TAB.IV.c

NIPPON IV

技術と学問

A. 日本国における長さ、面積、寸法や重量、貨幣単位

図版の説明

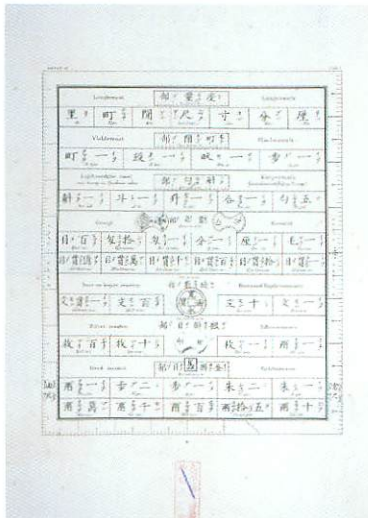
Tab. I 様々な計量単位の分類と名称の一覧

Tab. II 度量衡

Fig.1, 2 ものさし ツネサシ

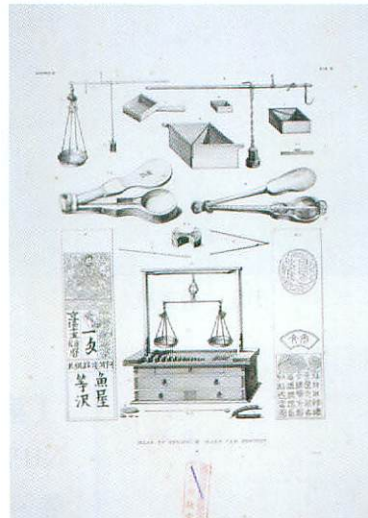
- ♪ 3 立方ものさし イチゴウ
- ♪ 4 サケマス (酒の計量器)
- ♪ 5 イツショウ 5 a.それに付属するマッチ
- ♪ 6 トマス
- ♪ 7, 7.a, 8 金属または金の台
- ♪ 9 ヨコハカリ (横の台)
- ♪ 10 テンピン a. 重りフンドー
- ♪ 11 銀硬貨のかたまりイタカネとゴダマ
- ♪ 12 金の結びひも
- ♪ 13 紙幣, ギンサツ13, a. その裏側

(228) 度量表



NIPPON IV TAB. I.a

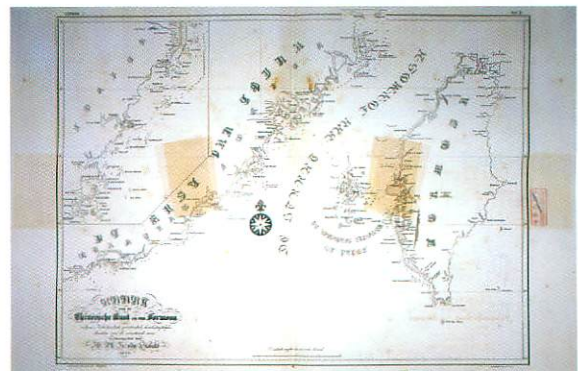
(229) 度量衡



NIPPON IV TAB. II.a

「台湾海峡の海図」には「NIPPON I TAB III」とある。この番号は第4回と第13回配本の「INHALT」のなかに2度出てくる。この図版に使用された紙は、透かしのない薄手の紙であり、それは13回配本時に使用されている。つまり、これは「INHALT」の記述ミスであり、右の図は第4回でなく、13回配本であった。

(9) 台湾海峡の海図

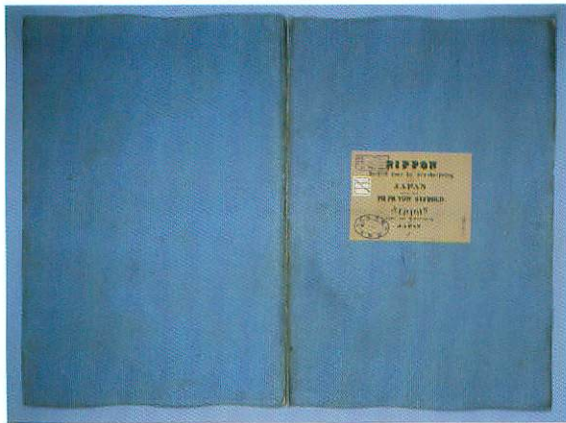


NIPPON I TAB. III.b

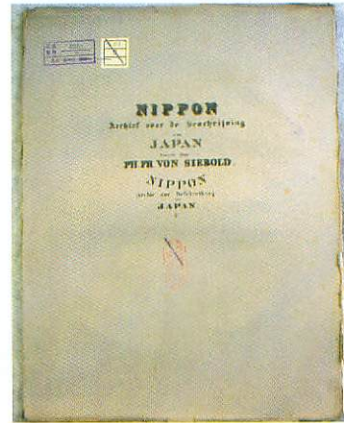
【第5回配本】

第5回配本は、「NIPPON II」の江戸参府の旅行記であり、旅行用具と長崎から小倉・下関までの風景画、17枚が配られた。彩色の図版はない。旅の風景を描いたのは川原慶賀であったが、図版には石版画にした「Nader」（ナーデル）などの名前だけがある。

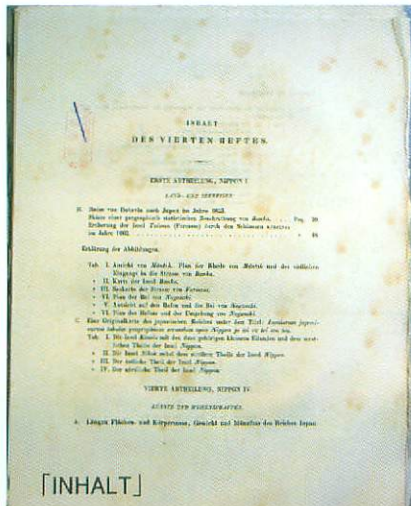
川原慶賀は多くの絵をシーボルトの求めて応じて描き、『NIPPON』のなかには慶賀の絵を原画とする多くの図版があるが、彼の通称である登与介「Toioske」が書き込まれた図版は、41番「いとせ そのぎ」（第6回配本）、52番「国民の容貌」（第12回配本）、326番「茶の木と実」（第2回配本）、337番「朝鮮 漁夫の一家」（第2回配本）、340番「朝鮮 船頭」（第2回配本）、341番「朝鮮 商人」（第2回配本）、342番「朝鮮 水夫」（第2回配本）、343番「朝鮮 船童」（第2回配本）の8枚のみである。



図版 仮表紙(5)



本文 仮表紙(5)



【第5目録】（「INHAET」）

NIPPON II

陸・海の旅

1826年における将軍の宮殿へ向かう旅

I 章	通常に行われる江戸への参府旅行の概容、参府の公使である在日のオランダ商館の理事のために批判的に書かれた手引き	ページ 1
II 章	1826年江戸参府旅行の序文	ページ 31
III 章	長崎から小倉までの旅行	ページ 50

図の説明

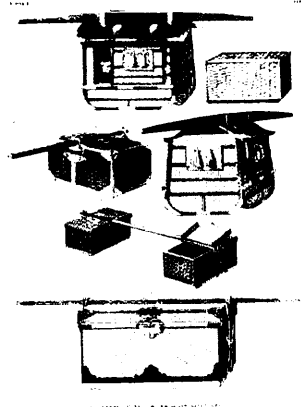
Tab. I. II 旅行用具

- ♪ III 荷を運ぶ牛と馬、人足と旅人
- ♪ IV オランダ使節団の行列
- ♪ V 江戸への街道
- ♪ VI 大村湾を望む彼岸の景色

Tab.VII 大村湾へ流れる郡川の景色. 大村への山道

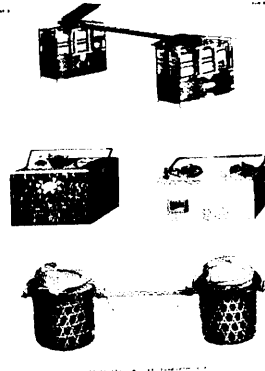
- ♪ VIII 小田の馬頭観音堂. 彼杵付近の楠
- ♪ IX 馬頭観音像
- ♪ X 嬉野温泉
- ♪ XI 小倉の橋からの引島（彦島）の景色
- ♪ XII 与次兵衛瀬の碑. 鳴戸の大渦
- ♪ XIII 下関の街
- ♪ XIV 竹崎の風景
- ♪ XV ファン・デル・カペレン海峡（関門海峡）の景色
- ♪ XVI ファン・デル・カペレン海峡（関門海峡）の地図
- ♪ XVII 陸の風景

(88) 旅行用具



NIPPON II TAB.I.d

(89) 旅行用具



NIPPON II TAB.II.d

(90) 駄馬・人足および旅人



NIPPON II TAB.III.d

(91) オランダ使節団の行列



NIPPON II TAB.IV.b (*d)

(92) 江戸への街道



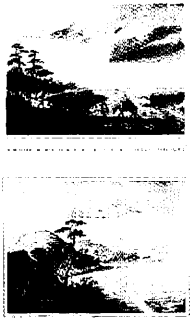
NIPPON II TAB.V.d

(93) 大村湾を望む彼杵の景色



NIPPON II TAB.VI.b (*d)

(94) 大村付近の郡川の景色ほか



NIPPON II TAB.VII.d

(95) 小田の馬頭観音堂ほか



NIPPON II TAB.VIII.d

(96) 馬頭観音堂



NIPPON II TAB.IX.d

(97) 嬉野温泉



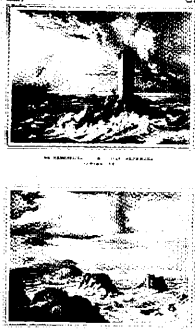
NIPPON II TAB.X.d

(98) 小倉 引島(彦島)を望む景色



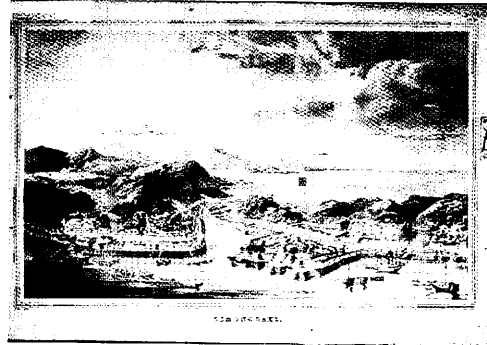
NIPPON II TAB.XI.d

(99) 与次兵衛瀨の碑ほか



NIPPON II TAB.XII.d

(100) 下関の街



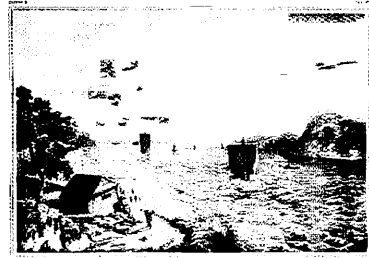
NIPPON II TAB.XIII.d

(101) 下関 竹崎付近の風景



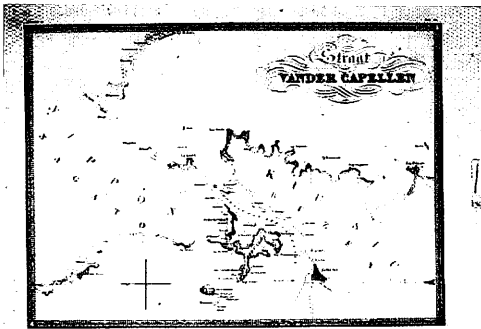
NIPPON II TAB.XIV.d

(102) ファン・デル・カペレン海峡



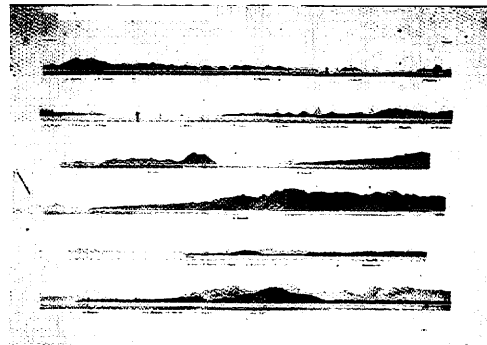
NIPPON II TAB.XV.d

(103) ファン・デル・カペレン海峡



NIPPON II TAB.XVI.d

(104) 陸の風景

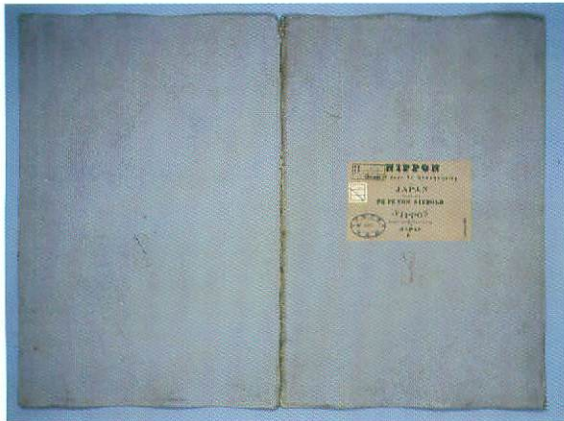


NIPPON II TAB.XVII.d

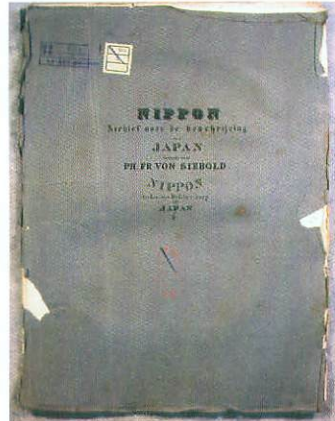
【第6回配本】

第6回配本は前回の続きで江戸参府の旅行記となっている。しかし、図版21枚は本文とそれほどマッチしているわけではなく、図版は谷文晁『名山図譜』・葛飾北斎『北斎漫画』から採用した日本の山々についての絵を載せている。そして、シーボルトの日本妻「おたくさ」らの肖像画を載せている。

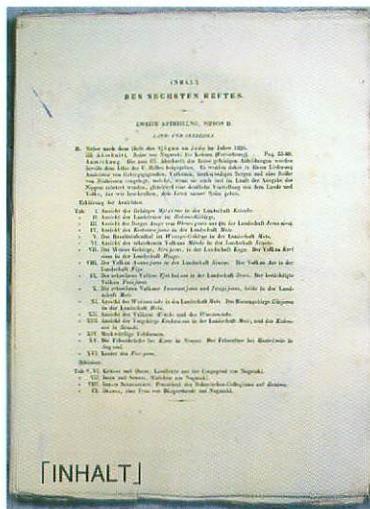
『名山図譜』から採用した図版には「Buntsiu japon.pinx」と左下にあり、『北斎漫画』からの図版には「Hokasai jap.del」とある（ただし、30番「富士山の火口」は北斎でない。これはシーボルトの間違い）。山々の図は、「INHALT」では「NIPPON II」となっているが、実際の図版にはすべて「NIPPON I」「c」と印刷されている。図版の表記を誤ったのであろう。



図版 仮表紙(6)



本文 仮表紙(6)



【第6目録】(「INHALT」)

NIPPON II

陸・海の旅

D. 1826年における将軍の宮殿へ向かう旅

Ⅲ章 長崎から小倉までの旅行(続き) ページ53~88

Ⅲ章の旅の図版はすでに第5分冊の地図集に添えられている。それには山地・火山・奇妙な山、そして肖像画のシリーズを示している。その図版類は、最初「日本」の刊行の最中に論議されているのだが、にもかかわらず、私たちが描写した土地と民族についての明確な記述をわれわれの旅の読者に提供している。

図の説明

Tab. I 上野国の妙義山

- ♪ II 箱根山の街道風景
- ♪ III (山城国における) 大井川から愛宕山の風景
- ♪ IV 陸奥国の吾田多良山
- ♪ V 陸奥国の小野岳の柱状玄武岩の溪谷
- ♪ VI 信濃国の死火山御嶽の風景
- ♪ VII 加賀国の白い山, 白山と日向国にある霧島火山
- ♪ VIII 信濃国の火山浅間山, 肥後国の火山阿蘇山
- ♪ IX 出羽国の死火山鳥海山ととかく風評のある富士山
- ♪ X 両方とも陸奥国にある死火山巖鷲山と巖木山
- ♪ XI 陸奥国の御駒岳, 伯耆国の大山の巨大な像
- ♪ XII 御嶽火山と雲仙岳の風景
- ♪ XIII 陸奥国の金華山の山脈前部, 讃岐国の五剣山
- ♪ XIV 奇妙な形をした岩山
- ♪ XV 信濃国の糸の岩橋, 相模国の走水の岩門
- ♪ XVI 富士山の火口

肖像画

- ♪ X, VI 長崎近郊の百姓, くまそ・おとみ
- ♪ VII 長崎の少女, いとせ・そのぎ
- ♪ VIII 出島の通訳学校の学長, 石橋助左衛門
- ♪ IX 長崎の女性市民, おたくさ

(15) 妙義山



NIPPON I TAB. I. c

(16) 箱根峠



NIPPON I TAB. II. c

(17) 愛宕山



NIPPON I TAB.III.c

(18) 吾田多良山 (安達良山)



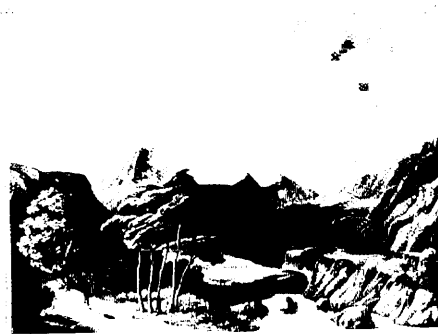
NIPPON I TAB.IV.c

(19) 小野岳



NIPPON I TAB.V.c

(20) 御嶽 (信濃)



NIPPON I TAB.VI.c

(21) 白山・霧島山



NIPPON I TAB.VII.c

(22) 浅間山・阿蘇山



NIPPON I TAB.VIII.c

(23) 鳥海山・富士山



NIPPON I TAB.IX.c

(24) 巖鷗山・巖木山



NIPPON I TAB.X.c

(25) 御駒岳・大山



NIPPON I TAB.XI.c

(26) 御嶽・雲仙岳



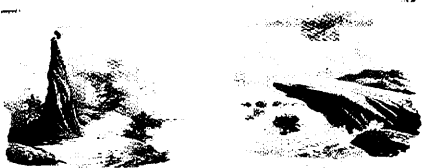
NIPPON I TAB.XII.c

(27) 金華山・五剣山



NIPPON I TAB.XIII.c

(28) 伊勢の石太神ほか



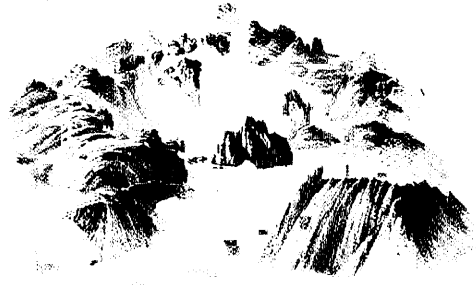
NIPPON I TAB.XIV.c

(29) 糸の岩橋・相模走り水



NIPPON I TAB.XV.c

(30) 富士山の火口



NIPPON I TAB.XVI.c

(39) くまそ



NIPPON II TAB.V.a

(40) おとみ



NIPPON II TAB.VI.a

(41) いとせ・そのぎ



NIPPON II TAB.VII.a

(42) 石橋助左衛門(通訳)



NIPPON II TAB.VIII.a

(43) おたくさ(楠本お滝)



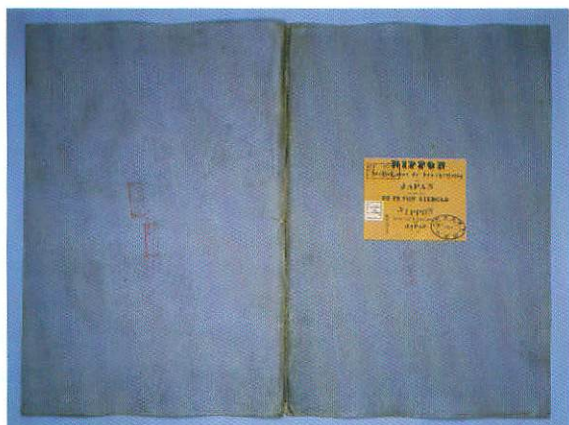
NIPPON II TAB.IX.a

【第7回配本】

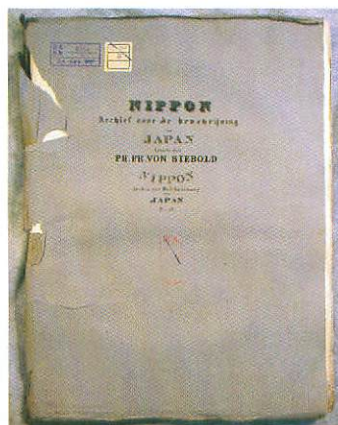
第7回配本の7・8分冊の刊行は遅れた。これは「INHALT」に書かれているシーボルトの1839年10月付報告からわかる。第1回から6回までの配本は、それぞれ1分冊ごとに出されていたが、今回から合併号が登場する。

図版の枚数は倍増して41枚、色つきも6枚が含まれていたが、本文と図版はまったくといえるほど対応していない。本文は「NIPPON VII」の高麗（朝鮮）についてであるが、図版は「NIPPON II」と「NIPPON IV」にあたる日本の軍事情報と花瓶についてである。シーボルトは、報告のなかで、次号で軍事について記述すること、今後は速やかに刊行することを約束し、すでに300枚以上の図版が完成していると購読者に伝えている。

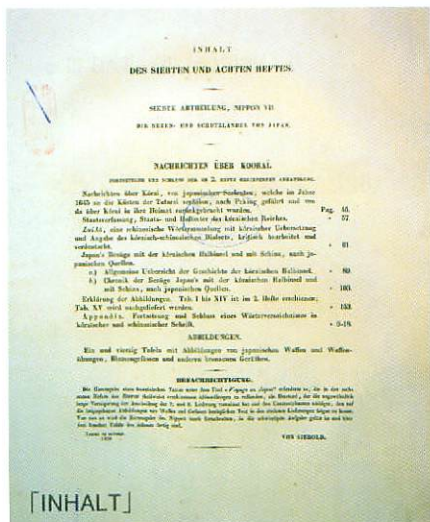
なお、軍事を描いた図版において、「XXVIII (28)」・「XXX (30)」番は欠番であり、結局出ない。



図版 仮表紙(7.8)



本文 仮表紙(7.8)



「INHALT」

【第7. 8目録】(「INHALT」)

NIPPON VII

高麗についての報告

最後の部の第2分冊の続きと終わり

1645年韃靼海岸に漂着して北京に送られ、それから朝鮮を経て故郷に帰された日本人の漁民による高麗についての報告 ページ45

高麗の国の制度、官吏と宮中の役人 ページ57

中国単語の「類合」の高麗語訳と中国語の朝鮮読み併記、校訂のドイツ語訳 ページ61

日本の文献による日本と高麗半島、日本と中国の諸関係

a. 高麗半島の歴史の一般的な概容 ページ89

b. 日本の文献から見た日本と高麗半島と中国の関係の編年記 ページ103

図の説明 Tab. I ~ XIVは第2分冊の中に出て、Tab. XV以降は次に出るであろう ページ153

付録 高麗と中国の語句の目録の続きと終わり ページ9-8

図解

41個の図は日本の武器と軍事演習，花瓶と青銅器である

報告

『日本紀行』という題でフランス語版が出版されたことにより、『日本』の初めの6分冊には部分的にしか発行されていない論文を完成させなければならなくなりました。それは第7、8分冊の発行が非常に長く延期してしまったためで、今回の「銃及び刀の柄」の図版に対応する本文を次の配本で引き続き発行しなければなりません。これからは『日本』の出版も早く進行し、この最も困難な仕事も解決できるでしょう。300枚以上の図版も完成しています。

1839年10月 ライデンにて

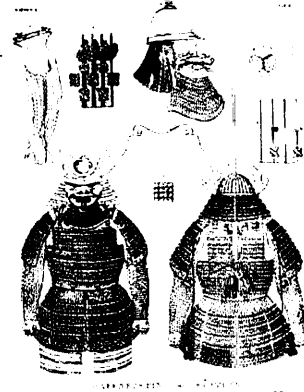
フォン シーボルト

(57) 武装



NIPPON II TAB.I.c

(58) 武装



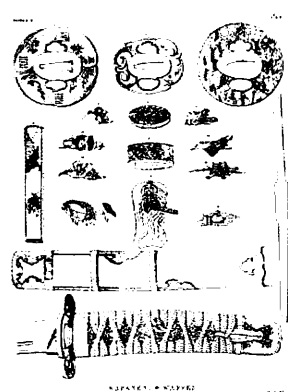
NIPPON II TAB.II.c

(59) 武器(刀剣)



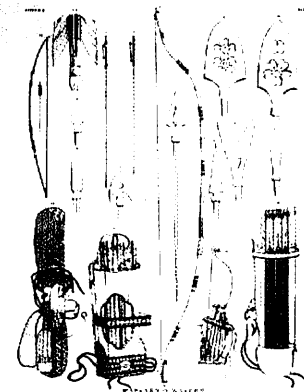
NIPPON II TAB.III.c

(60) 武器(刀剣の装飾品)



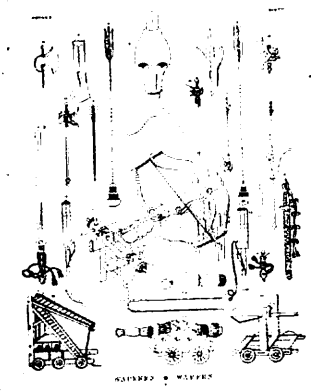
NIPPON II TAB.IV.c

(61) 武器(弓・矢・矢筒)



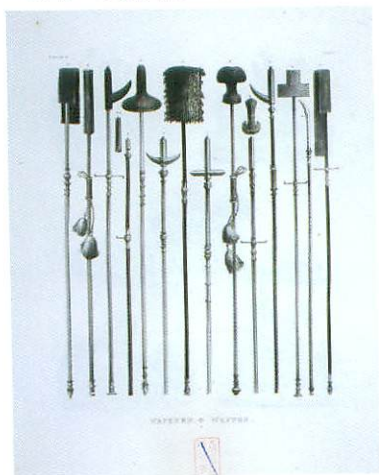
NIPPON II TAB.V.c

(62) 武器(矢・斧・剣など)



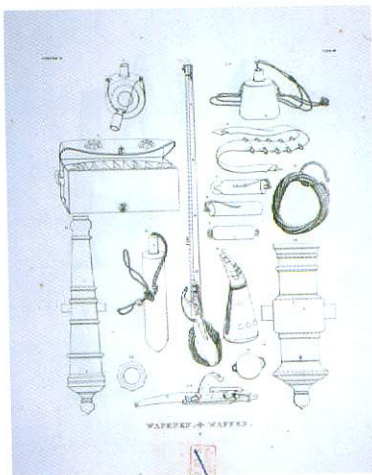
NIPPON II TAB.V.bis.c

(64) 武器(槍・投げ槍など)



NIPPON II TAB.VI.c

(65) 武器(火器・大筒など)



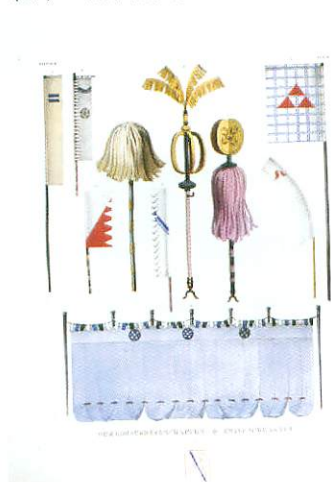
NIPPON II TAB.VII.c

(66) 戦争用具(旗・指し物など)



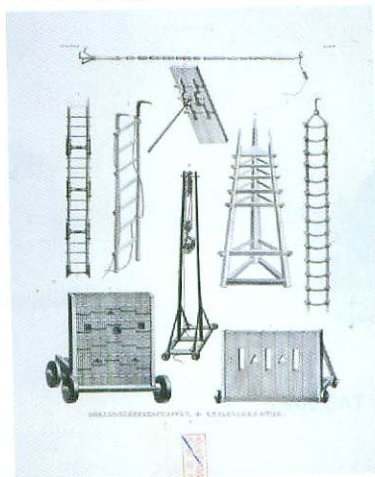
NIPPON II TAB.VIII.c

(67) 戦争用具(旗・指し物など)



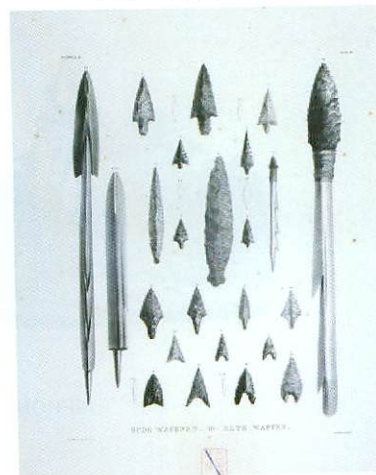
NIPPON II TAB.IX.c

(68) 戦争用具(盾・突撃用はしこなど)



NIPPON II TAB.X.c

(69) 古代の武器



NIPPON II TAB.XI.c

(70) 古代の武器



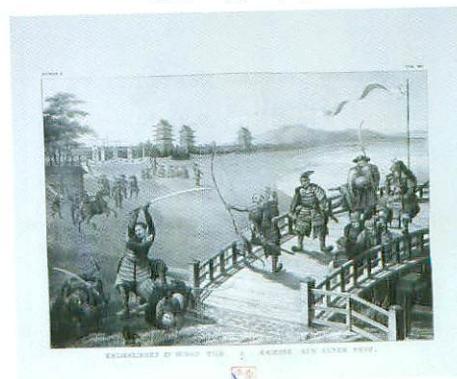
NIPPON II TAB.XII.c

(71) 古代の武器



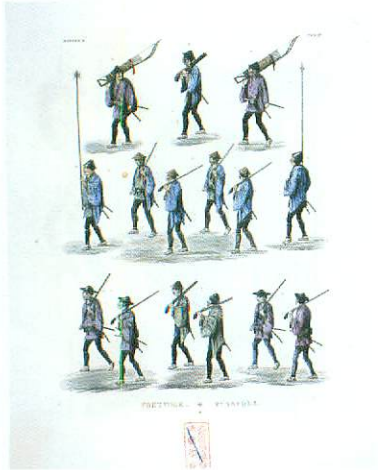
NIPPON II TAB.XIII.c

(72) 昔の戦争



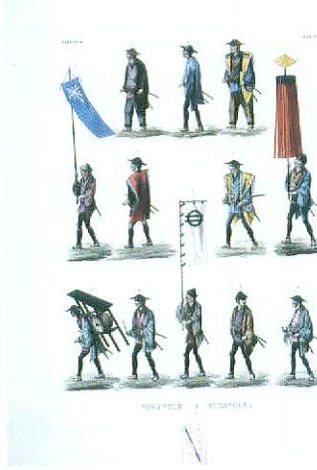
NIPPON II TAB.XIV.c

(73) 歩兵



NIPPON II TAB.XV.c

(74) 歩兵



NIPPON II TAB.XVI.c

(75) 騎馬武者



NIPPON II TAB.XVII.c

(76) 最高指揮官



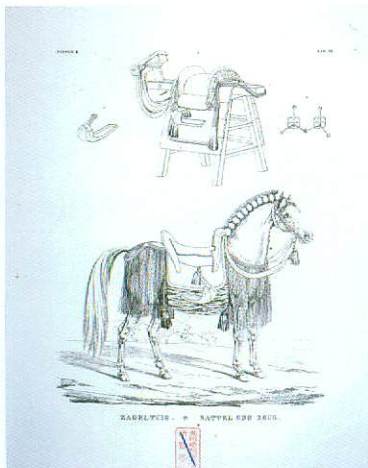
NIPPON II TAB.XVIII.c

(77) 競馬



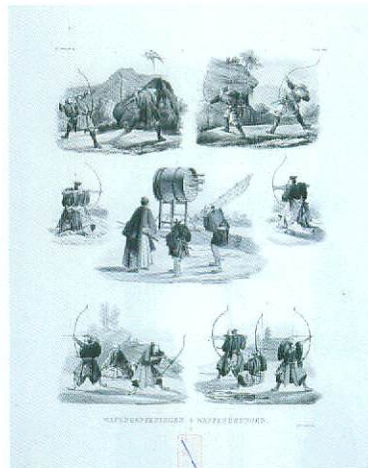
NIPPON II TAB.XIX.c

(78) 馬具



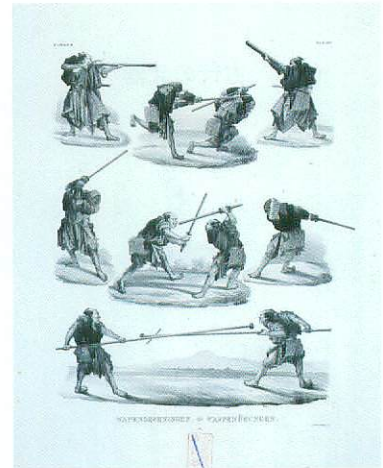
NIPPON II TAB.XX.c

(79) 武術の稽古



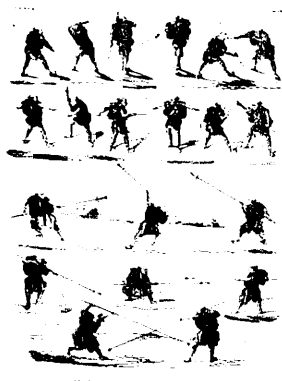
NIPPON II TAB.XXI.c

(80) 武術の稽古



NIPPON II TAB.XXII.c

(81) 武術の稽古



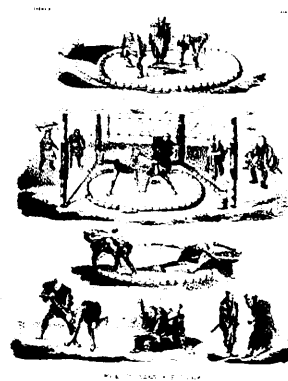
NIPPON II TAB.XXIII.c

(82) 武術の稽古



NIPPON II TAB.XXIV.c

(83) 力士



NIPPON II TAB.XXXV.c

(84) とりで



NIPPON II TAB.XXVI.c

(85) 防備施設



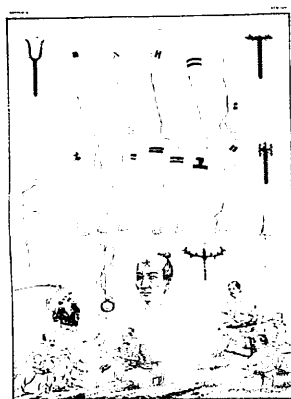
NIPPON II TAB.XXVII.c

(86) 昔の武装(神功皇后)



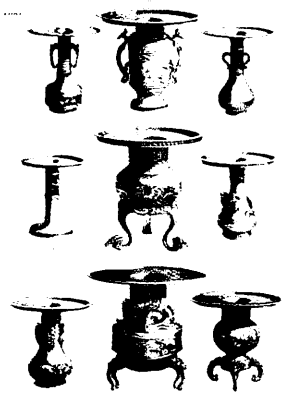
NIPPON II TAB.XXXIX.c

(87) 刑罰



NIPPON II TAB.XXXI.c

(231) 花器



NIPPON IV TAB.I.b

(232) 花器



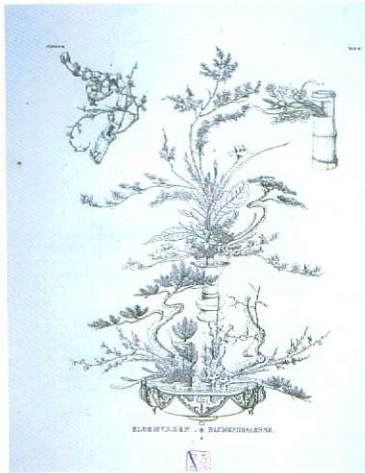
NIPPON IV TAB.II.b

(233) 花器



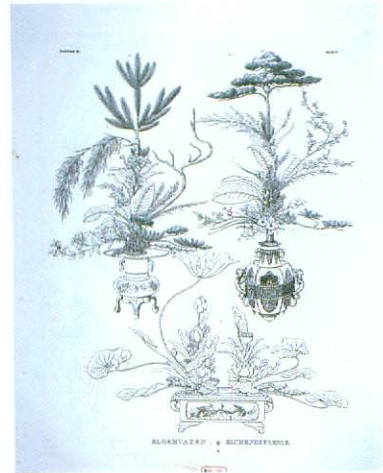
NIPPON IV TAB.III.b

(234) 花器



NIPPON IV TAB.IV.b

(235) 花器



NIPPON IV TAB.V.b

(236) 花器・香炉など



NIPPON IV TAB.VI.b

(237) 花器・香炉



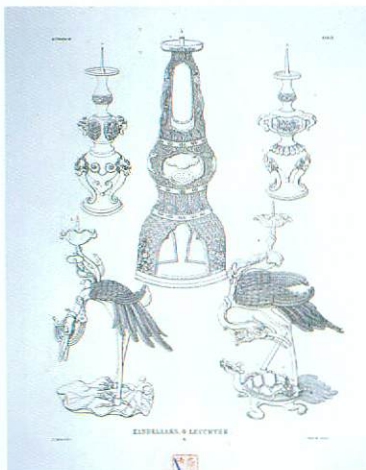
NIPPON IV TAB.VII.b

(238) 香炉(置物)



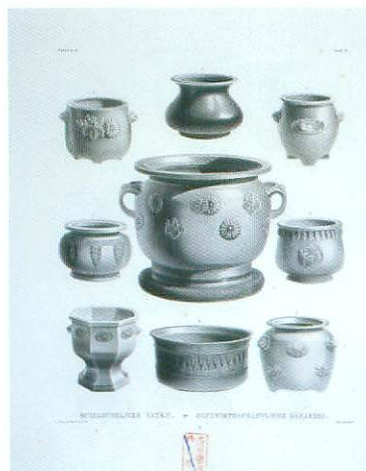
NIPPON IV TAB.VIII.b

(239) 燭台



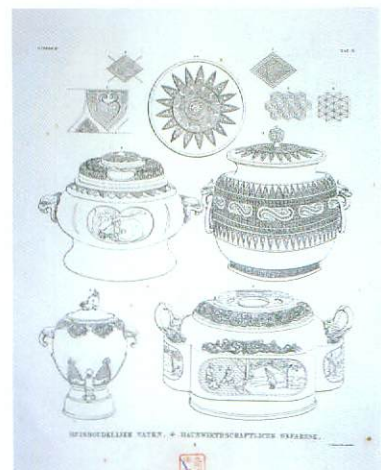
NIPPON IV TAB.IX.b

(240) 壺など



NIPPON IV TAB.X.b

(241) 壺など

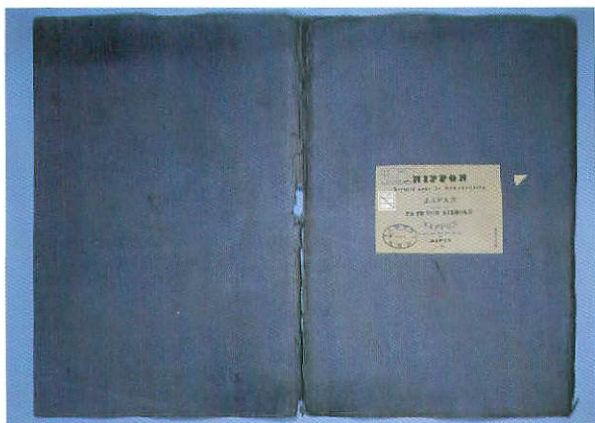


NIPPON IV TAB.XI.b

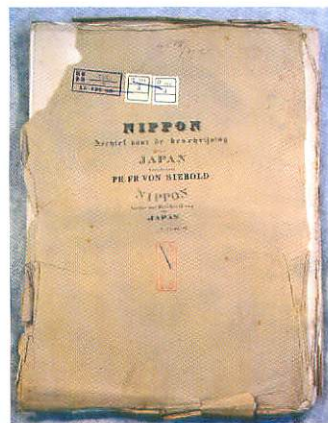
【第8回配本】

第8回配本も9・10分冊の合併号であり、しかも次の第9回配本と同時に配られた。下の「INHALT」が同一紙に印刷されていることから明らかである。図版41枚、色つき図版も15枚が配られているが、本文との乖離はますます激しくなり、本文は前回配った軍事に関する図版の解説であり、他に江戸参府の追加記事、朝鮮の「千字文」に関する報告であった。41枚の図版は身分ごとの日本人の服装、川原慶賀の絵を原画とする結婚式・葬式など風習に関するものがほとんどであった。

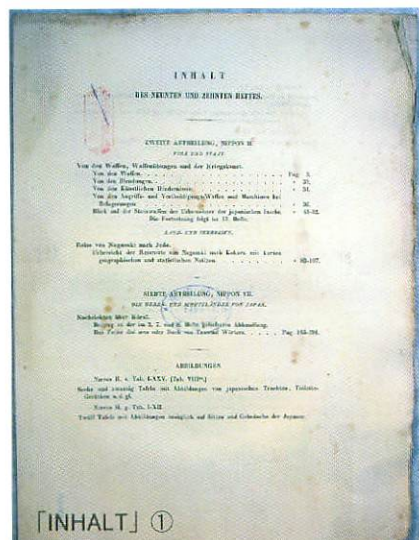
前回配本の「INHALT」にあったシーボルト報告に沿って刊行されたとは思えない内容となっている。



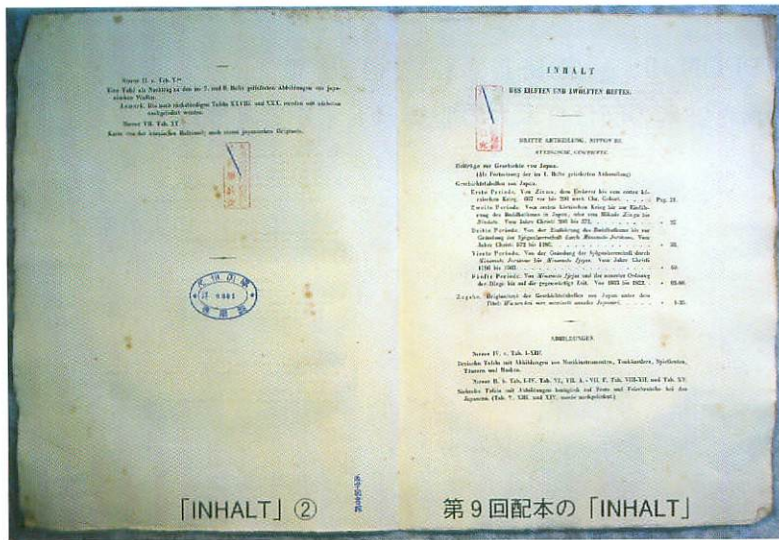
図版 仮表紙(9.10)



本文 仮表紙(9~10, 11~12)



「INHALT」①



「INHALT」②

第9回配本の「INHALT」

〔第9. 10目録〕 (「INHALT」)

NIPPON II

民族と国家

武器・武術・戦術について

武器について ページ 3

地下壕について ページ33

人工の障害物について ページ34

攻城戦における攻撃と防御の武器と器械について ページ36

日本列島の原住民の石の武器について ページ43~52

13号に続く

陸と海の旅

長崎から江戸への旅

長崎から小倉へのルートの短い地理的, 統計的なメモの概容 ページ83~107

NIPPON VII

日本の近隣諸国と保護国

高麗の報告

第2・7・8分冊に提供された論文の寄稿

1000の言葉の千字文 ページ165~191

図解

NIPPON II. e. Tab. I - XXV. (Tab. VIII bis)

これら26個の図は日本人の服装とトイレ器具等々

(124) 町人の服装



NIPPON II TAB. I.e

(125) 町人の服装



NIPPON II TAB. II.e

(126) 礼装



NIPPON II TAB. III.e

(127) 礼装



NIPPON II TAB.IV.e

(128) 従者を連れられた身分の高い日本人



NIPPON II TAB.V.e

(129) 上流の婦人



NIPPON II TAB.VI.e

(130) 貴族の少年と少女たち



NIPPON II TAB.VII.e

(131) 商人・農民



NIPPON II TAB.VIII.e

(132) 農民



NIPPON II TAB.VIII.bis.e

(133) 旅人の服装



NIPPON II TAB.IX.e

(134) 帝(天皇)



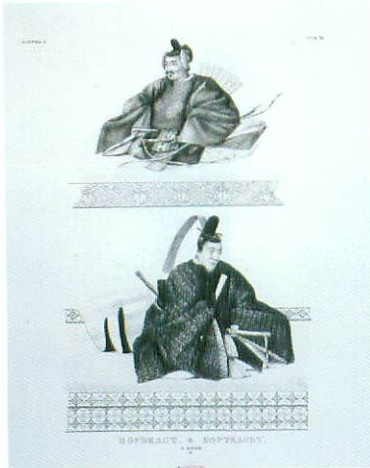
NIPPON II TAB.X.e

(135) 后(皇后)



NIPPON II TAB.XI.e

(136) 公家の宮廷服



NIPPON II TAB.XII.e

(137) 公家の宮廷服



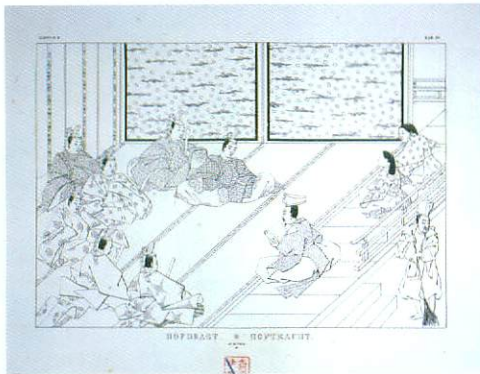
NIPPON II TAB.XIII.e

(138) 公家の宮廷服



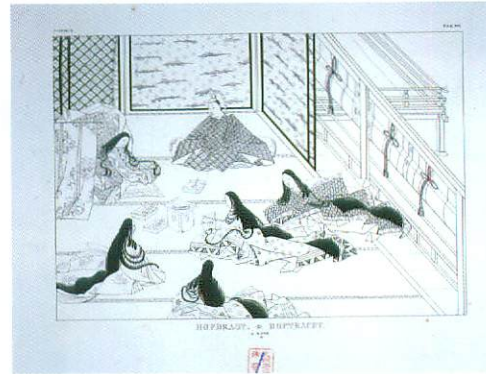
NIPPON II TAB.XIV.e

(139) 公家の宮廷服



NIPPON II TAB.XV.e

(140) 公家の宮廷服



NIPPON II TAB.XVI.e

(141) 帝の側室(宮中の女宮)



NIPPON II TAB.XVII.e

(142) 將軍(徳川家育)



NIPPON II TAB.XVIII.e

(143) 将軍の御台所



NIPPON II TAB.XIX.e

(144) 武家の礼装



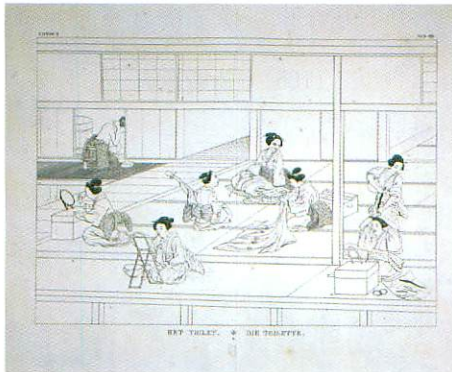
NIPPON II TAB.XX.e

(145) 大名の妃



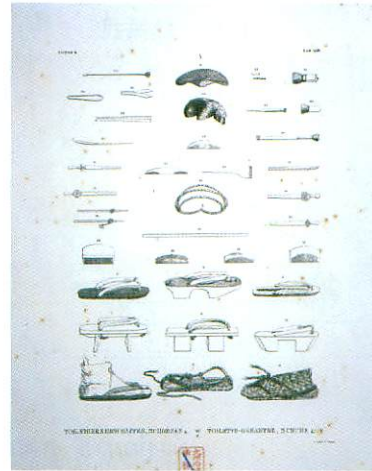
NIPPON II TAB.XXI.e

(146) 化粧



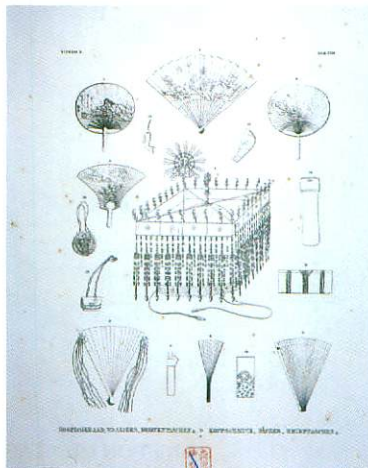
NIPPON II TAB.XXII.e

(147) 化粧道具・履物など



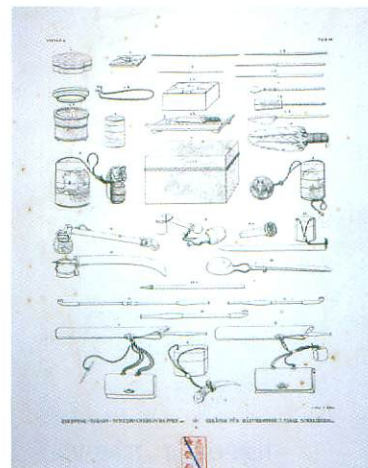
NIPPON II TAB.XXIII.e

(148) 髪飾り・扇・紙入れなど



NIPPON II TAB.XXIV.e

(149) 茶の道具・喫煙具など

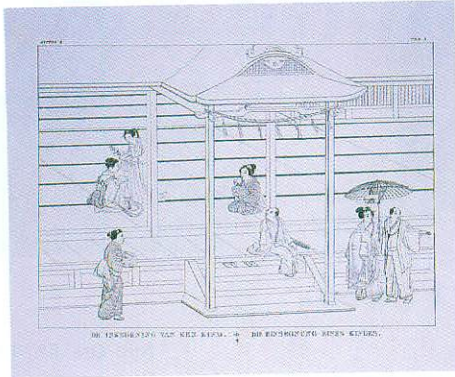


NIPPON II TAB.XXV.e

NIPPON II. g. Tab. I - XII

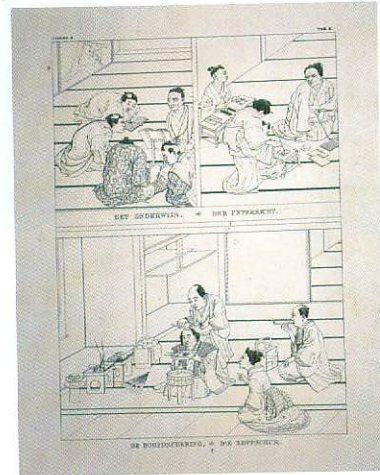
これら12個の図は日本人の風習や慣習について

(162) お宮参り



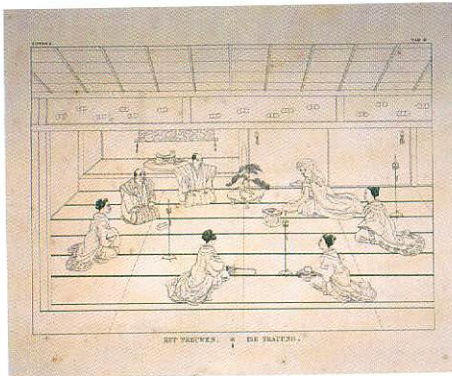
NIPPON II TAB. I.g

(163) 元服の図・寺子屋



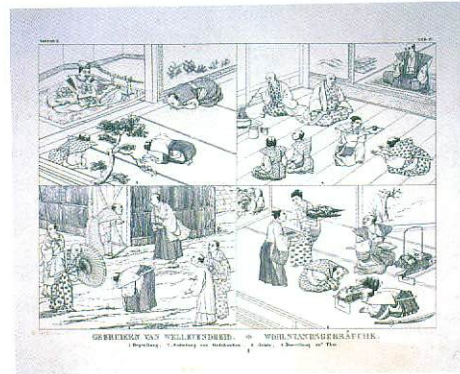
NIPPON II TAB. II.g

(164) 結婚式



NIPPON II TAB. III.g

(165) 礼儀作法



NIPPON II TAB. IV.g

(166) 礼儀作法



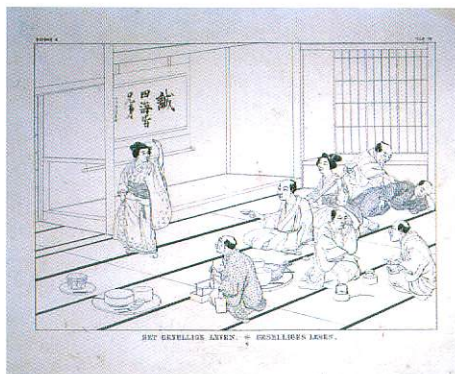
NIPPON II TAB. V.g

(167) 宴会



NIPPON II TAB. VI.g

(168) 宴会



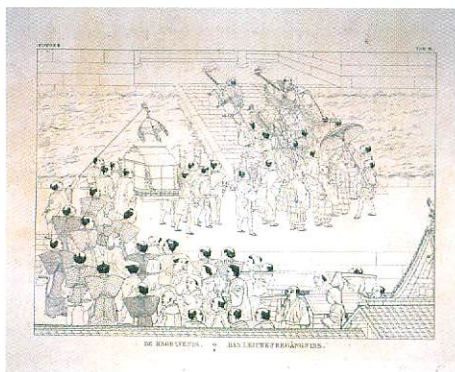
NIPPON II TAB.VII.g

(169) 病氣と死



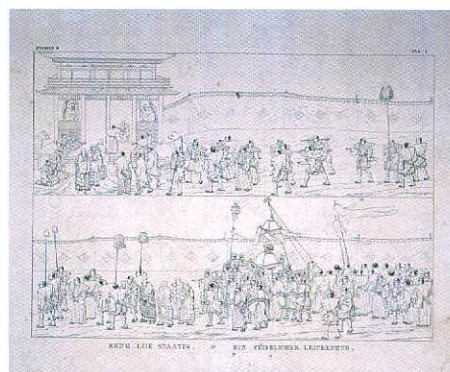
NIPPON II TAB.VIII.g

(170) 葬儀



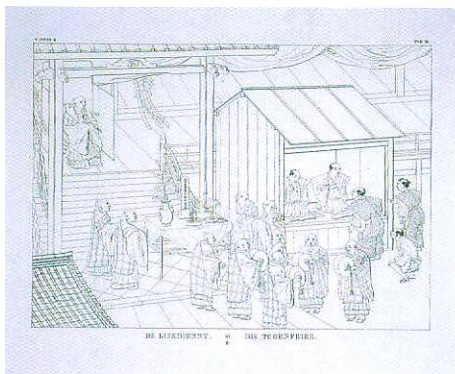
NIPPON II TAB.IX.g

(171) 葬列



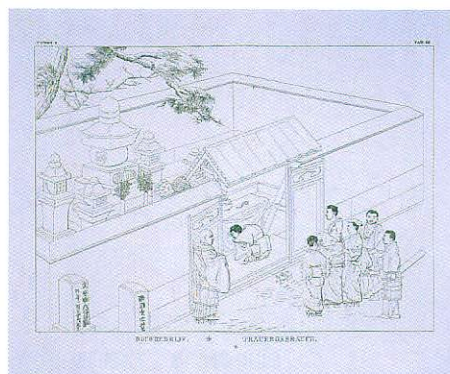
NIPPON II TAB.X.g

(172) 葬式



NIPPON II TAB.XI.g

(173) 追悼



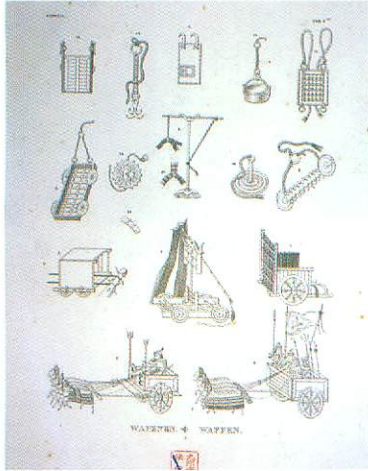
NIPPON II TAB.XII.g

NIPPON II. c. Tab. V. ter

この図は日本の武器の第7, 8分冊の補遺

注釈 まだ出ていない XXVIII. XXX はすぐ次に追加するであろう

(63) 武器(攻城用具・戦車など)

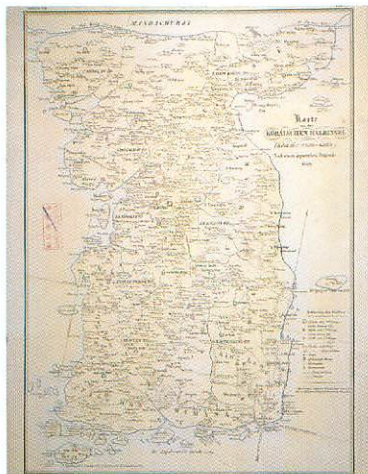


NIPPON II TAB. V. ter. c

NIPPON VII. Tab. XV

高麗半島の地図は日本のオリジナルである

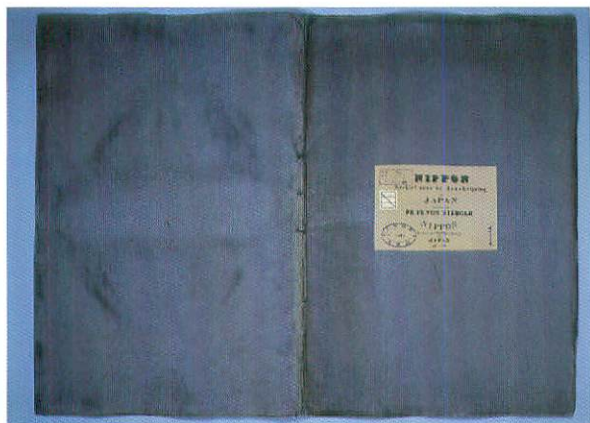
(351) 朝鮮半島の地図



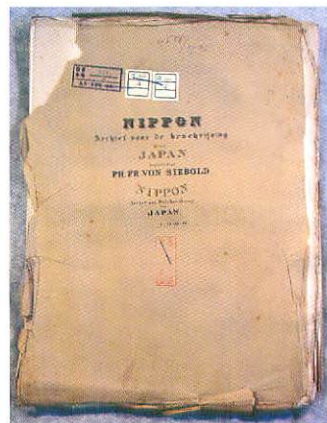
NIPPON VII TAB. XV

【第9回配本】

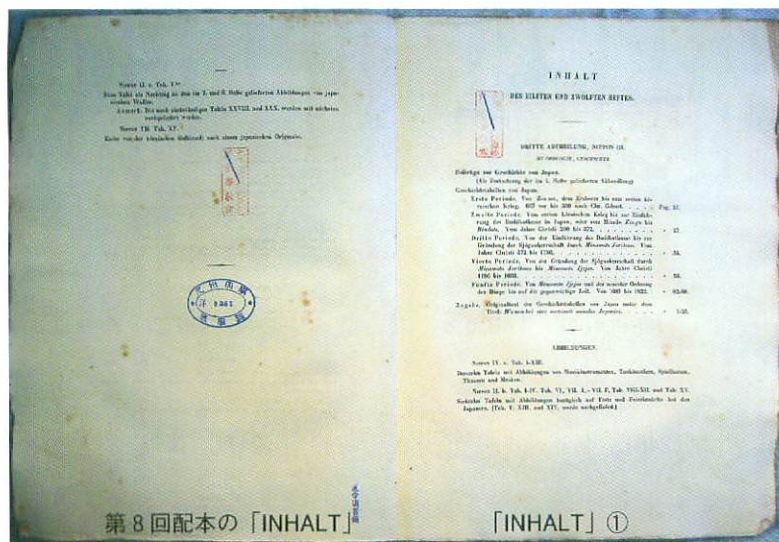
第9回配本は8回配本と同時であり、図版35枚に付図「原図と日本人作成による天体観測に基づく日本国地図」が配られた。ここでも本文と図版はばらばらに近く、本文は「NIPPON III」神話・歴史であるが、図版は楽器・風習・肖像画となっている。日本の風習を描く「NIPPON II」の「h」シリーズ、Tab.V・XIII・XIVの図版について、シーボルトは後に出すと「INHALT」に書いているが、結局は出ない。



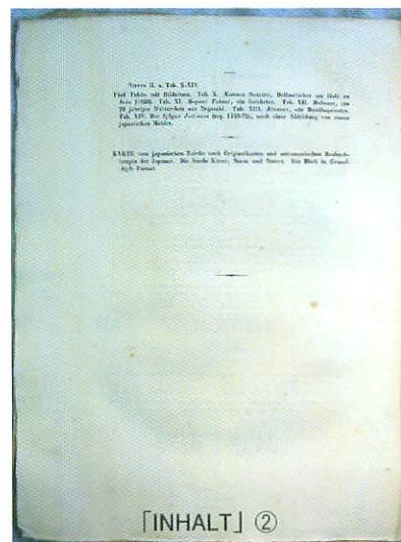
図版 仮表紙(11.12)



本文 仮表紙(9~10.11~12)



第8回配本の「INHALT」



「INHALT」②

〔第11. 12目録〕(「INHALT」)

NIPPON III

神話・歴史

日本の歴史についての報告

(1号の最後の論文からの続き)

日本歴史年表

第一期 征服者神武天皇から最初の高麗戦争まで。紀元前667年から紀元200年まで

第二期 最初の高麗戦争から仏教伝来，神功皇后から敏達天皇まで。200年から572年まで
 ページ27

第三期 仏教伝来から源頼朝の将軍支配の確立まで。572年から1186年まで ページ35

第四期 源頼朝の将軍支配の確立から源家康まで。1186年から1603年まで ページ59

第五期 源家康とその新秩序の建設から現在まで ページ82～88

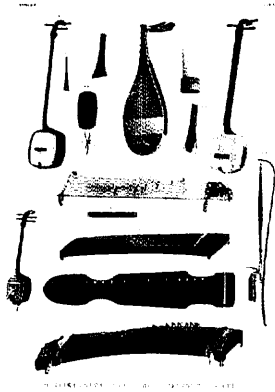
付録 「日本歴史年表」のオリジナルテキストのタイトルは「Wanenkei (和年契) sive succincti annales Japonici」 ページ1～25

図版

NIPPON IV. c. Tab. I - XIII

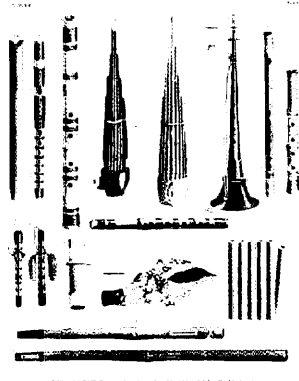
これら13個の図は楽器，作曲家，楽隊，踊り手，仮面を付けた人である

(242) 楽器



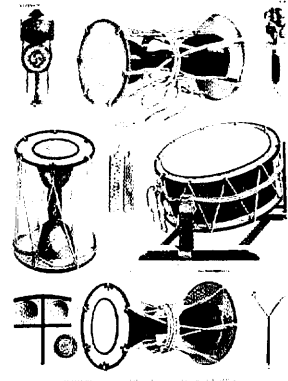
NIPPON IV TAB. I. c

(243) 楽器



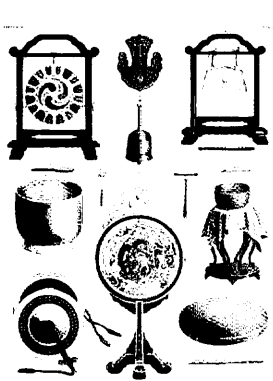
NIPPON IV TAB. II. c

(244) 楽器



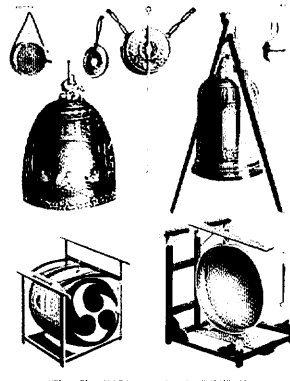
NIPPON IV TAB. III. c

(245) 楽器



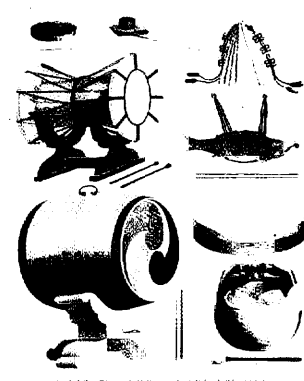
NIPPON IV TAB. IV. c

(246) 楽器



NIPPON IV TAB. V. c

(247) 楽器



NIPPON IV TAB. VI. c

(248) 楽器(倭琴・琴)



NIPPON IV TAB.VII.c

(249) 楽器(琵琶・箏)



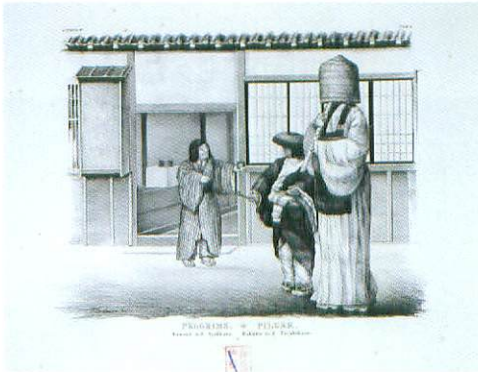
NIPPON IV TAB.VIII.c

(250) 楽器(三味線・鼓弓)



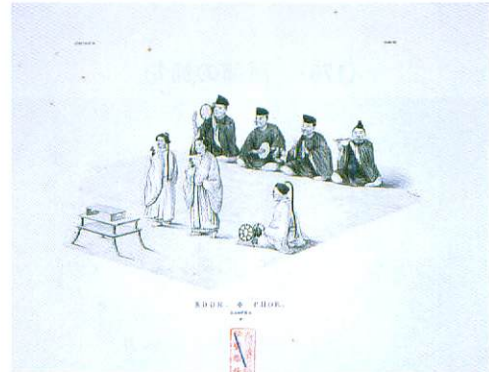
NIPPON IV TAB.IX.c

(251) 門付け(虚無僧・六部)



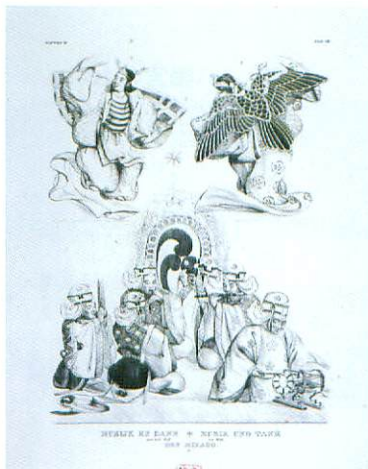
NIPPON IV TAB.X.c

(252) 神楽舞



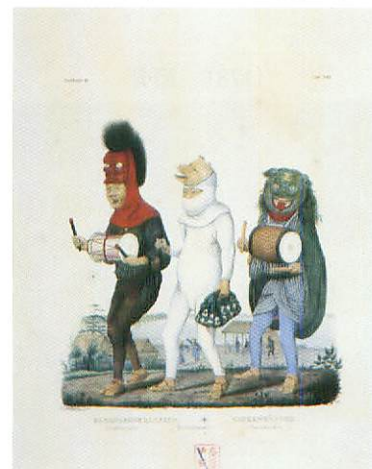
NIPPON IV TAB.XI.c

(253) 雅楽と舞



NIPPON IV TAB.XII.c

(254) 面をかぶった踊り手



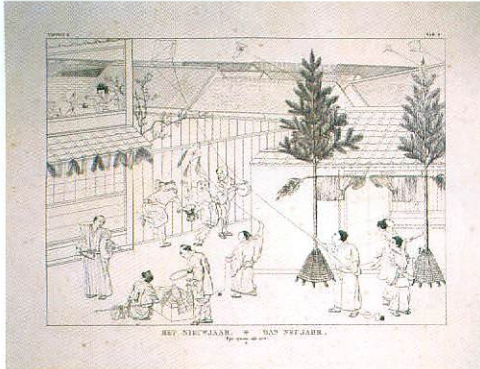
NIPPON IV TAB.XIII.c

NIPPON II. h. Tab. I - IV, VI, VII A - VII F, Tab. VIII - XII, Tab. XV

これら17個の図は日本人の祭りと休日の慣習に関してである

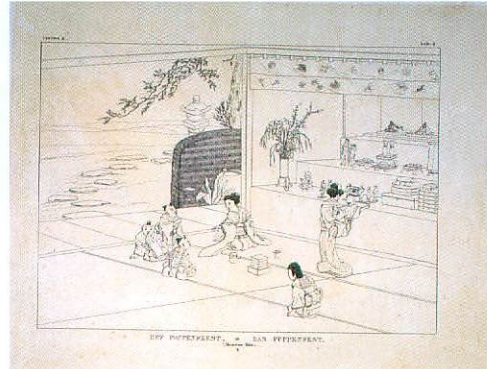
(Tab. V. XIII. XIVは近々出るであろう)

(174) 新年



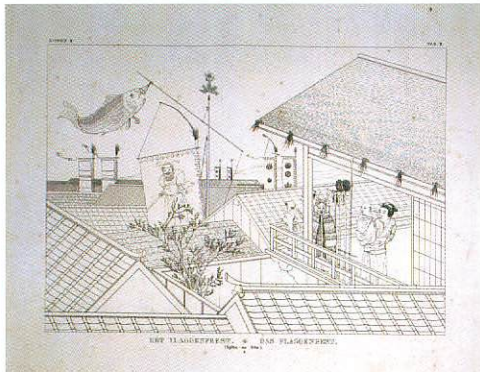
NIPPON II TAB. I. h

(175) 桃の節句



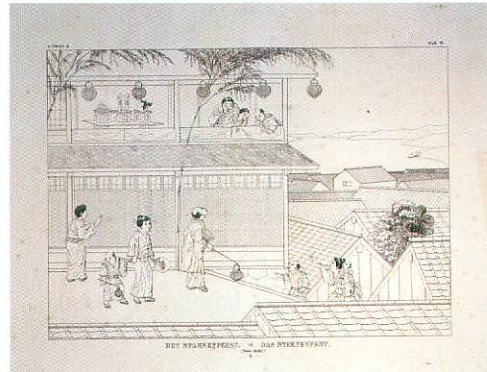
NIPPON II TAB. II. h

(176) 菖蒲の節句



NIPPON II TAB. III. h

(177) 七夕



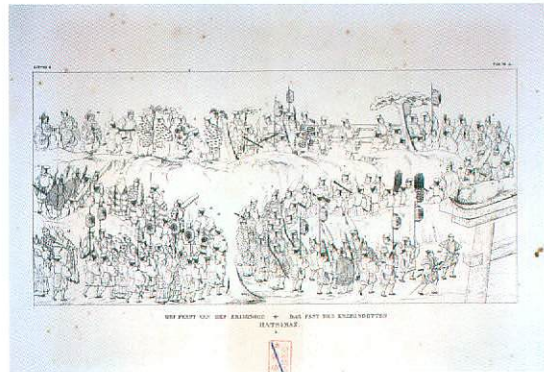
NIPPON II TAB. IV. h

(178) 節分



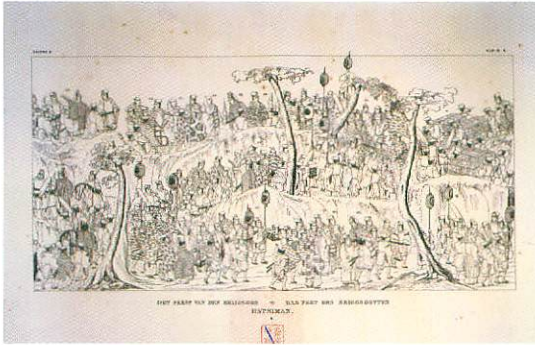
NIPPON II TAB. VI. h

(179) 八幡宮のお祭



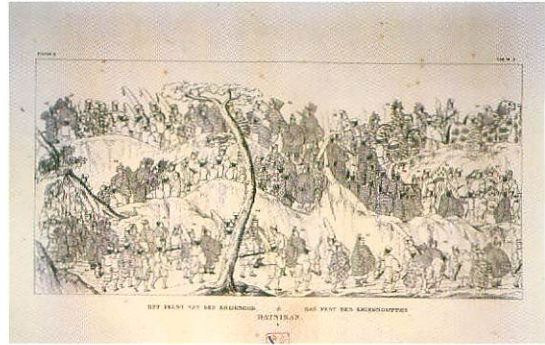
NIPPON II TAB. VII. A. h

(180) 八幡宮のお祭



NIPPON II TAB.VI.B.h

(181) 八幡宮のお祭



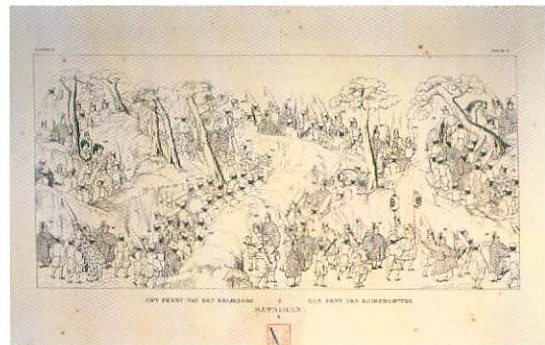
NIPPON II TAB.VI.C.h

(182) 八幡宮のお祭



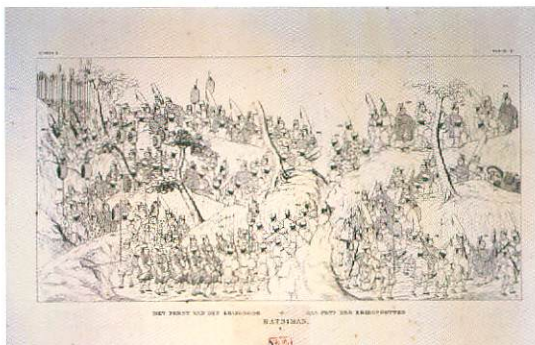
NIPPON II TAB.VI.D.h

(183) 八幡宮のお祭



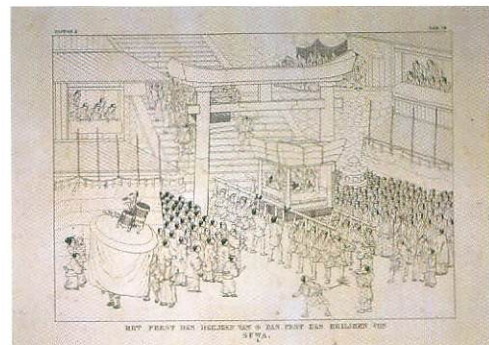
NIPPON II TAB.VI.E.h

(184) 八幡宮のお祭



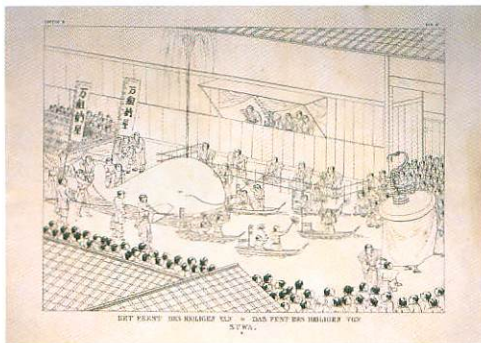
NIPPON II TAB.VI.F.h

(185) 諏訪明神のお祭



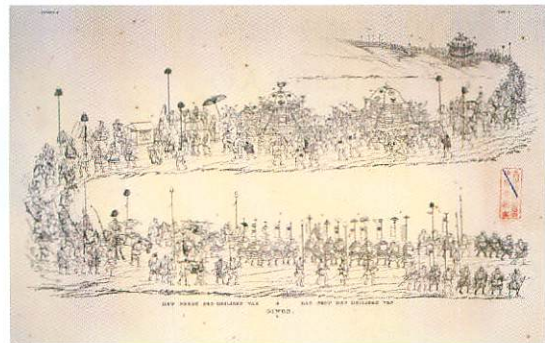
NIPPON II TAB.VII.h

(186) 諏訪明神のお祭



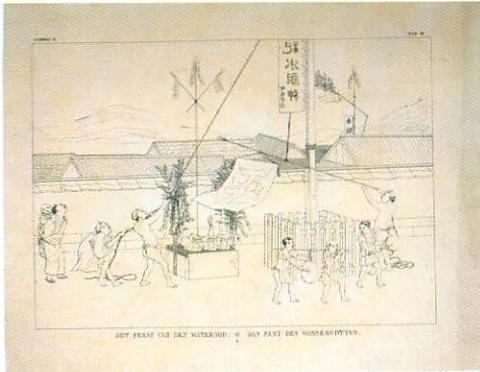
NIPPON II TAB.IX.h

(187) 祇園の祭礼



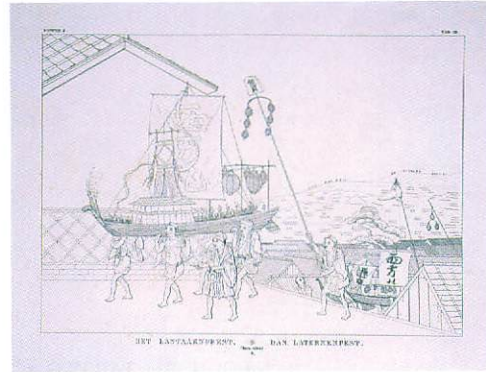
NIPPON II TAB.X.h

(188) 水神社の祭礼



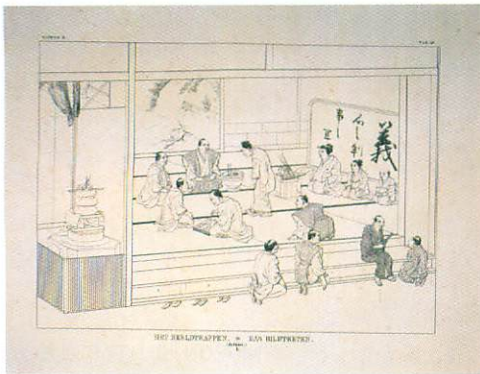
NIPPON II TAB.XI .h

(189) 盆灯笼



NIPPON II TAB.XII .h

(190) 踏み絵



NIPPON II TAB.XV .h

NIPPON II. a. Tab. X - XIV

これら5枚は肖像である

Tab. Xは江戸への参内の通訳である名村三次郎(1829年)

Tab. XIは学者の最上徳内

Tab. XIIは長崎から来た79

歳のおばあちゃん

(ばばさん)

Tab. XIIIはお坊さん

(ぼうずさん)

Tab. XIVは將軍義政(1449

~72) これらは日本人の

画家によって描かれた

(44) 名村三次郎(通訳)



NIPPON II TAB.X.a

(45) 最上徳内



NIPPON II TAB.XI .a

(46) ばばさん

(47) 坊主さん

(48) 義政(足利義政)



BABA-SAN.



NIPPON II TAB.XII.a



BUZZAN.



NIPPON II TAB.XIII.a

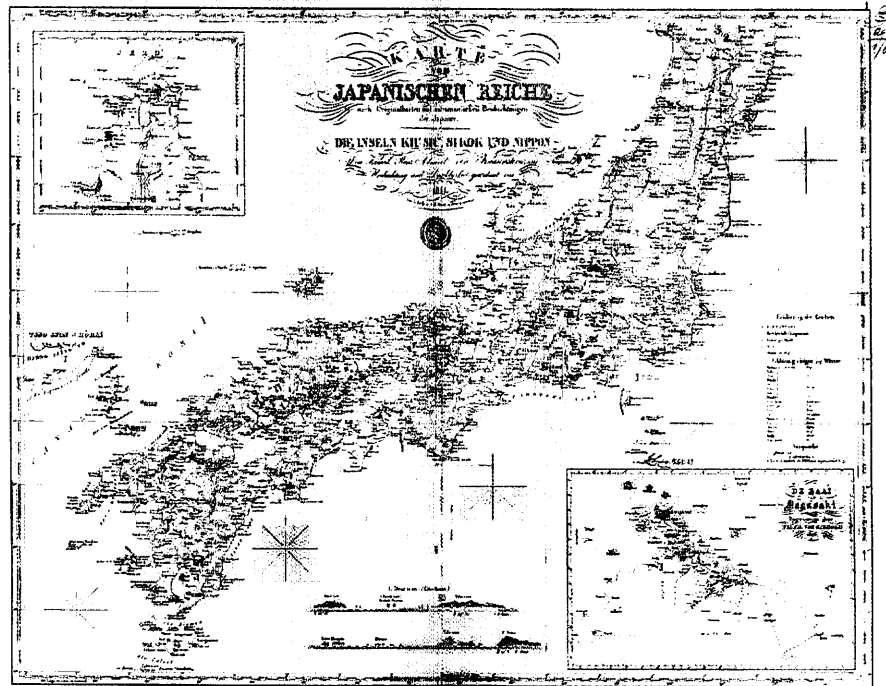


YOSHIMASA.

NIPPON II TAB.XIV.a

地図類

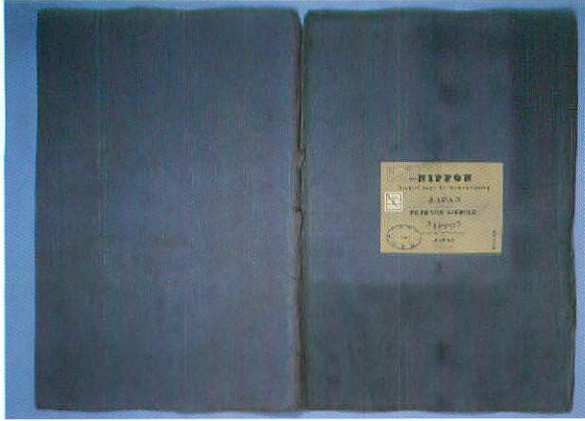
原図と日本人作成による天体観測に基づく日本国地図、九州・四国・日本「Grand Aigle」形式による図面



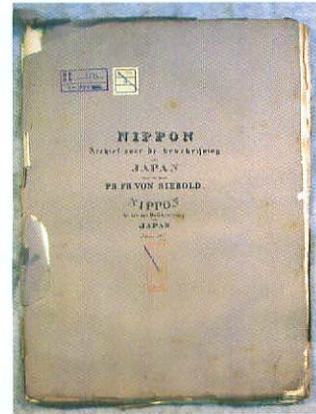
『NIPPON』の付図として配られたこの日本図（1840年刊）は、九大本に欠けているので、イギリス・王立地理学協会が所蔵する1841年刊の日本図で補った。これは、シーボルトが『NIPPON』のなかの地図を集めて出した1851年刊地図集に収録したものである。伊能忠敬の実測原図の写しをシーボルトが増補修正したものの。

【第10回配本】

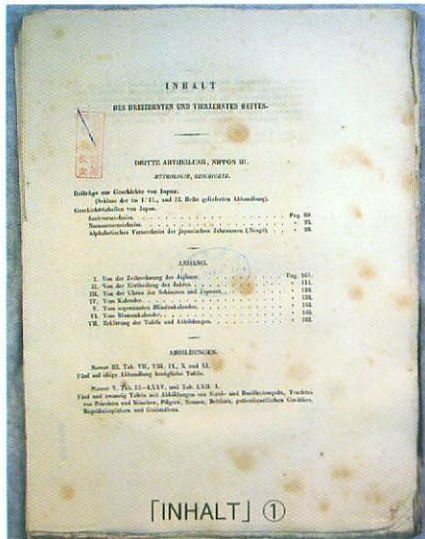
第10回配本も13・14分冊の合併であり、40枚の図版のうち本文（日本史への補足文と暦）と関係する暦の5枚がある。しかし、多くの図版はそれらの本文と関係ない神社・寺・僧侶などの宗教関係および寺社の建物図からなっている。



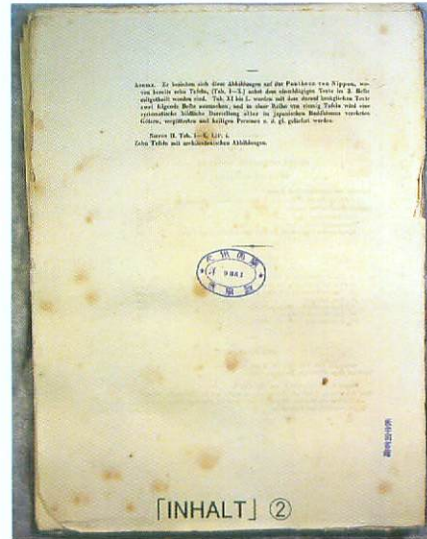
図版 仮表紙(13.14)



本文 仮表紙(13.14)



「INHALT」①



「INHALT」②

【第13. 14目録】（「INHALT」）

NIPPON III

神話・歴史

日本歴史への寄稿

（1, 11, 12号における救いようのない論文の帰結）

日本歴史年表

- 事項索引 ページ89
- 名簿 ページ92
- アルファベット順の日本の年号索引 ページ99

付録

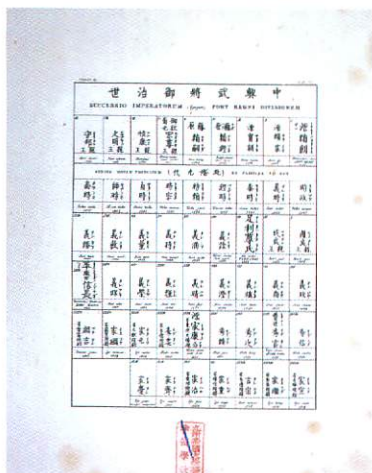
I. 日本の年代計算法について ページ101
 II. 一年の区切り方 ページ111
 III. 中国人と日本人の時間について ページ119
 IV. 暦について ページ135
 V. いわゆる盲暦について ページ143
 VI. 花暦について ページ149
 VII. 図表・図版の説明 ページ152

図解

NIPPON III, Tab. VII、VIII、IX、X、XI

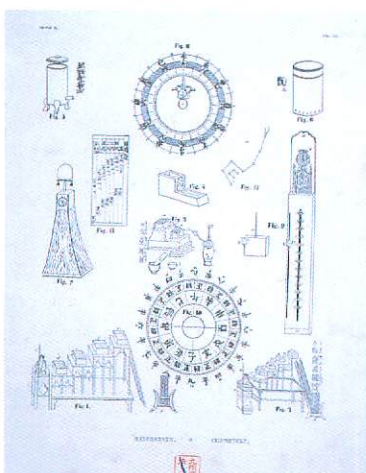
これら五つは前述の論文に関しての図表である

(217) 中興武将御治世



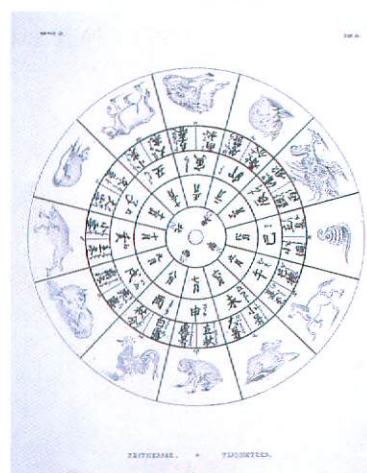
NIPPON III TAB.VII

(218) 時計



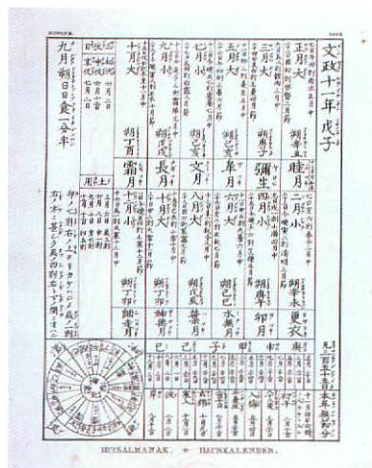
NIPPON III TAB.VIII

(219) 時候表



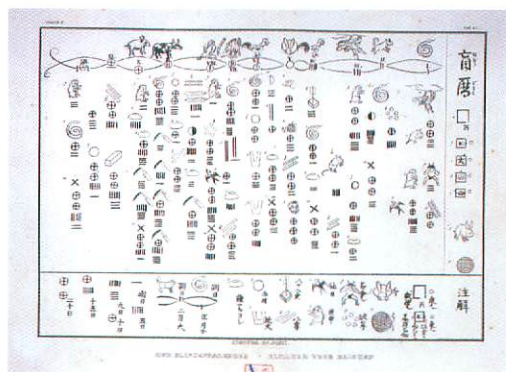
NIPPON III TAB.IX

(220) 暦 (文政11年)



NIPPON III TAB.X

(221) 盲暦



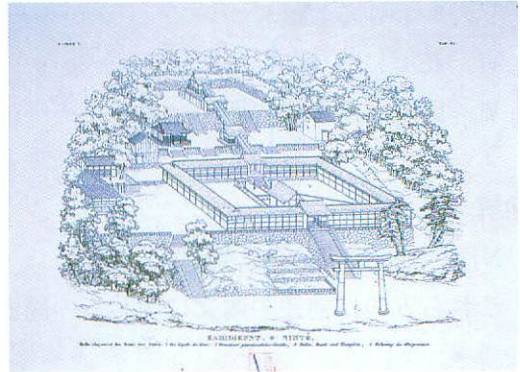
NIPPON III TAB.XI

NIPPON V, Tab.LI - LXXV と Tab.LXII . A

これらの25個の図は神道・仏教の寺，司祭・僧侶の服装，巡礼者，尼僧，乞食，神器，葬式場と墓についてである

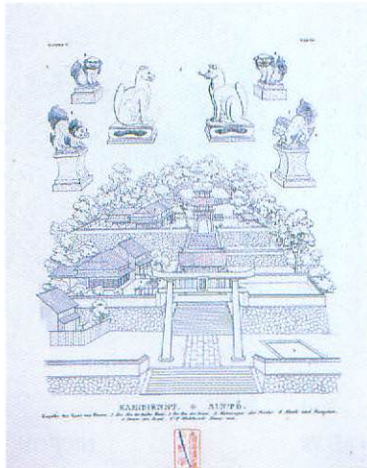
注釈 これらの図は日本における宗教的建造物に関連している。それによって，Tab. I ~ X の10個の図はすでに第3分冊の関連するテキストとともに報告されているのだが。Tab. XI ~ L はそれに関連するテキストとともに，2つの連続した分冊から構成され，40枚の図のシリーズにおいて，体系的・具体的な描写が，すべて日本の仏教における尊敬される偶像，崇拜される聖者等々について提供されるだろう

(296) 神道 諏訪明神の大社



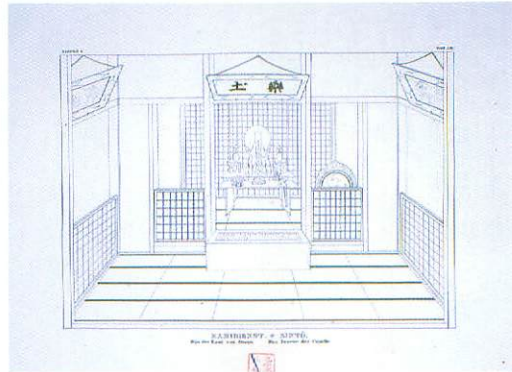
NIPPON V TAB.LI

(297) 神道 祇園社



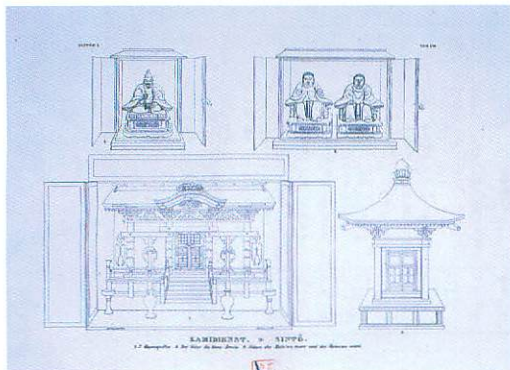
NIPPON V TAB.LII

(298) 神道 祇園社



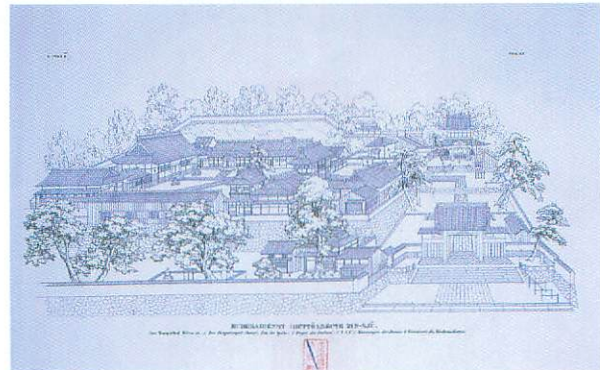
NIPPON V TAB.LIII

(299) 神道 神棚ほか



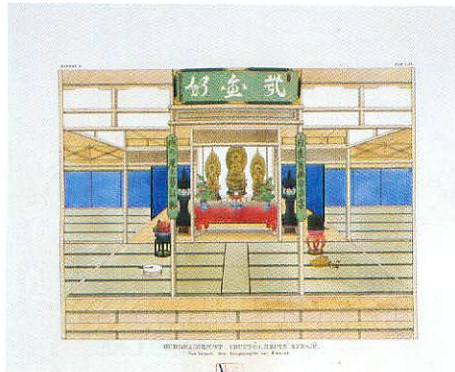
NIPPON V TAB.LIV

(300) 仏教 禅宗 皓台寺



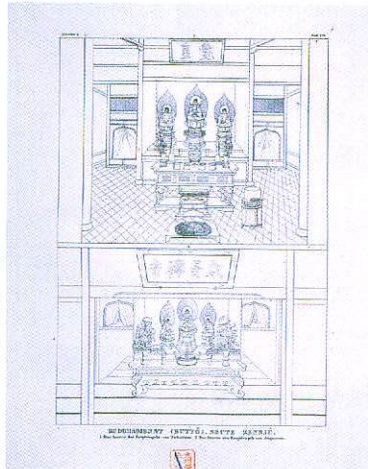
NIPPON V TAB.LV

(301) 仏教 皓台寺本堂



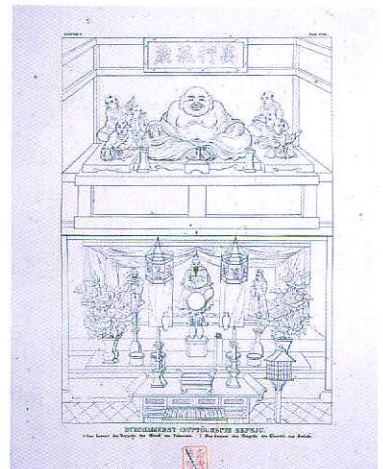
NIPPON V TAB.LVI

(302) 仏教 禅宗 福濟寺・永昌禅寺



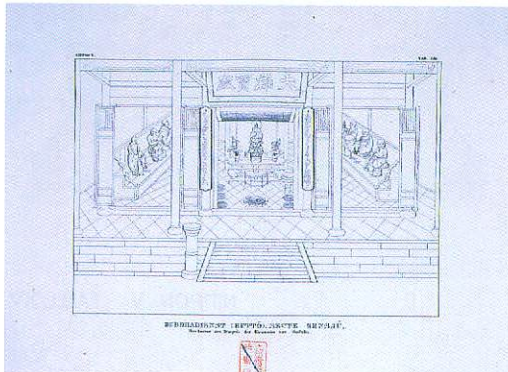
NIPPON V TAB.LVII

(303) 仏教 福濟寺彌勒堂ほか



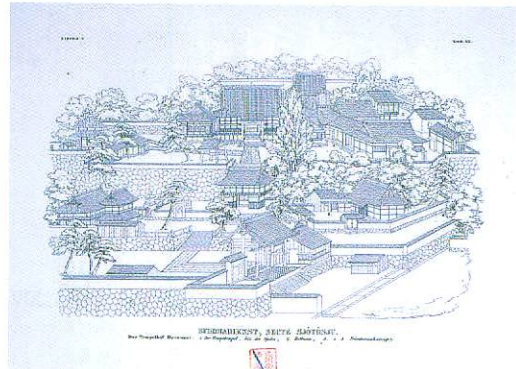
NIPPON V TAB.LVIII

(304) 仏教 禅宗 崇福寺観音堂



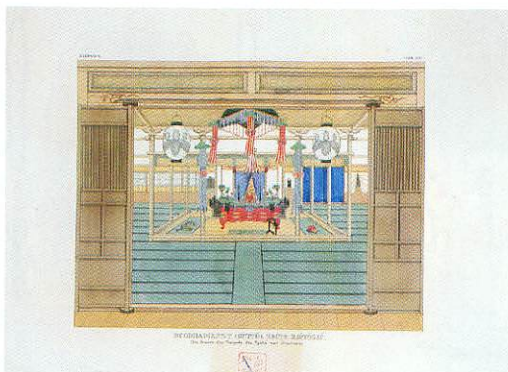
NIPPON V TAB.LIX

(305) 仏教 浄土宗 大音寺



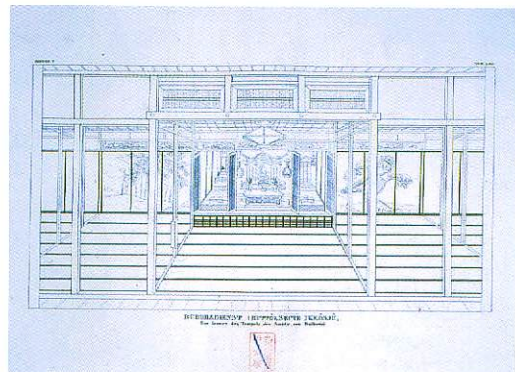
NIPPON V TAB.LX

(306) 仏教 大音釈迦堂



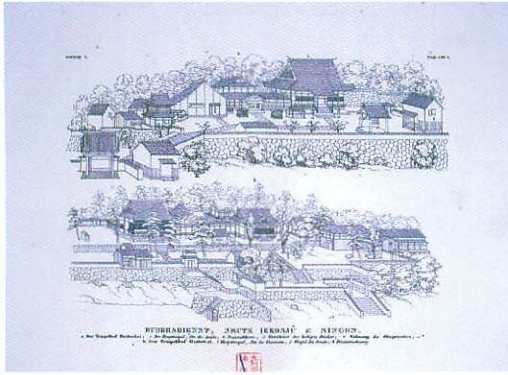
NIPPON V TAB.LXI

(307) 仏教 一向宗 大光寺



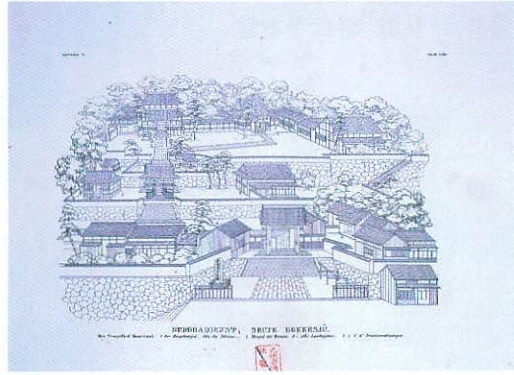
NIPPON V TAB.LXII

(308) 仏教 一向宗 大光寺ほか



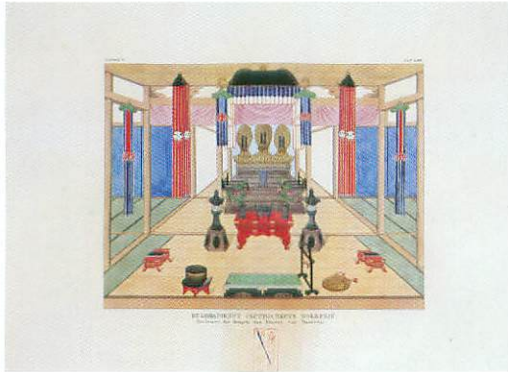
NIPPON V TAB.LXI a

(309) 仏教 法華宗 木蓮寺



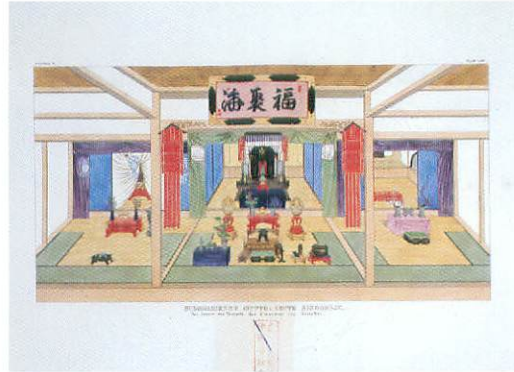
NIPPON V TAB.LXIII

(310) 仏教 法華宗 木蓮寺堂内



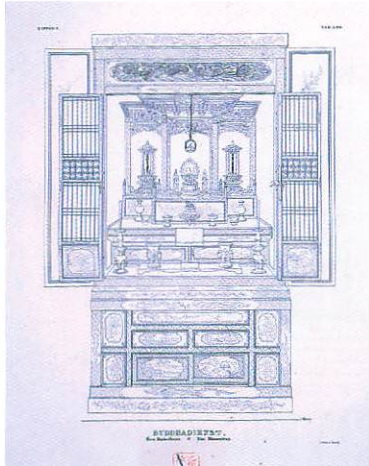
NIPPON V TAB.LXIV

(311) 仏教 真言宗 大徳寺観音堂



NIPPON V TAB.LXV

(312) 仏教 仏壇



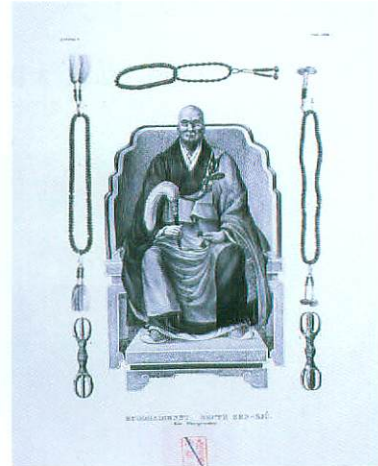
NIPPON V TAB.LXVI

(313) 神道と仏教



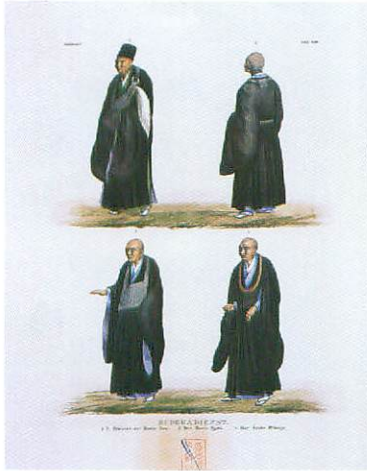
NIPPON V TAB.LXVII

(314) 仏教 禅宗 住職



NIPPON V TAB.LXVIII

(315) 仏教 僧



NIPPON V TAB.LXIX

(316) 仏教 僧



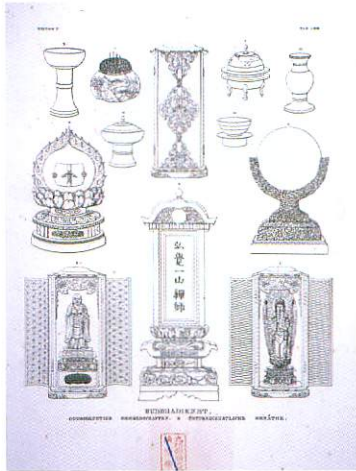
NIPPON V TAB.LXX

(317) 仏教 山伏・尼僧ほか



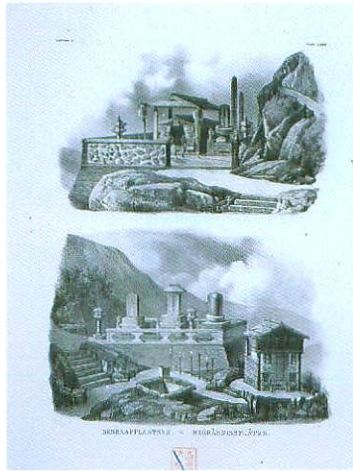
NIPPON V TAB.LXXI

(318) 仏教 位牌ほか



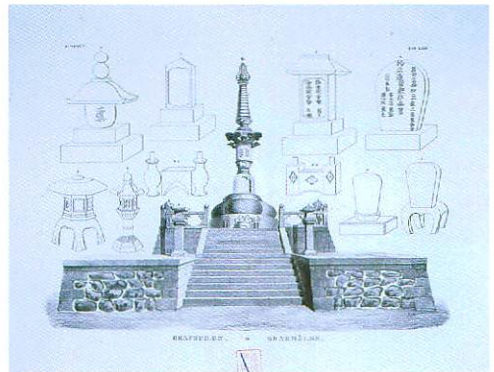
NIPPON V TAB.LXXII

(319) 墓地



NIPPON V TAB.LXXIII

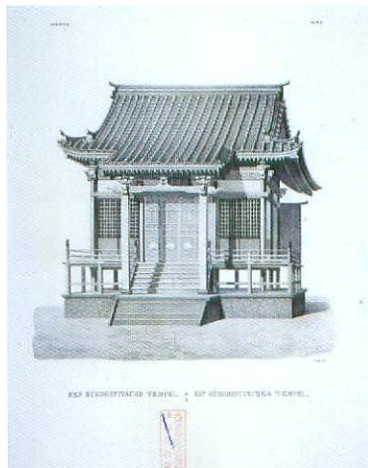
(320) 墓標・墓石



NIPPON V TAB.LXXIV

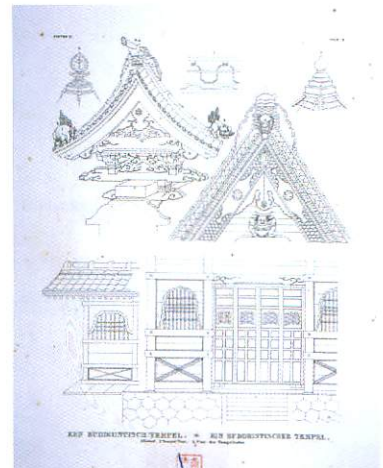
NIPPON II. Tab I ~ X. Lita. i
10個の図は建設物の図である

(191) 仏殿



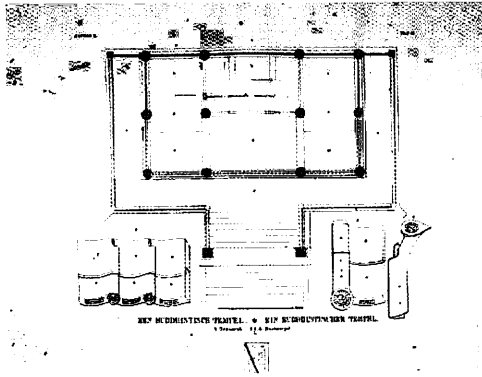
NIPPON II TAB. I. i

(192) 仏殿・破風



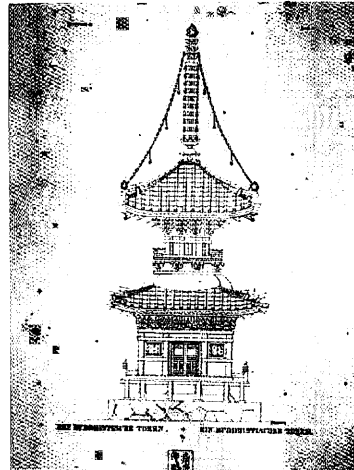
NIPPON II TAB. II. i

(193) 仏殿(平面図)



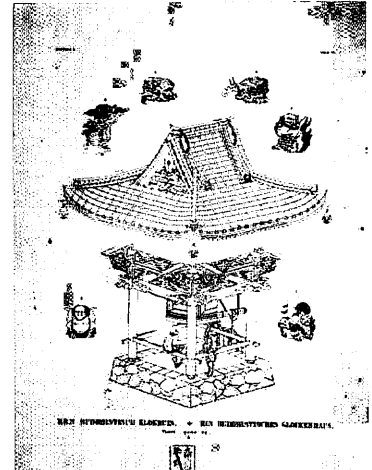
NIPPON II TAB.III.i

(194) 寺の塔



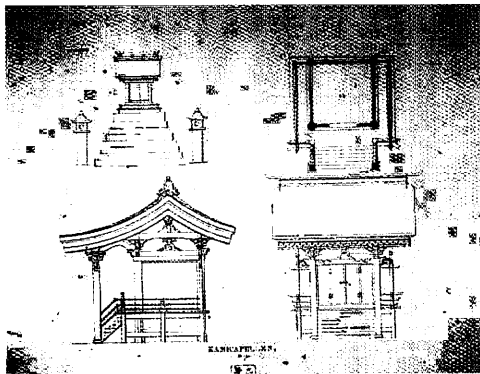
NIPPON II TAB.IV.i

(195) 鐘楼



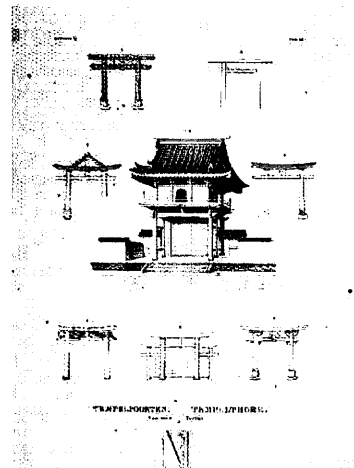
NIPPON II TAB.V.i

(196) 神社



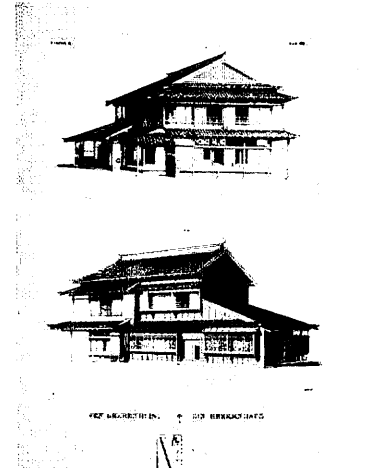
NIPPON II TAB.VI.i

(197) 山門・鳥居



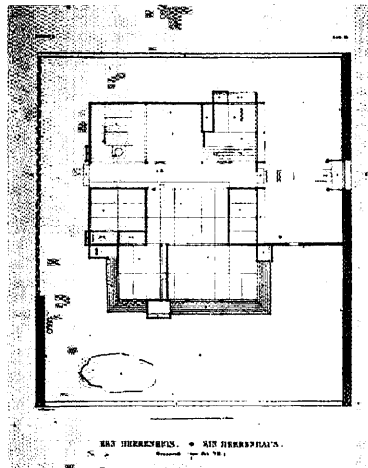
NIPPON II TAB.VII.i

(198) 屋敷



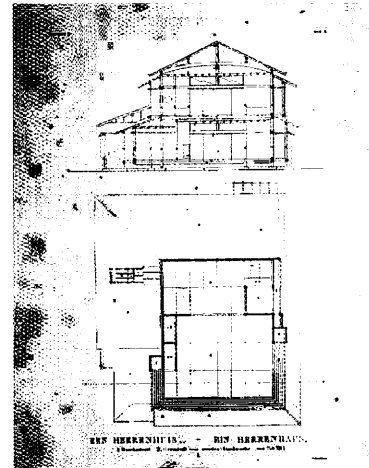
NIPPON II TAB.VIII.i

(199) 屋敷(平面図)



NIPPON II TAB.IX.i

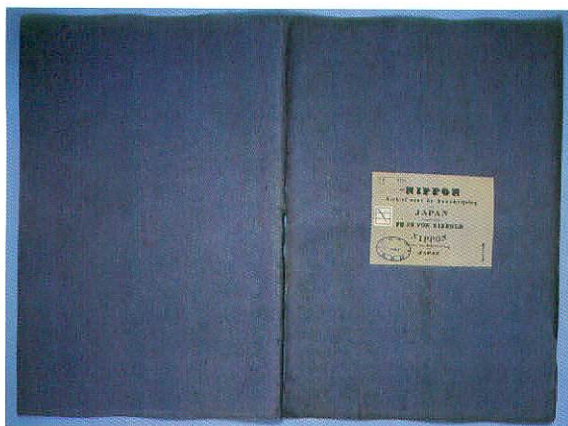
(200) 屋敷(断面図ほか)



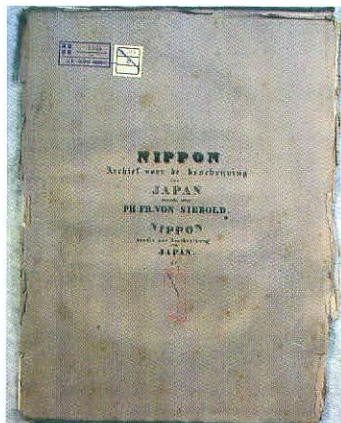
NIPPON II TAB.X.i

【第11回配本】

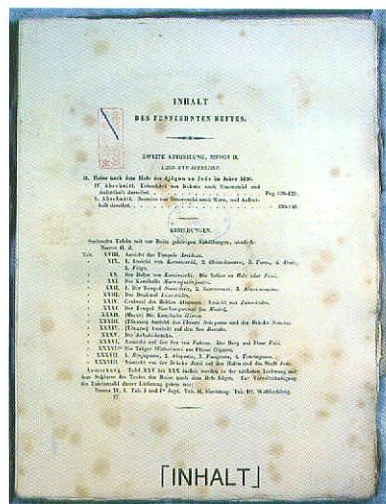
第11回配本は合併号でない。「NIPPON II」本文では江戸参府の後半部分を出しているが、下関から瀬戸内の室までであった。結局、その後の江戸までの旅行記は出なかったが、江戸までの風景を描いた図版はここで出された。その他に、狩猟・漁業・捕鯨を描いた3枚が添えられた。



図版 仮表紙(15)



本文 仮表紙(15)



【第15目録】(「INHALT」)

NIPPON II

陸と海の旅

1826年における将軍の宮殿へ向かう旅

IV章. 小倉から下関への渡航と下関での滞在

..... ページ108~129

V章. 下関から室への海の旅と室での滞在

..... ページ130~146

図解

これら16個の図は NIPPON II. d の図である

Tab. XVIII. 阿弥陀寺の風景

- ◇ XIX. 1. 上関, 2. 沖の家室, 3. 鞆, 4. 阿伏兎, 5. 兵庫の風景
- ◇ XX. 上関の港, 日比の製塩所
- ◇ XXI. 室明神の神社
- ◇ XXII. 1. 須磨寺, 2. 曾根の松, 3. 相生の松
- ◇ XXIII. 石の宝殿の碑
- ◇ XXIV. 勇士敦盛の墓石 石の宝殿からの風景
- ◇ XXXI. 西本願寺の風景(都)
- ◇ XXXII. (都の) 祇園神社
- ◇ XXXIII. (東海道の) 瀬田川と瀬田橋の風景

Tab. XXXIV. (東海道の)琵琶湖の風景

- ◇ XXXV. 矢矧橋
- ◇ XXXVI. 箱根の湖水を望む風景、富士山と富士川
- ◇ XXXVIbis. 大井川の人足、わたしもり
- ◇ XXXVII. 1. 馬入川, 2. 安部川, 3. 富士川, 4. 天竜川
- ◇ XXXVIII. 永代橋からみた江戸の港と街の風景

注釈 図 XXV ~ XXX までは、次に出版される分冊の宮殿への旅行の章の終わりに載せるであろう。
この分冊で挿絵数を完結させることとなる

(105) 下関 阿弥陀寺の風景



NIPPON II TAB. XVII. d

(106) 上関・鞆などの景



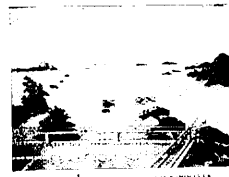
NIPPON II TAB. XIX. d

(107) 上関・日比の製塩所



NIPPON II TAB. XX. d

(108) 神社 宝明神



NIPPON II TAB. XXI. d

(109) 須磨寺ほか



NIPPON II TAB. XXII. d

(110) 石の宝殿



NIPPON II TAB.XXIII.d

(111) 勇士敦盛の墓石ほか



NIPPON II TAB.XXIV.d

(114) 京都 西本願寺



NIPPON II TAB.XXXI.d

(115) 京都 祇園社



NIPPON II TAB.XXXII.d

(116) 東海道 瀬田川



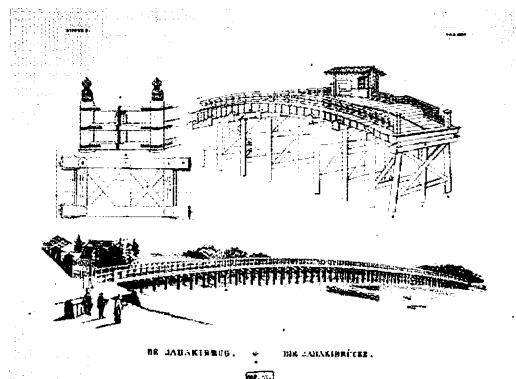
NIPPON II TAB.XXXIII.d

(117) 東海道 琵琶湖



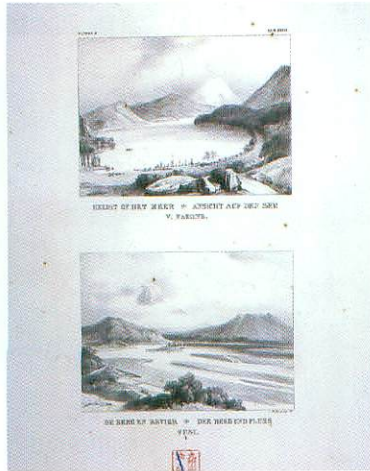
NIPPON II TAB.XXXIV.d

(118) 矢矧橋



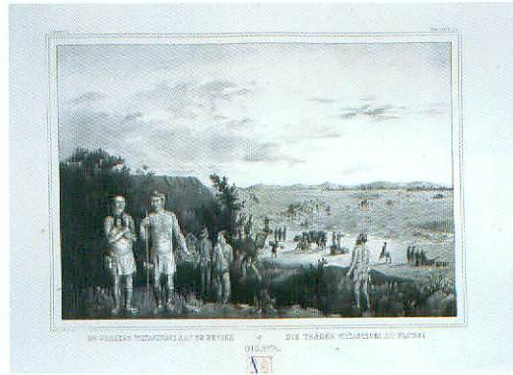
NIPPON II TAB.XXXV.d

(119) 箱根・富士川



NIPPON II TAB.XXXVI.b (*d)

(120) 大井川の川越え人足



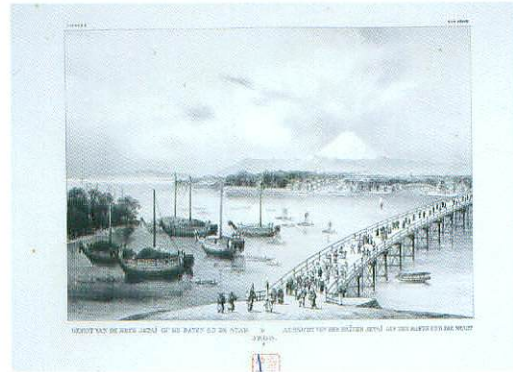
NIPPON II TAB.XXXVI.bis.

(121) 馬入川・天竜川ほか



NIPPON II TAB.XXXVII.d

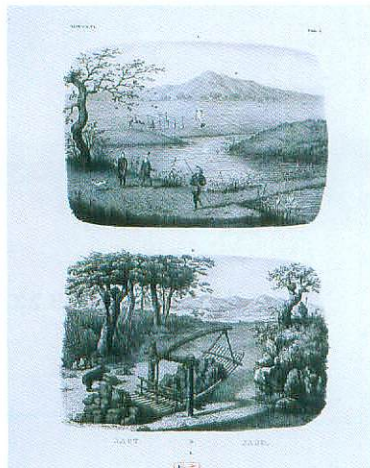
(122) 永代橋からの江戸の風景



NIPPON II TAB.XXXVIII.d

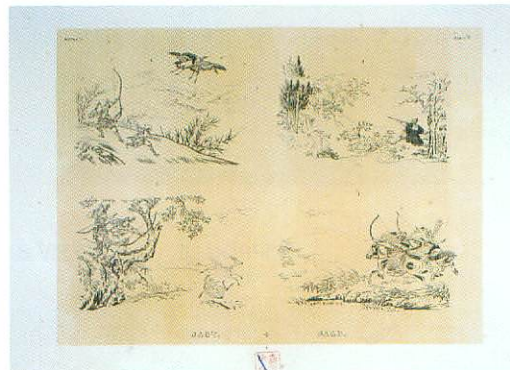
NIPPON IV(*VIの誤り). b.Tab. I と I bis は狩猟の図, Tab. II は漁猟の図, Tab. III は鯨漁の図である

(333) 狩猟



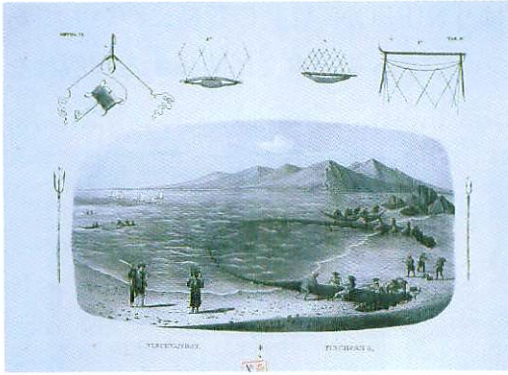
NIPPON VI TAB. I. b

(334) 狩猟



NIPPON VI TAB. I. bis. b

(335) 漁獲(地引網)



NIPPON VI TAB. II. b

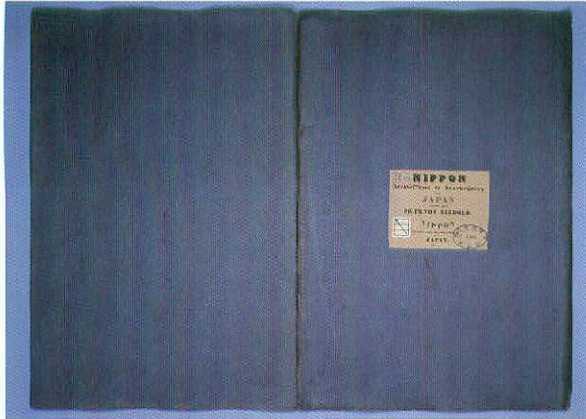
(336) 捕鯨



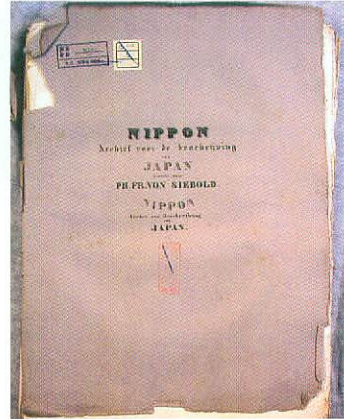
NIPPON VI TAB. III. d (*b)

【第12回配本】

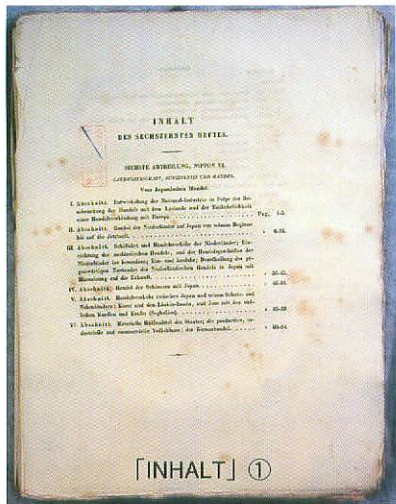
第12回配本も合併号でなく、16分冊を出す。本文は「NIPPON VI」の貿易についてであるが、図版20枚は日本人の容貌や家具、貨幣や農村風景についてであり、本文に関する図版はない。



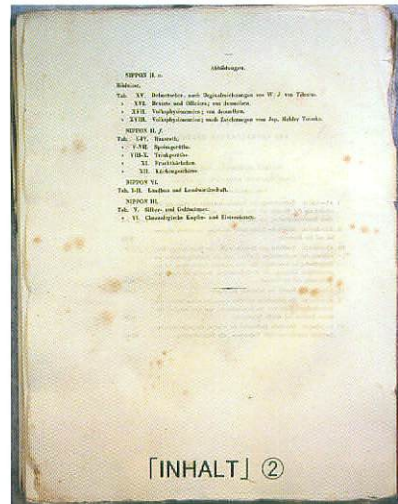
図版 仮表紙(16)



本文 仮表紙(16)



「INHALT」①



「INHALT」②

〔第16目録〕(「INHALT」)

NIPPON VI

農業・工芸・貿易

日本の貿易

I 章. 対外貿易の制限と対ヨーロッパ通商関係途絶の結果の国内産業の発展 … ページ 1～5

II 章. 日本におけるオランダ貿易の始まりから現在まで …………… ページ 6～35

III 章. オランダ人の航海と貿易。対外貿易の手配、特にオランダ商人の貿易事務所
輸入品と輸出品、日本におけるオランダ貿易の現状と将来の展望に関する評価
…………… ページ36～45

IV 章. 日本と中国の貿易 …………… ページ46～54

V 章. 日本とその保護国・近隣諸国：高麗，琉球，蝦夷，南千島列島，樺太の貿易
…………… ページ55～59

VI 章. 国家の物質的救済手段，生産的・工業的・商業的階級，国内産業 …………… ページ60～64

NIPPON II. a

肖像画

Tab. XV. 通訳 W. J. Tilestus によるオリジナルスケッチ

- ♪ XVI. 役人と武士；同上
- ♪ XVII. 日本人の様相；同上
- ♪ XVIII. 日本人の様相；日本人画家、といおすけ (Toioske) のスケッチ

(49) 通訳



NIPPON II TAB. XV. a

(50) 役人と武士



NIPPON II TAB. XVI. a

(51) 日本人の様相



NIPPON II TAB. XVII. a

(52) 日本人の様相



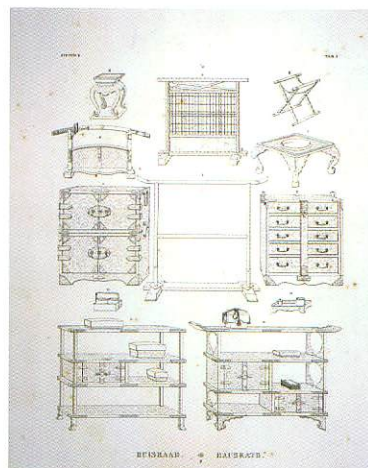
NIPPON II TAB. XVIII. a

NIPPON II. f

Tab. I ~ IV. 家具

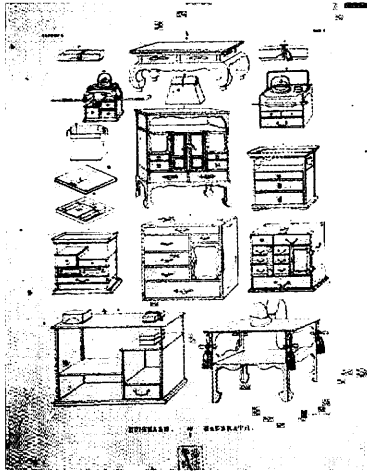
- ♪ V ~ VII. 食事道具
- ♪ VIII ~ X. 飲み物の道具
- ♪ XI. 果物の籠
- ♪ XII. 台所用具

(150) 家具



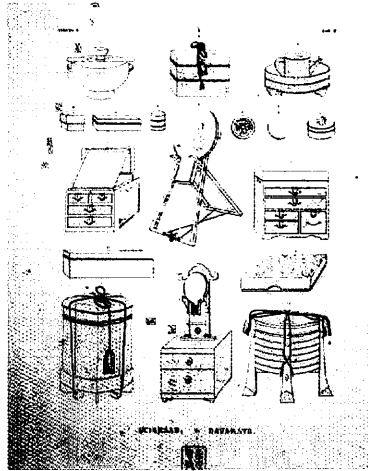
NIPPON II TAB. I. f

(151) 家具



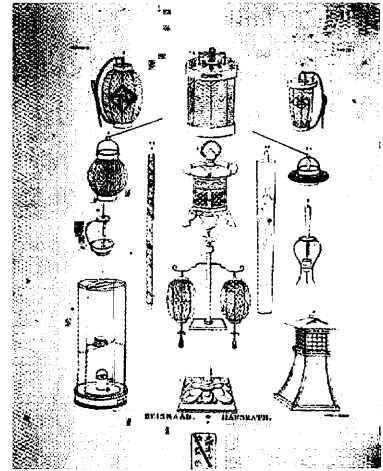
NIPPON II TAB. II.f

(152) 家具



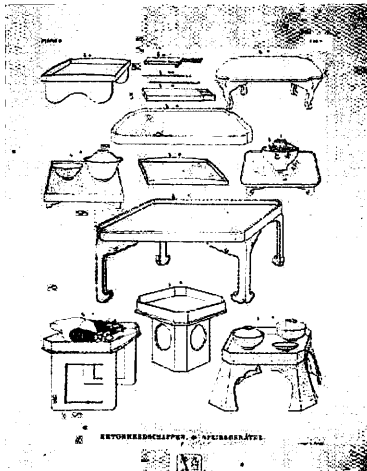
NIPPON II TAB. III.f

(153) 家具



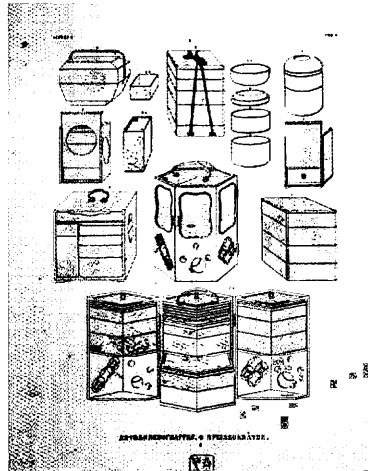
NIPPON II TAB. IV.f

(154) 食事道具



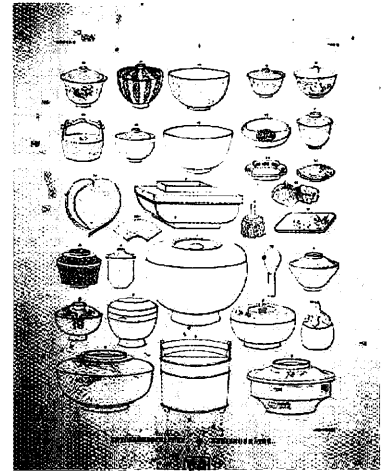
NIPPON II TAB. V.f

(155) 食事道具



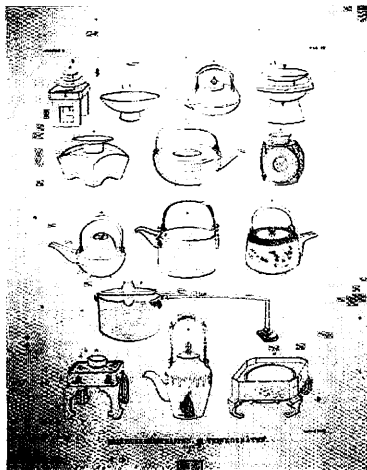
NIPPON II TAB. VI.f

(156) 食事道具



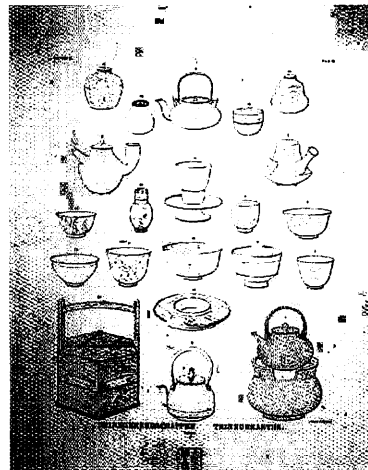
NIPPON II TAB. VII.f

(157) 酒器



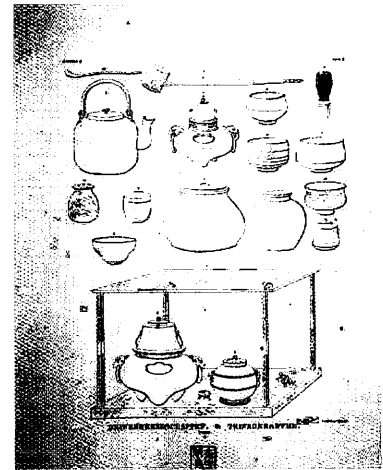
NIPPON II TAB. VIII.f

(158) 茶器



NIPPON II TAB. IX.f

(159) 茶器



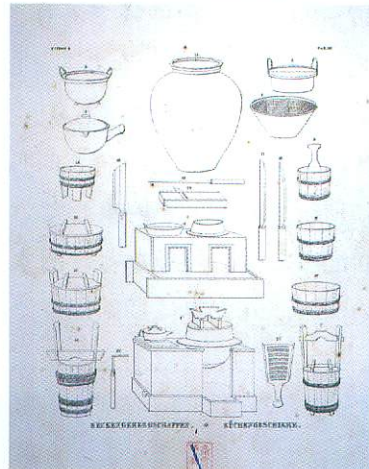
NIPPON II TAB. X.f

(160) 果物籠



NIPPON II TAB.XI.f

(161) 台所用具

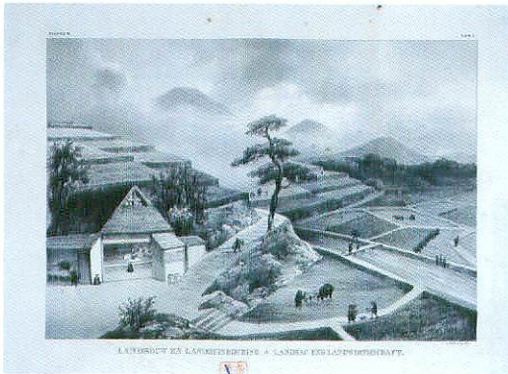


NIPPON II TAB.XII.f

NIPPON VI

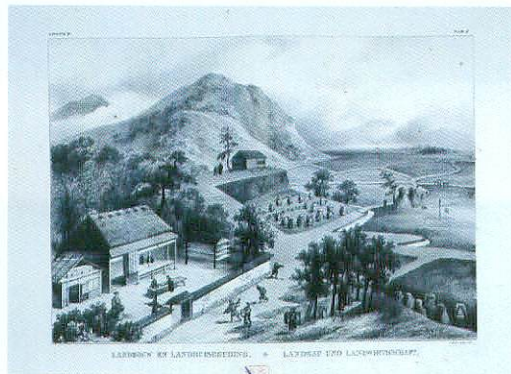
Tab. I ~ II. 農場と農業の施設

(321) 農業



NIPPON VI TAB. I

(322) 農業



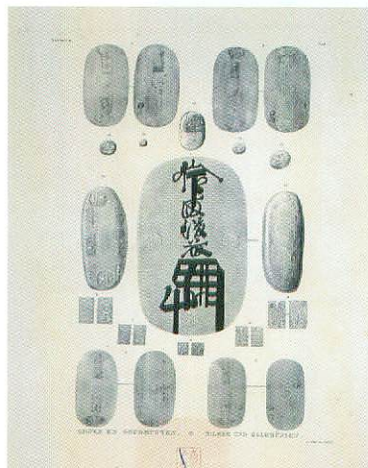
NIPPON VI TAB. II

NIPPON III

Tab. V. 銀貨・金貨

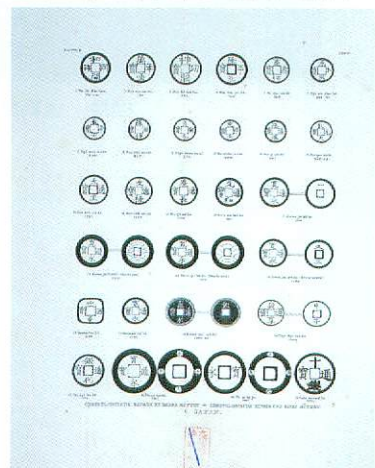
◇ VI. 年代順の銅貨・鉄貨

(226) 銀貨・金貨



NIPPON III TAB.V

(227) 年代順の銅貨・鉄貨

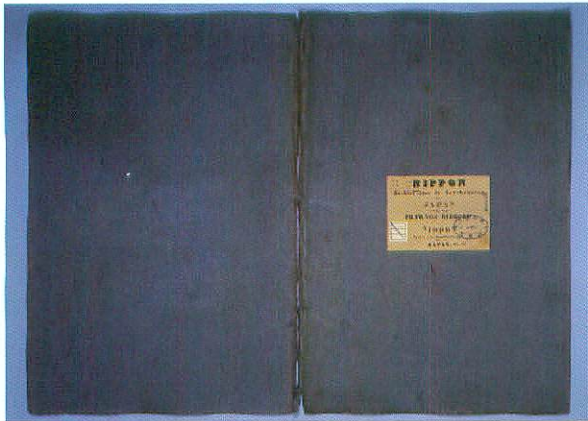


NIPPON III TAB.VI

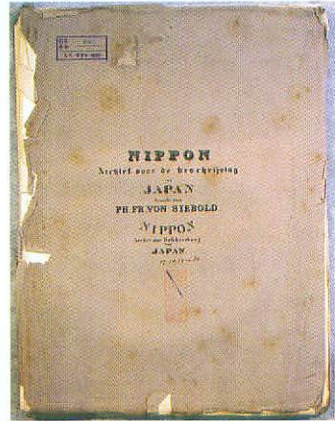
【第13回配本】

第13回配本は17～20分冊の合併号であり、本文は各章にまたがっている。図版66枚（うち2枚の地図は同一紙に印刷されている）のうち、約半分の31枚は『仏像図彙』からとった図である。「INHALT」にはシーボルトの報告があり、1851年9月の日付がある。本文と図版のズレ、欠落したページ・図版への苦情に対するシーボルトの返答が書かれている。彼はあと2回の配本で終わること、1852年中に刊行することを約束しているが、それは実現できなかった。

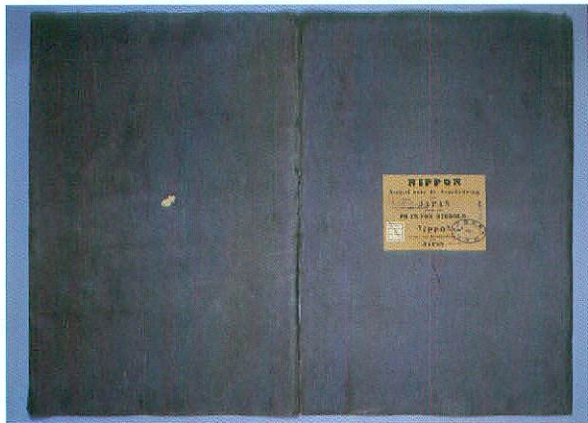
1851年の第13回配本の後、琉球などに関する本文が1857～58年頃に出たが、どのように配本されたのかわかっていない。九大本は13回配本で終わっている。



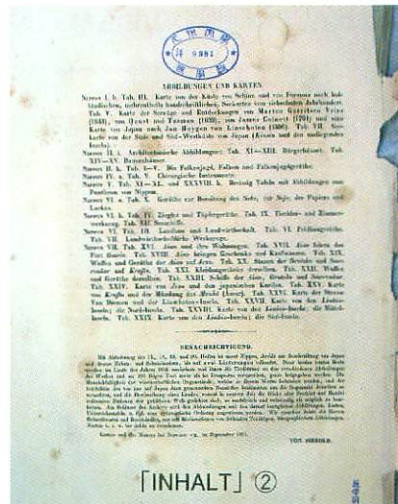
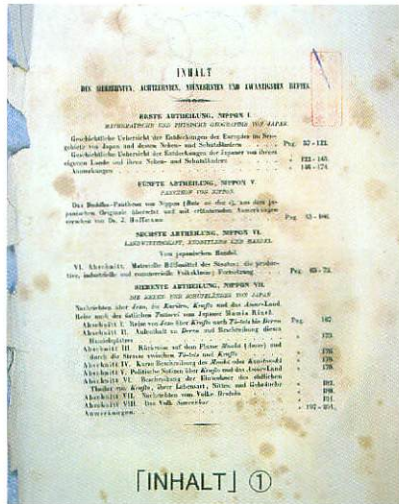
図版 仮表紙(17.18)



本文 仮表紙(17～20)



図版 仮表紙(19.20)



〔第17. 18. 19. 20目録〕 (「INHALT」)

NIPPON I

日本の数理・自然地理学

日本とその近隣諸国・保護国の海域におけるヨーロッパ人の発見の歴史的概容 …… ページ57～122

日本の自国の領土とその近隣諸国・保護国についての日本人の発見の歴史的概容

…………… ページ122～145

注釈 …………… ページ146～174

NIPPON V

日本の神

日本のブツダ (仏像図彙), 日本のオリジナルからの翻訳とホフマン博士により提供された

注釈付 …………… ページ45～186

NIPPON VI

農業・工芸・貿易

日本の貿易について

第6章 国家の物質的救済手段, 生産的・工業的・商業的な人々の階級続き … ページ65～72

NIPPON VII

日本の近隣諸国と保護国

蝦夷・千島列島・樺太・黒竜江地方

日本人間宮林蔵の東タタリアへの旅

I章. 蝦夷から樺太を經由して東韃地方のデレンまでの旅 …………… ページ167

II章. デレン滞在と交易所の記述 …………… ページ173

III章. マンコー河と、東韃と樺太の海峡を通る旅 …………… ページ176

IV章. マンコー河またはコントンコー河についての短い記述 …………… ページ178

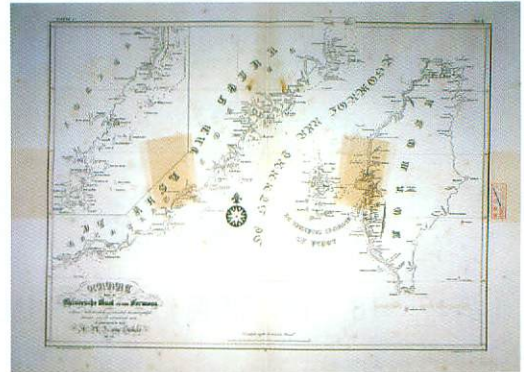
V章. 樺太と黒竜江地方の政治に関する覚え書き …………… ページ179

VI章. 南樺太地方の原住民の生活様式・風習・慣習についての記述 ページ182
 VII章. ヲロッコについての情報 ページ189
 VIII章. スメレンクル人について ページ191
 注釈 ページ197~204

(9) 中国沿岸と台湾の地図

図と地図

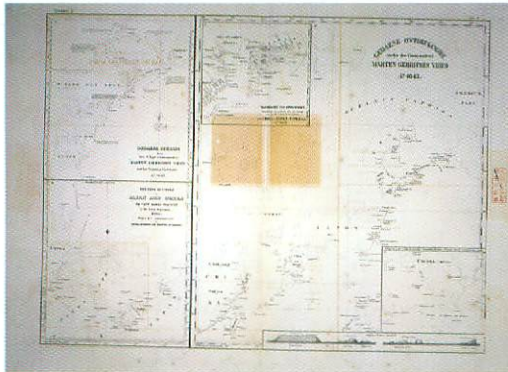
NIPPON I. b. Tab. III. 17世紀のオランダの大部分手書きの海図を元にした中国と台湾の沿海の地図. Tab. V. 1643年M. G. フリース, 1639年クワストとタスマン, 1791年J. コルネットの発見と航路の地図, 1596年リンスホーテンによる日本地図. Tab. VII. 日本の南, 南西海図(九州とその周囲の島々)



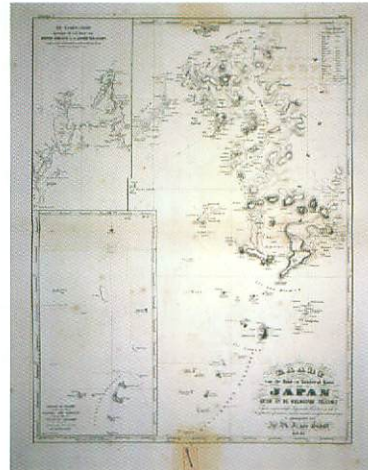
NIPPON I TAB. III. b

(14) 日本の南および南西沿岸の地図

(11) 西欧の諸地図における日本



NIPPON I TAB. V



NIPPON I TAB. VII. b

(201) 民家 名主の住い・醤油屋など

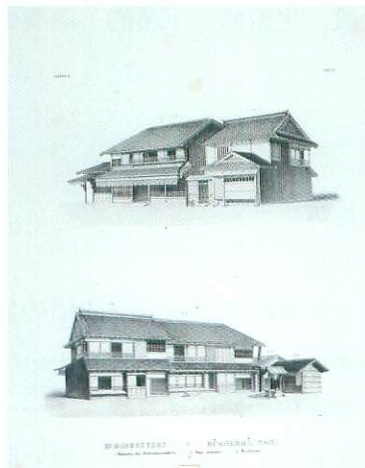
(202) 民家 酒屋・呉服屋

NIPPON II. i.

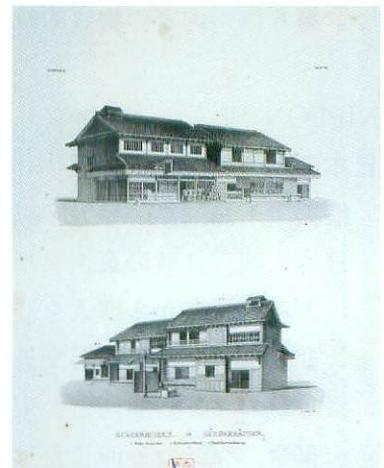
建造物:

Tab. XI ~ XIII. 民家

Tab. XIV ~ XV. 農家

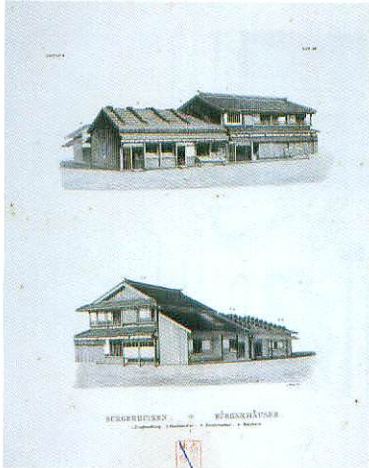


NIPPON II TAB. XI. i



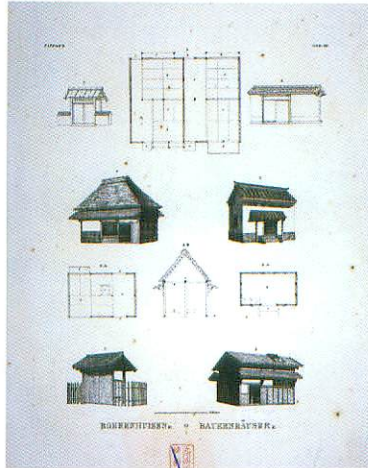
NIPPON II TAB. XII. i

(203) 民家 呉服屋・魚屋など



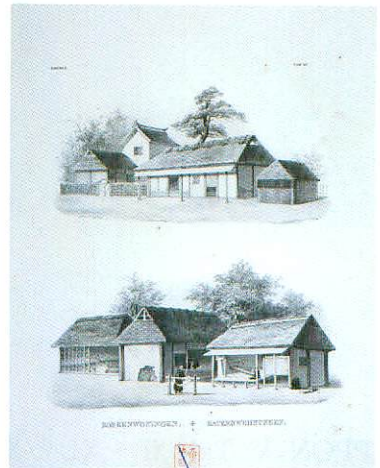
NIPPON II TAB. XIII.i

(204) 農家など



NIPPON II TAB. XIV.i

(205) 農家

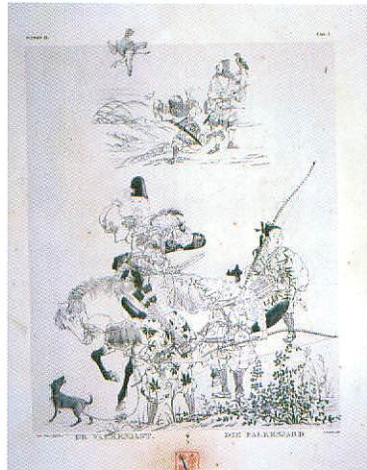


NIPPON II TAB. XV.i

NIPPON II. k.

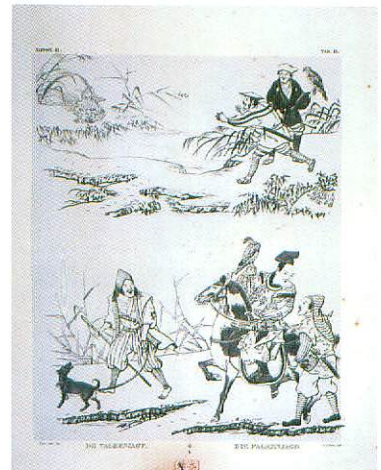
Tab. I ~ V. 鷹狩り・鷹
鷹狩りの道具

(206) 鷹狩り



NIPPON II TAB. I.k

(207) 鷹狩り



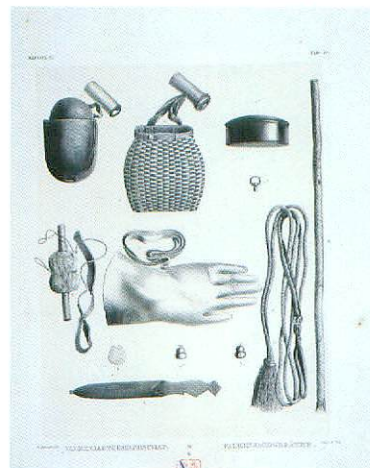
NIPPON II TAB. II.k

(208) 鷹狩りの鷹



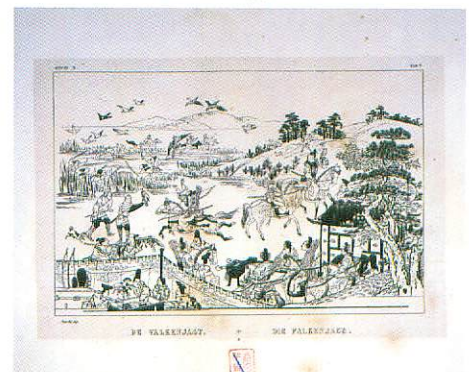
NIPPON II TAB. III.k

(209) 鷹狩りの道具



NIPPON II TAB. IV.k

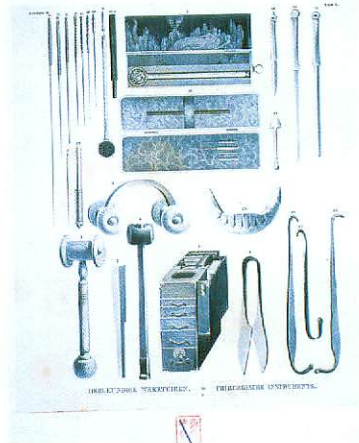
(210) 鷹狩り



NIPPON II TAB. V.k

NIPPON IV. a. Tab. V. 外科の器具

(230) 外科の器具

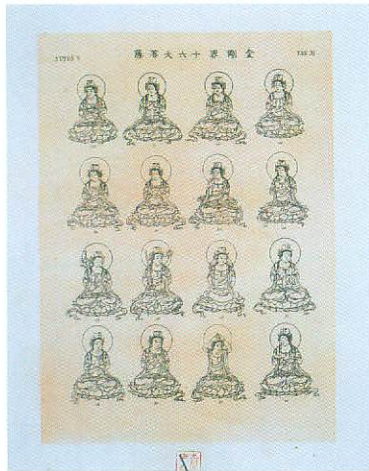


NIPPON IV TAB.V.a

NIPPON V. Tab. XI ~ XL と XXXVIII. b.

30個の図は日本の神々についての図

(265) 金剛界十六菩薩



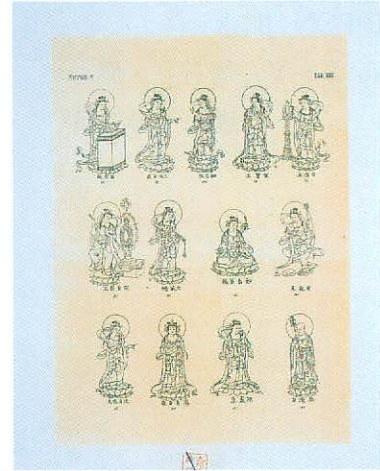
NIPPON V TAB.XI

(266) 二十五菩薩



NIPPON V TAB.XII

(267) 二十五菩薩



NIPPON V TAB.XIII

(268) 七観音



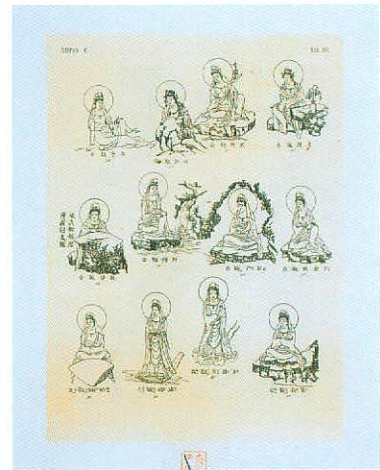
NIPPON V TAB.XIV

(269) 三十三体観音



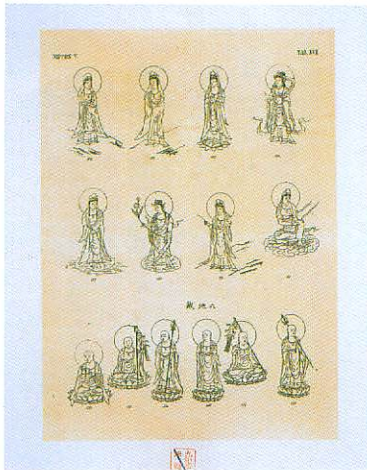
NIPPON V TAB.XV

(270) 三十三体観音



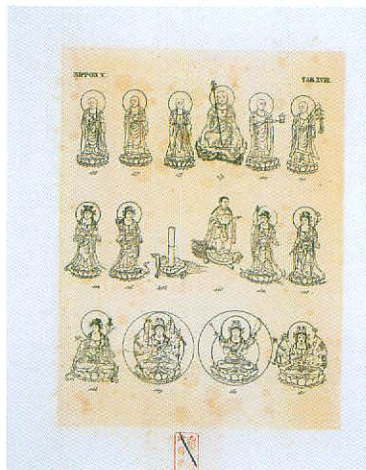
NIPPON V TAB.XVI

(271) 三十三体観音・六地藏



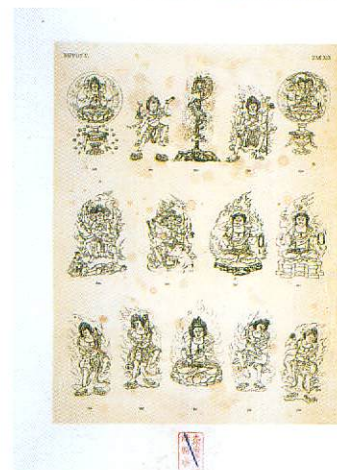
NIPPON V TAB. XVII

(272) 六地藏・妙見菩薩ほか



NIPPON V TAB. XVIII

(273) 五大明王・五大力菩薩ほか



NIPPON V TAB. XIX

(274) 明王・三十日秘仏



NIPPON V TAB. XX

(275) 三十日秘仏・三十番神



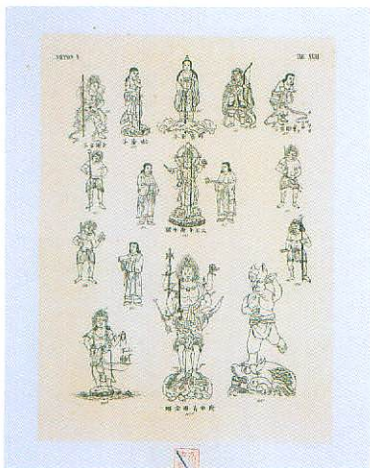
NIPPON V TAB. XXI

(276) 稲荷大明神ほか



NIPPON V TAB. XXII

(277) 庚申青面金剛ほか



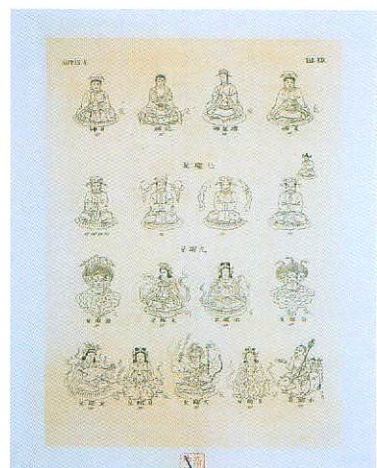
NIPPON V TAB. XXIII

(278) 不動八大童子ほか



NIPPON V TAB. XXIV

(279) 七曜星・九曜星



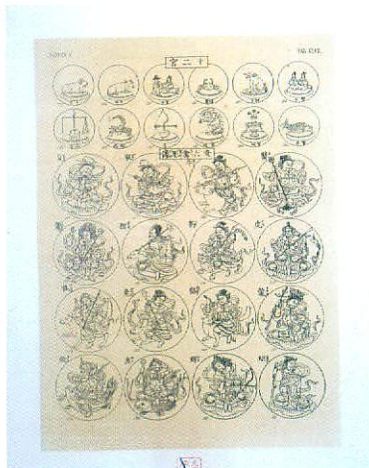
NIPPON V TAB. XXV

(280) 二十八宿



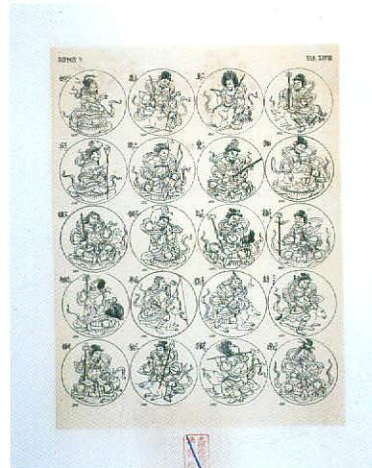
NIPPON V TAB. XXVI

(281) 十二宮ほか



NIPPON V TAB. XXVII

(282) 三十六禽形像



NIPPON V TAB. XXVIII

(283) 十二天ほか



NIPPON V TAB. XXIX

(284) 刀八毘沙門天ほか



NIPPON V TAB. XXX

(285) 弁財天女



NIPPON V TAB. XXXI

(286) 武門三天神像ほか



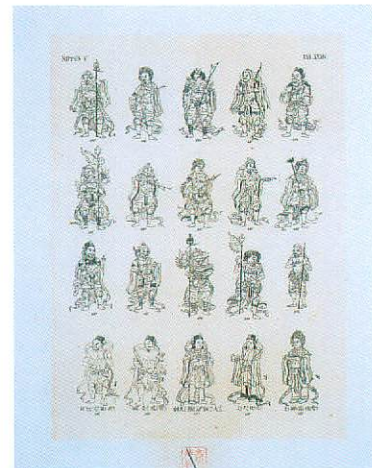
NIPPON V TAB. XXXII

(287) 薬師十二神将ほか



NIPPON V TAB. XXXIII

(288) 大般若守護十六善神



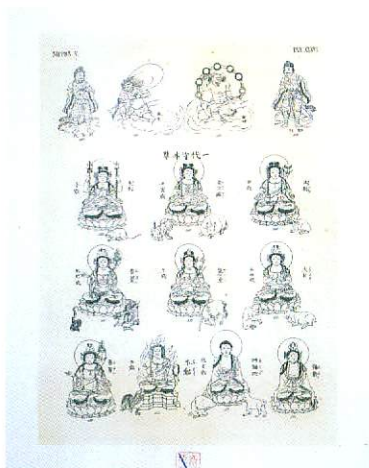
NIPPON V TAB. XXXIV

(289) 観音二十八部衆



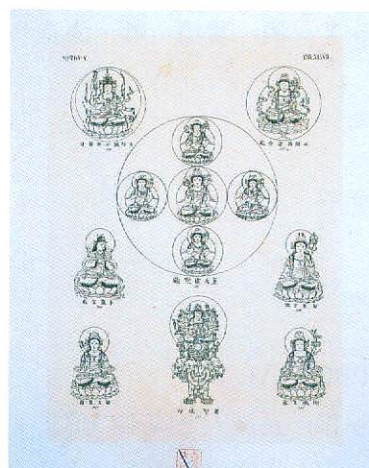
NIPPON V TAB. XXXV

(290) 一代守本尊



NIPPON V TAB. XXXVI

(291) 五大虚空蔵ほか



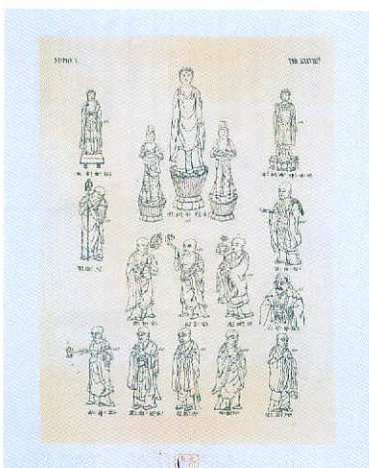
NIPPON V TAB. XXXVII

(292) 十六羅漢



NIPPON V TAB. XXXVIII.a

(293) 善光寺如来ほか



NIPPON V TAB. XXXVIII.b

(294) 十二光仏ほか



NIPPON V TAB. XXXIX

(295) 天狗ほか

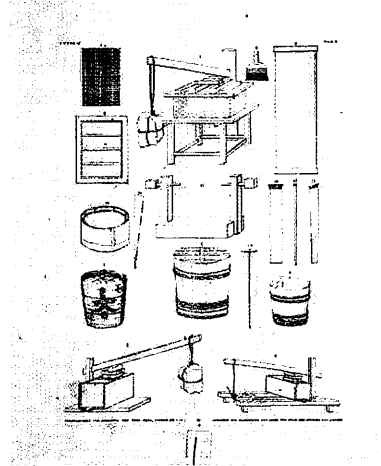


NIPPON V TAB. XL

NIPPON VI. a.

Tab. X. 酒・醤油・紙・漆造りの道具

(331) 酒・醤油・紙などの製造具



NIPPON VI TAB.X.a

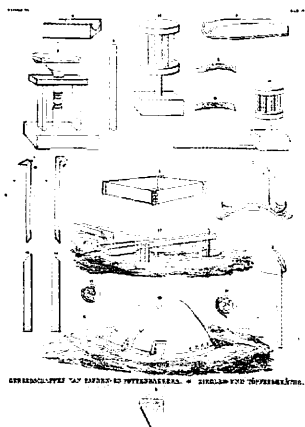
NIPPON VI. b.

Tab. IV. 瓦職人と陶工の道具

Tab. IX. 指物師や大工の道具

Tab. XII. 船

(329) 瓦職人と陶工の道具



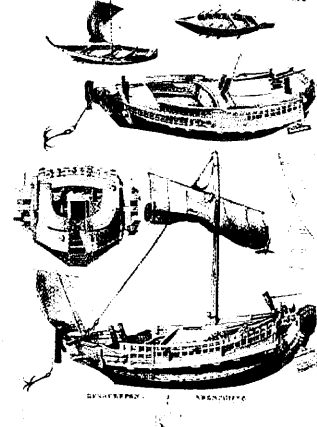
NIPPON VI TAB.IV.b

(330) 大工道具



NIPPON VI TAB.IX.b

(332) 和船



NIPPON VI TAB.XII.b

NIPPON VI. Tab. III. 農家と農業. Tab. VI. 農具. Tab. VII. 農具

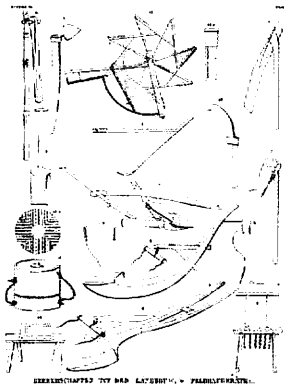
(324) 農具

(325) 農具

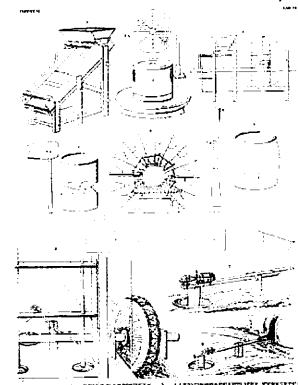
(323) 農家と農業



NIPPON VI TAB.III



NIPPON VI TAB.VI



NIPPON VI TAB.VII

- NIPPON VII. Tab. XVI. アイヌと住居
Tab. XVII. アイヌのオムシャ祭り
Tab. XVIII. アイヌの貢物と商品
Tab. XIX. 蝦夷のアイヌの武器と道具
Tab. XX. 樺太のオロッコとスメレンクルの一族
Tab. XXI. 樺太の衣服
Tab. XXII. 樺太の武器と道具
Tab. XXIII. アイヌ、オロッコとスメレンクルの船
Tab. XXIV. 蝦夷と日本領の千島列島の地図
Tab. XXV. 樺太とマンコー河の河口の地図
Tab. XXVI. ファン・ディーメン海峡とリンスホーテン諸島の地図
Tab. XXVII. 琉球列島の地図, 北の島
Tab. XXVIII. 琉球列島の地図, 真ん中の島
Tab. XXIX. 琉球列島の地図, 南の島

(352) 蝦夷 アイヌと住居



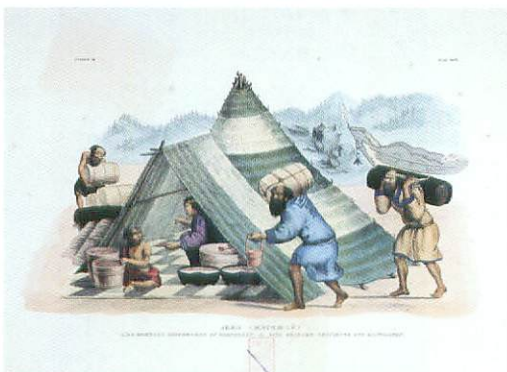
NIPPON VII TAB. XVI

(353) 蝦夷 アイヌのオムシャ祭り



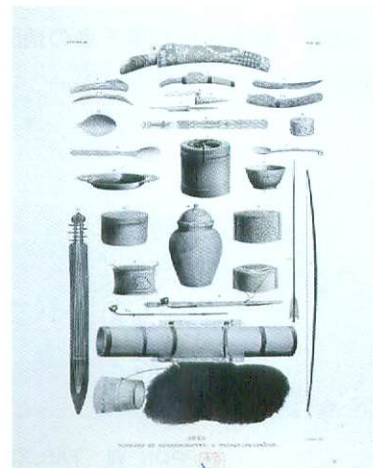
NIPPON VII TAB. XVII

(354) 蝦夷 アイヌの貢物と商品



NIPPON VII TAB. XVIII

(355) 蝦夷 武器と道具



NIPPON VII TAB. XIX

(356) 樺太 オロッコとスメレンクル



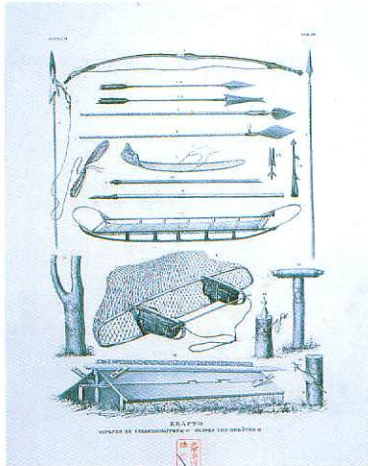
NIPPON VII TAB.XX

(357) 樺太 衣服



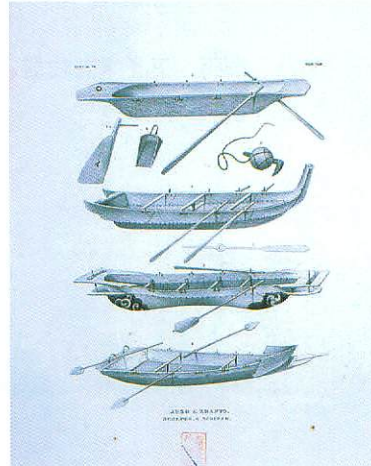
NIPPON VII TAB.XXI

(358) 樺太 武器と道具



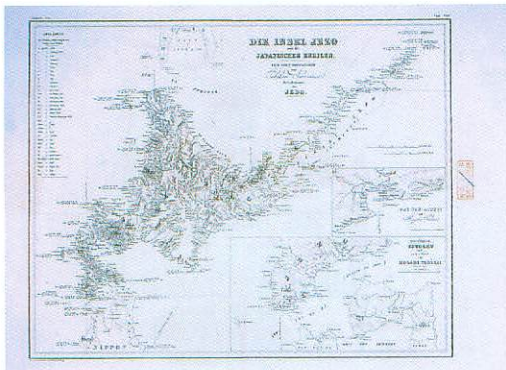
NIPPON VII TAB.XXII

(359) アイヌなどの船



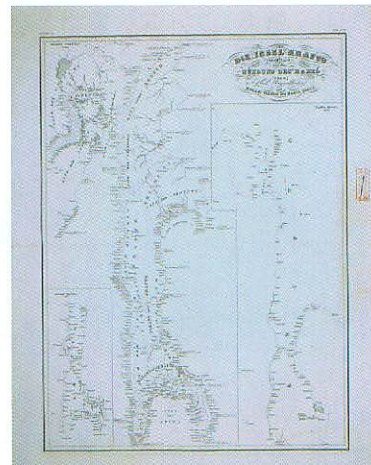
NIPPON VII TAB.XXIII

(360) 蝦夷と日本領千島の地図



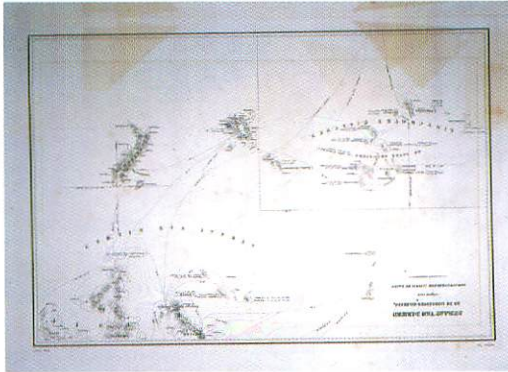
NIPPON VII TAB.XXV (*IV)

(362) 樺太島とマンコー(アムール)河口



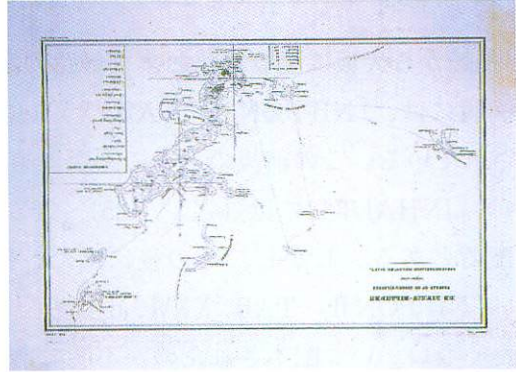
NIPPON VII TAB.XXV

(363) ファン・ディーメン海峡(大隅海峡)ほか



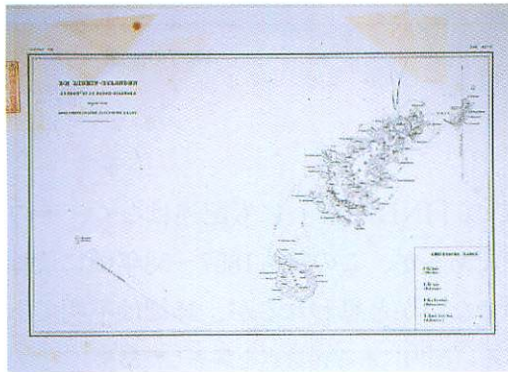
NIPPON VII TAB. XXVI

(365) 琉球列島(中山諸島)



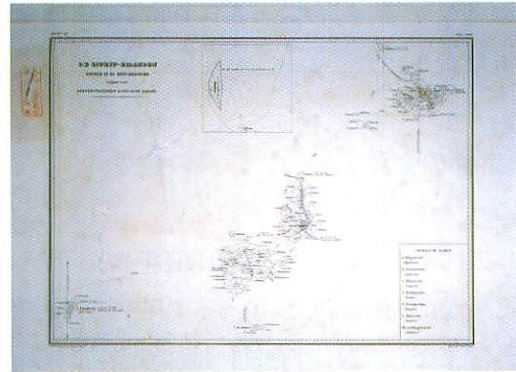
NIPPON VII TAB. XXVIII

(364) 琉球列島(大島)



NIPPON VII TAB. XXVII

(366) 琉球列島(石垣島)



NIPPON VII TAB. XXIX

報告

第17, 18, 19, 20分冊の発行で『日本、日本及びその近隣・保護国に関する資料集』はあと二回の配本で完成です。この最後の二回の配本は1852年中に出版されますが、これには本書の諸編の前に付ける標題紙と、発刊案内で約束したもののよりも100枚多い本文が無料で添付されます。本書で取り扱われる学問的対象が多岐にわたることと、その目的のために我々が日本で募集した資料の豊富さが、我々に紙数自体を増やす気にならせましたし、近年文明世界のうち、航海と貿易に従事する国々の注視的的となっている国についての記述はどうしてもできる限り詳細かつ完全に論述せざるを得ません。この資料集が終わります際、論述とそれに関する図版、地図、一覧表などとの間に、系統的な秩序が与えられるでしょう。予約購読者及び書店各位には、欠落している本文や石版刷図版、地図などについてのご苦情は、それまで何卒ご容赦下さい。

1851年9月 ライデンとボッパード郊外セント・マルチンにて

シーボルト

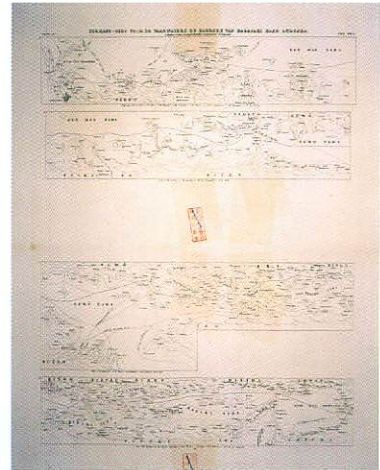
不明の図版

(112) 長崎から大坂に至る水路および針路の案内図

この図版には、「NIPPON II TAB. XXVI. d」の番号が付されている。この前後の番号の図版は第11回配本であり、その「INHALT」には「XXV (25)~XXX (30)」番は次回に配るとある。しかし、その後に「INHALT」において、「NIPPON II TAB. XXVI. d」の配本を示す記述はまったくない。いつ配本されたのか不明であるが、この図版は九大本に含まれている。

「INHALT」では、25~30番を出すことを約束しているが、この番号のなかで出たのは下の「京都の全景」のみである。その他は欠番である。『NIPPON』には、この他にも欠番の図版は少なくない。

長崎から大坂に至る水路
および針路の案内図

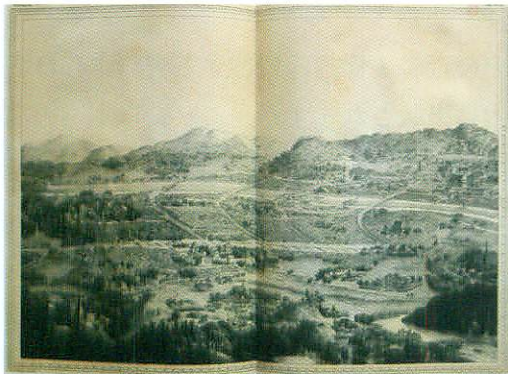


NIPPON II TAB. XXVI. d

(113) 京都の全景・(123) 江戸の全景

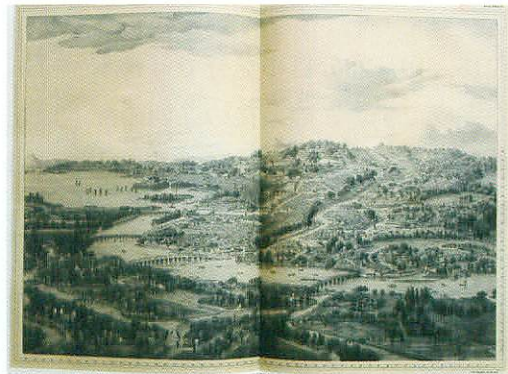
ともに九大本には含まれていない。第13回配本までの「INHALT」にも記述はなく、その後に配られた可能性がある。九大本は1851年の13回配本までであるが、この後も1857~58年頃に琉球等についての記事が配布されており、その時に配布されたのでないかと思われるが、詳細は不明である。この2図を含まない『NIPPON』は少なくないようである（国内にある10数点を調査した結果）。

(113) 京都の全景



NIPPON II TAB. XXVIII

(123) 江戸の全景



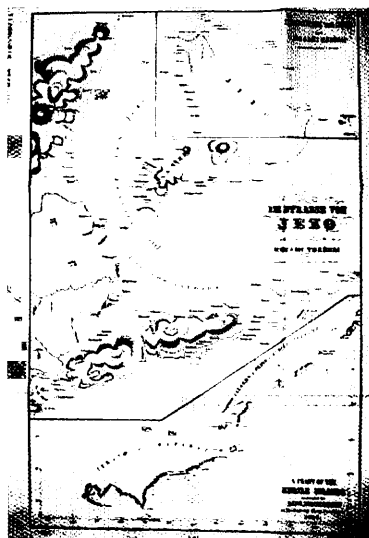
NIPPON II TAB. XXXIX

(ともに福岡県立図書館所蔵本)

(361) 蝦夷海峡一最上徳内の原図による

この地図は「INHALT」に記載がない。また九大本にも含まれていないので、雄松堂刊の『シーボルト日本』から補った。通常、図版には「NIPPON II」「TAB. X」などの番号が隅に記入されているが、雄松堂『シーボルト日本』のこの図にそれらの記号はなく、他の図版と大きく異なっている。現段階では後の課題とせざるを得ない。

蝦夷海峡—最上徳内の原図による



(雄松堂『シーボルト日本』より)